

事務事業及び予算の執行実績

(令和3年度分 一部令和4年度分を含む)

静岡県農林技術研究所
森林・林業研究センター

目 次

1	事務事業の概要	1
(1)	概況	1
①	沿革	1
②	施設概要	7
③	組織図	9
(2)	事務又は事業の目的、計画、実績（成果）及び評価・改善	11
①	総務事務	11
②	試験研究	13
ア	試験研究の推進	13
イ	研修関連業務	39
ウ	研究以外の事業の実績	43
③	肥料検査事業	45
④	病虫害防除所	46
ア	病虫害発生子察業務	46
イ	病虫害防除対策業務	49
ウ	農薬安全使用対策業務	49
エ	病虫害診断業務	50
	主要病虫害の発生概況調	51
(3)	事業の根拠法令調	56
2	職員状況	57
(1)	職員調	57
(2)	職員の年齢調	58
(3)	健康管理	59
(4)	職員配置調	60

3	歳入・歳出予算執行状況調等	63
(1)	歳入予算執行状況調	63
(2)	県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調	67
(3)	保管現金有高調	68
(4)	預金調	69
(5)	郵券等受払調	70
(6)	歳出予算執行状況調	71
(7)	委託料等歳出予算執行状況節別集計表	77
(8)	委託料に関する調	79
(9)	負担金支出調	87
(10)	建築工事調	91
4	公有財産調等	97
(1)	公有財産調	97
(2)	借地借家等調	99
(3)	事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	100
(4)	行政財産貸付・使用許可調	101
(5)	備品・図書調	103
(6)	主要備品調	107
5	試験研究成果一覧表	109

1 事務事業の概要

(1) 概況

①沿革

(農林技術研究所)

- 明治33年5月 安倍郡豊田村曲金（現静岡市駿河区曲金）に静岡県立農事試験場として創設
- 大正11年4月 浜名郡芳川村（現浜松市南区頭陀寺町）の郡立農事試験場が県に移管され、静岡県立農事試験場そ菜部として再発足
- 昭和11年8月 本場を静岡市北安東に移転（平屋建一部二階）
- 15年7月 高冷地試験地を駿東郡御殿場町新橋（現御殿場市新橋）に新設（25年分場と改称）
 - 25年5月 そ菜部を廃止、農業連合会に移管、名称が西遠採種場となる
 - 31年7月 静岡県立農事試験場を静岡県農業試験場と改称
 - 〃 海岸砂地分場を小笠郡浜岡町（現御前崎市）池新田に新設
 - 〃 西遠採種場が県に移管され、遠州園芸分場として再発足
 - 33年4月 三方原田畑輪換試験地を浜松市東三方原町に設置（41年試験完了し閉鎖）
 - 33年8月 高冷地分場を御殿場市御殿場に移転
 - 36年4月 林業試験場伊豆分場（田方郡天城湯ヶ島町）が機構改正により、農業試験場に移管され、名称を農業試験場わさび分場とした
 - 37年3月 本場を改築（鉄筋コンクリート三階建一部二階）
 - 43年4月 東部園芸指導所（田方郡函南町）が機構改正により、農業試験場に移管され、東部園芸試験地と改称した（50年東部園芸試験実証圃、63年東部園芸分場と改称）
 - 44年4月 蚕業センター（静岡市田町）が機構改正により、農業試験場に移管され、名称を農業試験場蚕業部とし、繭検定所を併設（50年3月まで）
 - 〃 西遠農業センター（浜松市都田町）が機構改正により、農業試験場に移管され、名称を農業試験場機械営農部とし、落葉果樹試験地を併設
 - 〃 主要農作物原種農場（掛川市下垂木）が機構改正により、農業試験場に移管され、名称を農業試験場主要農作物試験地とした（63年4月作物部水稻研究に組織替）
 - 47年4月 静岡県肥飼料検査所を本場内に併設（60年3月まで）
 - 48年9月 海岸砂地分場を小笠郡浜岡町（現御前崎市）合戸に移転
 - 51年4月 落葉果樹試験地を柑橘試験場へ移管、機械営農部の茶業部門を茶業試験場三方原試験地へ移管
 - 52年4月 有用植物園が機構改正により、農業試験場に移管され、名称を農業試験場伊豆分場とした（53年伊豆振興センターへ移管）
 - 53年4月 遠州園芸分場を磐田郡豊田町富丘に移転
 - 55年4月 農業試験場本場の移転に先立ち機構を改正し、遠州園芸分場を園芸部、機械営農部を新設の施設部及び機械研修課（管理部）に組織替
 - 55年9月 農業試験場本場を磐田郡豊田町富丘（現在地）に新築移転

- 昭和58年4月 機構改正により、「生物工学研究スタッフ」を設置、管理部総務課及び経理課を統合して総務課に改め、庶務係（3年4月総務係に改称）及び経理係を新設
- 62年4月 機構改正により、伊豆振興センター南伊豆農場が農業試験場に移管され、名称を農業試験場南伊豆分場とした
- 63年11月 機械研修課を浜松市都田町から掛川市下垂木へ新築移転
- 平成元年2月 遺伝資源保存施設完成
- 元年4月 機構改正により、機械研修課を農林短期大学校へ移管、施設部を廃止し、経営調査部を企画経営部に、化学部を土壤肥料部に改称し、生物工学部を新設
- 元年6月 生物工学研究施設完成
- 7年12月 高冷地分場（ほ場を除く）を御殿場市籠の御殿場合同庁舎内に移転
- 8年4月 機構改正により、賀茂、東部、中部、中遠、西部の各病害虫防除所を統合、農業試験場に病害虫防除所を設置
- 8年11月 掛川ほ場を廃止し、水稻研究部門を磐田市三ヶ野の三ヶ野ほ場に移転
- 11年3月 放射線育種研究施設完成
- 12年4月 植物バイオプロジェクトスタッフ（7名）を新設（平成14年度まで）
- 12年10月 農業試験場・農林大学校100周年記念事業実施（公開デー）
- 15年4月 病害抵抗性誘導プロジェクトスタッフ（4名）を新設（平成17年度まで）
- 16年4月 土着天敵プロジェクトスタッフ（4名）を新設（平成18年度まで）
- 17年4月 機構改正により、普及課を廃止
- 18年4月 メロン超低コストプロジェクトスタッフ（3名）を新設（平成20年度まで）
- 19年4月 農業試験場、茶業試験場、柑橘試験場、林業技術センターを統合し、農林技術研究所に再編。南伊豆分場、わさび分場と柑橘試験場伊豆分場を統合し、東伊豆町に伊豆農業研究センターを設立。東部園芸分場、高冷地分場、海岸砂地分場を廃止
管理部を廃止し総務課に、作物部、園芸部を統合し栽培技術部に、土壤肥料部、病害虫部を統合し生産環境部に、生産工学部を新品種開発部とする
環境復元型水田プロジェクトスタッフ（3名）を新設（平成21年度まで）
- 21年7月 伊豆農業研究センター新庁舎竣工。南伊豆ほ場の機能を同センターに集約し、同ほ場を廃止
- 22年4月 組織改正により企画経営部を企画調整部とし、同部内に企画調整班を設置。栽培技術部、生産環境部及び新品種開発部を廃止し、野菜科、花き科、作物科、育種科、経営・生産システム科、品質・商品開発科、植物保護科及び土壤環境科を設置。病害虫防除所内に病害虫班を設置。伊豆農業研究センター内に栽培育種科を設置し、わさび研究拠点をわさび科とする。
農村植生管理プロジェクトスタッフ（4名）を新設（平成24年度まで）
- 24年10月 芝草研究所を設置
- 29年4月 次世代栽培システム科新設
- 30年4月 組織改正により野菜科、花き科、作物科、経営・生産システム科、品質・商品開発科及び、植物保護科を野菜生産技術科、花き生産技術科、水田農業生産技術科、農業ロボット・経営戦略科、加工技術科、植物保護・環境保全科とし、育種科を廃止。土壤環境科を廃止し栄養・機能性科を設置。伊豆農業研究センターの栽培育種科及びわさび科を生育・加工技術科及びわさび生産技術科とする

（茶業研究センター）

- 明治41年4月 県の試験研究機関として「県立農事試験場茶業部」を設置、茶の栽培、製造試験を開始する

- 大正2年4月 茶業部内に練習生制度を設ける（定員6名）
- 昭和12年4月 機構改革により「静岡県立茶業試験場」として独立併せて練習生制度を拡充する（定員10名）
- 15年4月 南伊豆白浜村に紅茶種苗育成地を設置する
- 18年一 第二次大戦の激化に伴い紅茶種苗育成事業を廃止する
- 23年4月 富士市石坂及び浜松市三方原町に、品種適応試験を兼ねた優良品種種苗育成地を設置する
- 25年4月 国の方針により試験研究事業を農林省東海近畿農業試験場茶業部に移管し、県立茶業指導所と改称。富士、三方原種苗育成地を改め富士支所、三方原支所とする
- 32年4月 機構改革に伴い、静岡県茶業試験場となり本場に総務、種芸分析、製茶加工の3課を設け、また、富士、三方原支所を改め分場とする
練習生制度の内容充実を図り茶業技術講習所（定員20名）を設置する
- 37年4月 3課制を廃止し、本場に総務、栽培、化学、製茶加工の4課制とする
- 40年4月 三方原分場を廃止する
茶業技術講習所を茶業専門研修所に改称する
- 43年4月 本場に普及課を設置する
- 44年4月 製茶加工課を製茶課、再製加工課に改め6課制とする
- 45年4月 組織の改正により6課制を廃止、総務課、普及課の2課制とし、試験研究部門を製茶、栽培、環境の3スタッフ制とする
静岡県茶業専門研修所を静岡県立茶業専門研修所に改める
- 49年4月 県立農業短期大学校新設に伴い、茶業専門研修所を同大学校茶業学科と改め、当試験場に併設する
- 51年4月 機構改革により農業試験場機械営農部茶部門を改め、三方原試験地とする
- 54年3月 機構改革により三方原試験地を廃止する
- 55年4月 経営山間地研究スタッフを加える
県立農業短期大学校茶業学科を県立農林短期大学校茶業分校と改称する
- 58年4月 試験研究部門を栽培研究室、環境研究室、製茶研究室、経営山間地研究室に改める
- 59年4月 経営山間地研究室を山間地研究室に改める
- 60年4月 本場に経営研究室を新設し、山間地研究室を改め、榛原郡中川根町に山間地技術センターを設置する
- 61年4月 経営研究室を新製品研究室に改める
- 平成2年4月 栽培・環境研究室を栽培・育種・病害虫研究室に改める
- 8年4月 先進的茶業経営モデル事業の推進のため、実証ほ場担当研究スタッフを設置し、山間地技術センターと併せ実証ほ・山間地技術センターに改める
- 9年4月 試験研究部門を栽培研究、育種研究、製茶研究、病害虫研究、新製品研究、実証ほ・山間地研究の6スタッフ制に改める
- 10年3月 榛原町仁田に茶業試験場実証ほ場が完成する
- 10年4月 製茶研究、新製品研究を製茶・新製品研究に改める
- 11年4月 県立農林短期大学校茶業分校を県立農林大学校茶業分校と改称する
- 12年4月 摘採ロボットプロジェクトスタッフを設置（平成14年度まで）し、育種研究と実証ほ・山間地研究を併せ育種・実証ほ研究に改める
- 13年4月 栽培研究を土壌肥料研究と栽培・育種研究に分割し、育種・実証ほ研究を栽培・育種研究に

改める

- 平成15年4月 栽培・育種研究を栽培研究と育種研究にする
- 17年4月 本場、普及課を廃止する
- 19年3月 仁田実証ほ場（7号ほ場を除く）を用途廃止後、空港部へ所属替えを行う
- 19年4月 茶業試験場、農業試験場、柑橘試験場、林業技術センターを統合し、農林技術研究所に再編
新粉末緑茶プロジェクトスタッフ（3名）を新設（平成21年度まで）
茶業試験場は農林技術研究所茶業研究センターとなり、富士分場を廃止する
- 20年3月 仁田実証ほ場（7号ほ場）を用途廃止し、空港部へ所属替えを行う
- 20年11月 茶業研究センター創立100周年記念式典及び記念行事を挙げる
- 22年4月 組織改正により栽培育種科、生産環境科及び商品開発科を設置
- 24年8月 発酵茶ラボを開設する
- 30年4月 組織改正により茶生産技術科、茶環境適応技術科及び製茶加工技術科を設置
- 30年11月 茶業研究センター創立110周年記念式典及び記念行事を挙げる
- 令和2年4月 組織改正により製茶加工技術科を新商品開発科に改称
- 5年4月 発酵茶ラボを拡充、食品等加工機器を導入し、新たにChaOIファクトリーを開設

（果樹研究センター）

- 昭和15年4月 清水市駒越に柑橘試験場創設
- 16年4月 農業試験場病害虫研究所（沼津市内浦）の閉鎖と共に本場に業務移管
- 22年4月 本場機構整備により庶務会計、栽培、育種、病害虫、化学加工、練習生養成の6部門を設定
- 23年2月 浜松市葵町に西遠果樹分場創設
- 23年5月 賀茂郡城東村（現・東伊豆町）奈良本に伊豆分場創設
- 25年4月 引佐郡三ヶ日町に三ヶ日母樹園開設
- 30年11月 練習生養成部門を柑橘技術講習所として昇格併設
- 32年4月 本場機構を改め、総務、栽培化学、柑橘保護の3課制を設定
- 36年4月 本場機構一部改正により栽培化学課を栽培、化学の2課に分立
- 40年4月 柑橘技術講習所を柑橘専門研修所に改称
- 40年4月 柑橘試験場西遠果樹分場が組織改正により西遠農業センター果樹科と改称
- 40年7月 伊豆分場を東伊豆町稲取字上野に改築移転
- 43年3月 伊豆分場本館並びに付属施設の完成に伴い竣工式を挙げる
- 43年4月 試験場機構を改め普及課を新設
- 43年12月 三ヶ日母樹園施設整備のため、本館、付属施設の工事着工
- 44年10月 本場のほ場整備工事着工
- 44年11月 三ヶ日母樹園の本館、付属施設の完成に伴い竣工式を挙げる
- 45年4月 研究課制廃止によりスタッフ制となる
- 45年11月 本場の整備拡充事業の完成に伴い竣工式を挙げる
- 47年9月 北山にほ場を開園
- 48年11月 設立委員と関係者を招集して収穫祭を挙げる
- 49年2月 天皇・皇后両陛下下行幸啓
- 49年4月 三ヶ日母樹園が西遠分場に昇格

- 49年4月 柑橘専門研修所を県立農業短期大学校柑橘学科に改称
- 昭和50年12月 皇太子・同妃殿下行啓
- 51年4月 農業試験場落葉果樹試験地が機構改正により、柑橘試験場落葉果樹試験地となる
- 55年4月 県立農林短期大学校果樹分校が設置される
- 62年4月 柑橘試験場落葉果樹試験地を柑橘試験場落葉果樹分場に改称
- 62年11月 落葉果樹分場本館並びに付属施設の改築移転
- 平成 2年11月 柑橘試験場設立50周年記念式典及び記念行事を挙行
- 11年4月 県立農林短期大学校果樹分校を県立農林大学校果樹分校に改称
- 13年4月 みかん光センサープロジェクトスタッフを新設（平成15年度まで）
- 17年3月 機構改正により、普及課を廃止
- 17年4月 樹園地環境負荷軽減プロジェクトスタッフを新設（平成19年度まで）
- 19年4月 柑橘試験場、農業試験場、茶業試験場、林業技術センターを統合し、農林技術研究所に再編
柑橘試験場は農林技術研究所果樹研究センターに、落葉果樹分場は農林技術研究所果樹研究センター落葉果樹研究拠点として存置、伊豆分場を伊豆農業研究センターとし、西遠分場を廃止
- 21年4月 リン資源循環プロジェクトスタッフ（3名）を新設（平成23年度まで）
- 22年4月 組織改正により栽培育種科及び生産環境科を設置。落葉果樹研究拠点を落葉果樹科とする
- 22年10月 果樹研究センター70周年研究成果発表会を開催
- 27年10月 耐震性能が不足する果樹研究センター（静岡市清水区駒越西）と落葉果樹科（浜松市北区都田町）を統合し、静岡市清水区茂畑地区の県営畑総事業地内の創設非農用地（現在地）へ庁舎移転
- 30年4月 農林技術研究所の研究科体制再編成により、栽培育種科、生産環境科及び落葉果樹科を、果樹生産技術科、果樹環境適応技術科及び果樹加工技術科に改称

（森林・林業研究センター）

- 昭和28年 健全で生産性の高い森林を造成するため、優良種苗の確保と林木の品種改良を目指した林業に関する試験研究機関の設置の気運が高まり、建設計画が表面化
- 30年4月 2ヵ年計画をもって、林業試験場建設に着手。総工費3,000万円
- 32年3月 「静岡県林業試験場規程」（静岡県訓令第3号）の制定
- 32年4月 浜北市於呂（現在地）に「林業試験場」発足。3課1分場（庶務課、育種課、経営課、及び上狩野分場）
- 36年4月 上狩野分場は農業試験場に移管（わさびの研究は農業試験場へ移管、椎茸の研究は林業試験場本場で引き継ぐ）
- 39年4月 庶務課を総務課に組織替え
- 43年4月 育種課を育林課に組織替え
- 44年4月 林業機械化指導所を川根分場と改称
- 45年4月 研究分野の課制廃止に伴い、育林、経営、普及の3スタッフ制となる
- 47年4月 川根分場を金谷林業事務所に移管
- 60年6月 時代に即した林業試験研究機関の“あるべき姿”を検討するため「林業試験研究体制整備検討委員会」を設置
- 60年10月 同委員会より、「静岡県林業技術センター（仮称）構想について」提言
- 61年4月 提言に基づき、基本設計及び実施設計作成に着手、事業費42,500千円

- 62年4月 新庁舎の整備に着手。事業費1,517,850千円
- 昭和63年4月 静岡県行政組織規則の改正に伴い、「静岡県林業技術センター」と改称
- 平成7年4月 静岡県行政組織規則の改正に伴い、「きのこ総合センター」を東部農林事務所から移管
- 12年4月 研究需要の多様化に対応するため、機能性炭化物プロジェクトスタッフを新設（平成14年度まで）
- 19年4月 林業技術センター、農業試験場、茶業試験場、柑橘試験場を統合し、農林技術研究所に再編
林業技術センターは農林技術研究所森林・林業研究センターとなる。きのこ総合センターは東部農林事務所に移管
広葉樹遺伝子プロジェクトスタッフを新設（平成21年度まで）
- 22年4月 組織改正により森林育成科及び木材林産科を設置
ニホンジカ低密度化プロジェクトスタッフ（4名）を新設（平成24年度まで）
- 29年11月 森林・林業研究センター60周年記念講演会を開催
- 30年4月 組織改正により木材林産科を森林資源利用科とする

②施設概要

◎農林技術研究所本所 (加茂・三ヶ野を含む)

				(単位:㎡)
土地	施設用地			7,370.98
	圃場			71,479.00
	その他(駐車場ほか)			137,537.83
<hr/>				216,387.81
建物	本館	鉄筋コンクリート造3階		3,578.09
	資料館	鉄筋コンクリート造1階		1,214.28
	旧庁舎	軽量鉄骨造1階		549.85
	生物工学研究施設	鉄筋コンクリート造2階		558.00
	三ヶ野圃場管理研究棟	重量鉄骨造1階		864.00
	その他(車庫、準備室ほか)			3,312.01
<hr/>				10,076.23

○伊豆農業研究センター (大久保試験地を含む)

				(単位:㎡)
土地	施設用地			829.84
	圃場			33,639.00
	その他(駐車場ほか)			74,982.02
<hr/>				109,450.86
建物	本館	重量鉄骨造2階		547.56
	管理舎	重量鉄骨造1階		175.85
	その他(車庫、堆肥舎ほか)			372.96
<hr/>				1,096.37

○わさび生産技術科

				(単位:㎡)
土地	施設用地			243.41
	圃場			4,299.00
	その他(駐車場ほか)			42.89
<hr/>				4,585.30
建物	庁舎	軽量鉄骨造2階		357.72
	作業舎兼倉庫	木造1階		59.63
<hr/>				417.35

◎茶業研究センター

				(単位:㎡)
土地	施設用地			4,526.80
	圃場			31,000.00
	その他(駐車場ほか)			22,455.66
<hr/>				57,982.46
建物	仮設事務所棟(リース)	プレハブ造2階		184.42
	仮設研究棟(リース)	プレハブ造1階		82.36
	新製品研究棟	鉄筋コンクリート造2階		825.00
	新製品開発実験棟	鉄骨鉄筋コンクリート造1階		1,134.00
	製茶技術研究棟	鉄骨鉄筋コンクリート造1階		890.33
	その他(作業舎、車庫ほか)			893.56
<hr/>				4,009.67

◎果樹研究センター

(単位:㎡)

土地	施設用地		10,470.00
	圃場		32,513.00
	その他(駐車場ほか)		10,921.00
			<hr/>
	※静岡市から無償借受		53,904.00
建物	庁舎	重量鉄骨造2階	2,162.40
	農機具保管庫	軽量鉄骨造1階	536.89
	車庫	軽量鉄骨造1階	230.48
	貯蔵庫	木造モルタル造1階	74.52
	その他(堆肥舎、油庫ほか)		167.11
			<hr/>
			3,171.40

○旧駒越圃場

(単位:㎡)

土地	施設用地跡地		2,366.74
	圃場跡地		44,576.94
	その他(駐車場跡地ほか)		23,372.71
			<hr/>
			70,316.39

○旧都田圃場

(単位:㎡)

土地	圃場跡地		13,172.89
			<hr/>
			13,172.89

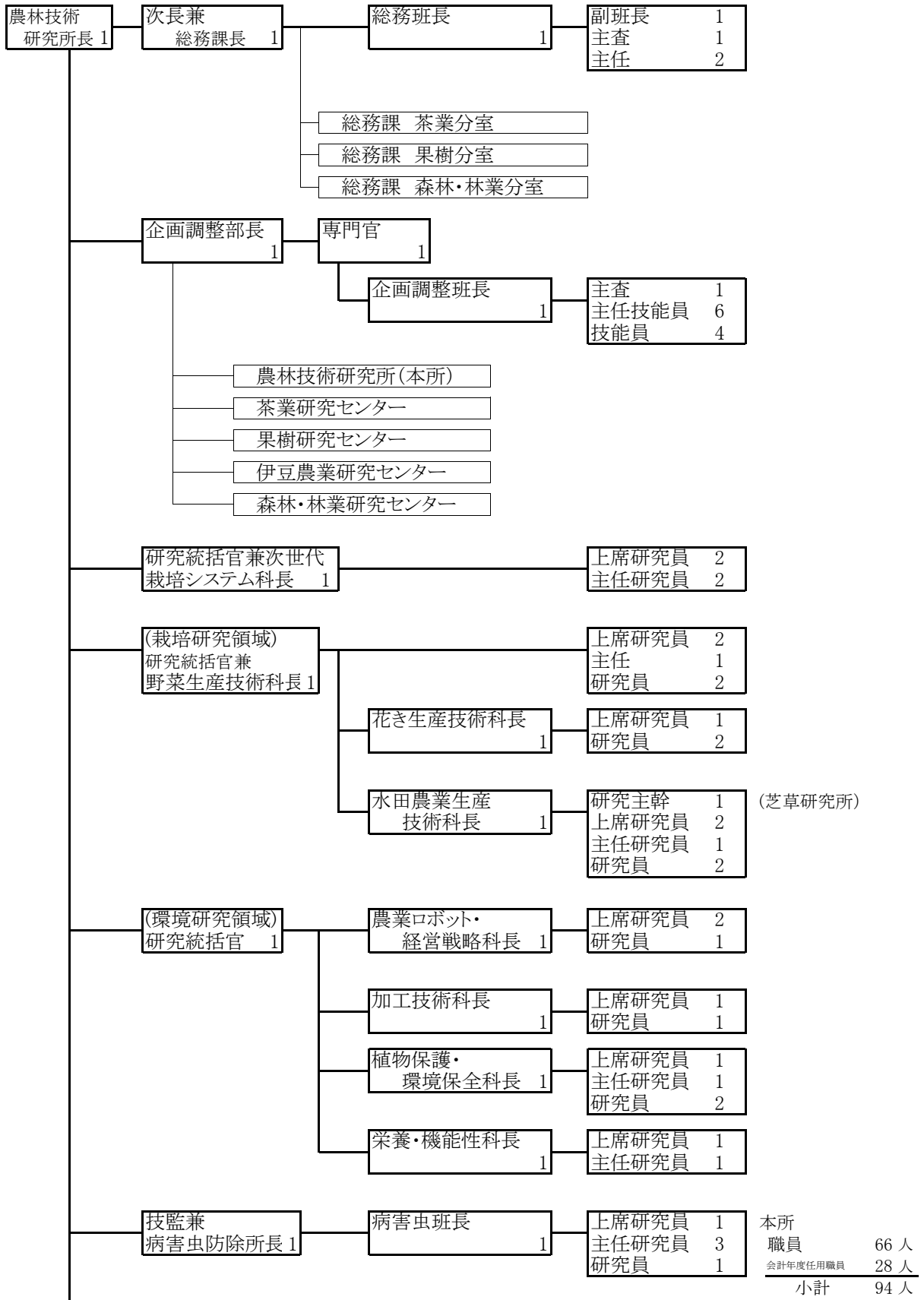
◎森林・林業研究センター

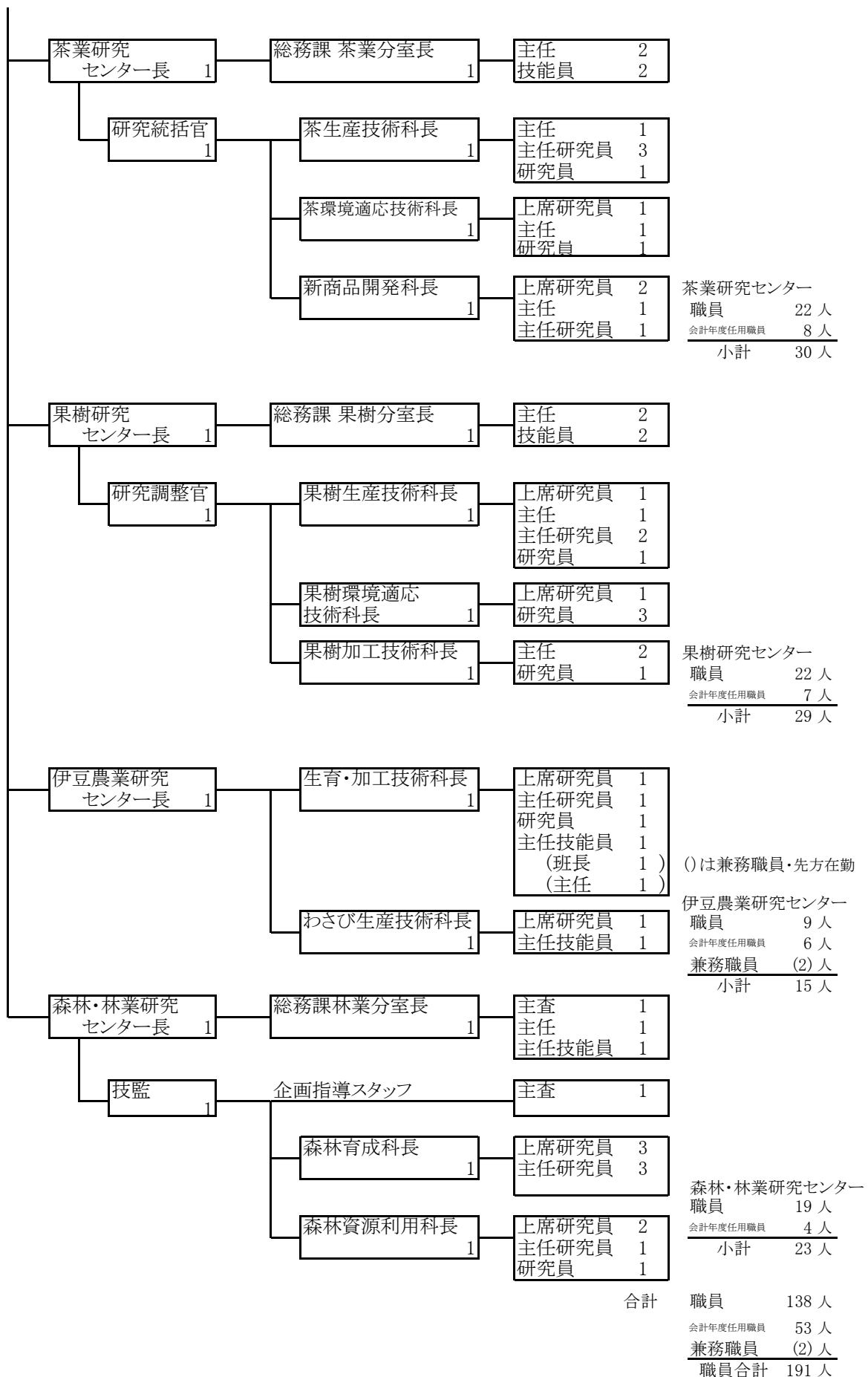
(単位:㎡)

土地	施設用地		4,088.37
	苗畑		6,578.00
	森の科学園		7,835.00
	その他(駐車場ほか)		40,644.59
			<hr/>
			59,145.96
建物	本館	木造2階	989.34
	研究棟	鉄筋コンクリート造2階	1,330.10
	木材実験棟	木造1階	349.70
	機械実験棟	木造1階	285.00
	森の科学館	木造1階	214.90
	その他(車庫ほか)		921.30
			<hr/>
			4,090.34

③ 組織図

(令和5年4月1日現在)





()は兼務職員・先方在勤

(2) 事務又は事業の目的、計画及び実績（成果）並びに評価（課題等）及び改善

①総務事務

ア 組織及び人事管理

農林技術研究所の組織は、本所（1課、1部、8科、1所）、茶業研究センター（1分室、3科）、果樹研究センター（1分室、3科）、伊豆農業研究センター（2科）、森林・林業研究センター（1分室、1スタッフ、2科）で構成され、令和5年4月1日現在の職員数は本所94名、茶業研究センター30名、果樹研究センター29名、伊豆農業研究センター15名、森林・林業研究センター23名である。（いずれも兼務職員を除き、会計年度任用職員を含む。）

職員の配置及び事務分担については、担当する事業量、職員の経験・能力・専門性等を考慮し、適材適所の配置に努めている。

イ 綱紀の保持と交通事故防止

綱紀の保持については、職員に対して所内連絡会議などを通じてコンプライアンスの周知徹底を図るとともに、ミーティングでの事例検討等により職員の意識向上に努めている。

安全運転の徹底（交通事故防止）については、本所及び各センターにおいて、所属職員に対して交通安全の呼び掛け、交通安全講習会の開催など、日頃から様々な機会を通じて職員一人ひとりの安全意識の高揚に努めている。

ウ 健康管理

職員の健康管理については、定期健康診断、人間ドック、成人病検診等の健康診断の受診はもとより、VDT作業従事者検診、腰痛検診等の特別健康診断や健康指導課の健康相談についても積極的に受診するよう指導するとともに、健康管理区分に基づく事後指導についても積極的に参加できるよう配慮し、職員が自らの健康管理に努めるよう指導している。

また、本所では衛生委員会を設置するとともに、各センターでは衛生担当者が中心となり、職員の健康保持と職場の作業環境の改善に努めている。

さらに、日頃から職員がスポーツする機会を整え、球技大会に積極的に参加できるよう配慮するなど、体力づくりとともに職場におけるコミュニケーションの向上に努めている。

エ 職員研修

職員が各種研修会、講習会及び学会等の機会に参加できる環境づくりに努め、職員の資質、知識・技術の向上を図っている。

オ 予算経理及び財産管理

予算執行については、正確かつ迅速な事務処理に努めるとともに、財務規則を遵守した適正な会計事務の執行を図るように留意している。

また、物品・財産管理についても、適切な維持管理に努め、有効活用を図っている。

[評価（課題等）及び改善]

・交通事故防止

令和5年度においては、通勤途上での交通事故の抑止を図るとともに、引き続き職員の交通安全意識の徹底のため、セーフティーチャレンジラリーの参加や安全運転啓発の呼び掛け等の活動を通して、運転時の交通安全に関する責任と自覚を促し、公務内外での無事故・無違反の達成を目指す。

・労働安全衛生

公務災害（通勤災害を含む）は、令和5年度も労働災害ゼロを目標として取り組み、安全衛生意識の徹底を図る。具体的には、試薬・農薬等の保管状況の点検、農機具操作安全講習会の実施等を通して、現場の実情に応じた安全対策を実施し、労働安全の確保に努める。

職員の健康管理については、健康診断の受診の徹底を図るとともに、心の健康についても職場内でのストレスの緩和に充分配慮し、加えて職員が相談しやすい雰囲気を整え、誰もが働きやすい職場を目指して環境整備を進める。

さらに、時間外勤務の縮減を目指し、職員に対して効率的な業務執行を呼び掛けると同時に、休暇取得の促進を通じて、健康管理の増進に努めていく。

②試験研究

ア 試験研究の推進

(ア) 試験研究基本方針

農林業を取り巻く社会経済情勢や農林業生産構造等の変化に対応し、経済産業ビジョンの目標を達成するため、農林業技術開発に対するニーズが一層多様化・高度化する中で、目標を明確にして技術開発を推進する。

試験研究の基本戦略

戦略推進のポイント

- 社会変化に伴う新たな課題を解決する研究開発・社会実装への貢献
- 新しい価値を創造するオープンイノベーションによる研究の一層の推進
- 技術革新を支える人材の育成や研究資源の活用等のマネジメントの強化

⇒

試験研究の重点方向

1 イノベーションを促進する「研究開発」

本県産業のイノベーションを促進する研究開発に注力

- ・デジタルや脱炭素などの新たな政策課題や成長分野（スマート農林業等）の研究領域に積極的に取り組み、その成果を社会実装等
- ・プロジェクト型研究「新成長戦略研究」を中心にオープンイノベーションによる研究を強力に推進

2 地域産業を持続的に支える「技術支援」

各研究所のコア技術や設備を活用した技術支援により地域産業の持続的発展に貢献

- ・現地指導に当たる農林事務所、団体等と連携した新商品開発、6次産業化支援等

3 安全・安心な県民生活に貢献する「調査研究」

環境、衛生、医療分野など安全・安心な県民生活に貢献する調査研究を強化

- ・土壌炭素やスギ花粉着花量のモニタリングの実施等

農林技術研究所の重点取組

⇒

①スマート農林業の社会実装に向けた革新的生産技術の開発

- スマート農林業・DXを加速する技術開発
 - ・AI、ロボット等の先端技術を活用した施設園芸における高度環境制御技術や果樹園、茶園、森林などにおける省力生産技術の開発
- 生産力強化に向けた革新的栽培技術の開発
 - ・イチゴの多収化を支援するスマート栽培管理システムの開発
- 林業イノベーションの促進

⇒

②マーケットインに応える新商品開発による静岡農林水産物のブランド化強化

- スマート育種システムの開発及びオリジナル品種育成
 - ・スマート育種システムによる茶、イチゴ、ワサビの育種期間の短縮
- 農林産物の機能性強化等の付加価値向上技術の開発
 - ・機能性成分の探求や機能性成分を高める栽培加工技術の研究
- 木材製品の加工、利用における製品化の支援

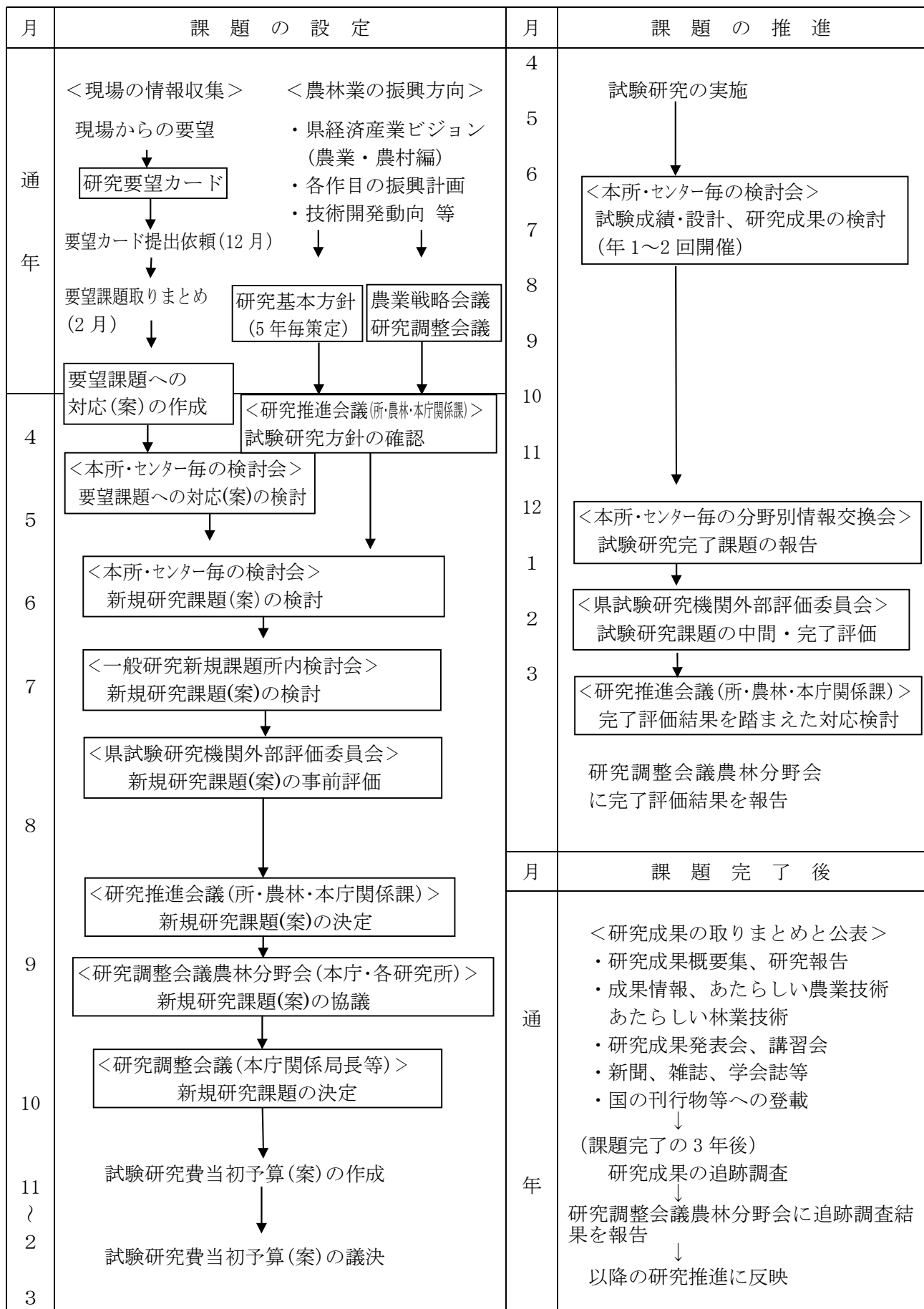
⇒

③気候変動・脱炭素等の環境に配慮した持続可能な農林業の推進

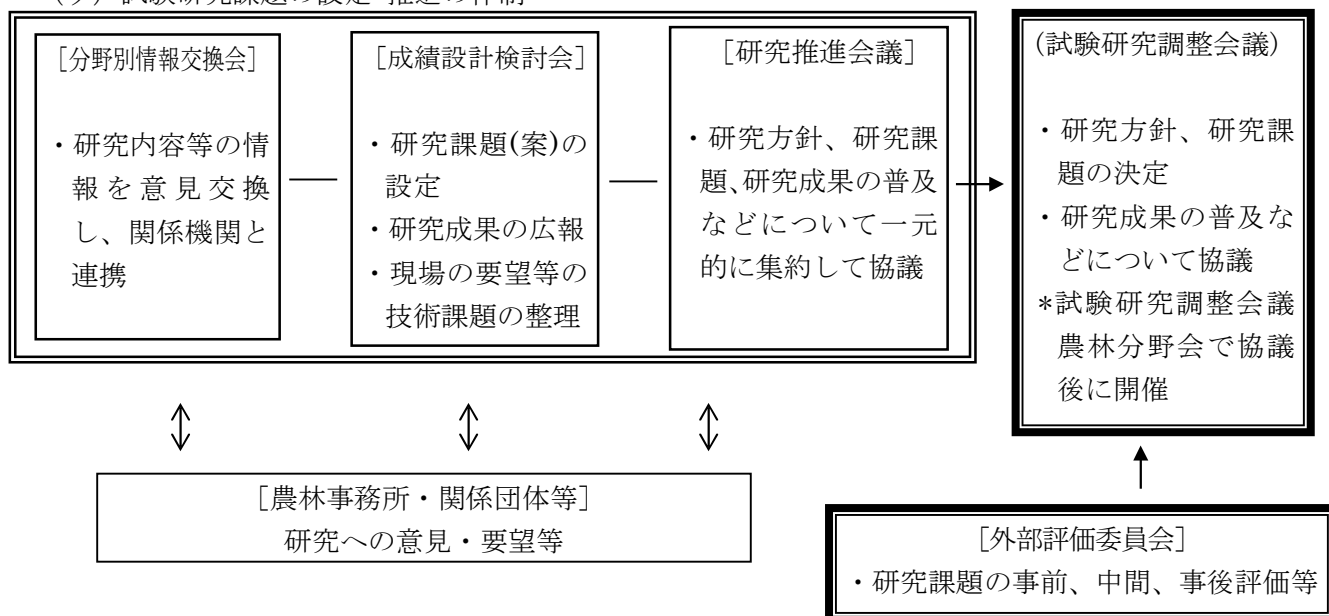
- 環境にやさしい持続的な農林業を促進する技術開発
 - ・家畜たい肥や食品残渣等の未利用資源を活用した環境保全型農業技術の開発
- 気候変動への対応、脱炭素社会の実現に貢献する研究開発
 - ・温暖化による農林産物への影響を軽減する耐暑性品種の育成
- 県内主要農耕地の土壌炭素モニタリング

※技術支援及び事業的業務は除く

(イ) 試験研究課題の設定・推進の流れ



(ウ) 試験研究課題の設定・推進の体制



[分野別情報交換会]：本所・各センターの開催（生産者、関係JA等）

[成績設計検討会]：本所・各センターの開催、本庁関係課、農林事務所の参加

[研究推進会議]：所長、各センター長・企画調整部長・研究統括官・技監、本庁関係課、各農林（計28名）

(試験研究調整会議)：本庁関係局長等

(試験研究調整会議農林分野会)：本庁農業局長・森林・林業局長・関係課長等

[県試験研究機関外部評価委員会]：研究評価委員（知事が委嘱する外部評価委員15名、うち農林技術研究所担当は3名）

(エ) 試験研究課題の状況

a. 研究要望と研究採択

年度 注1)	部門	研究要望数	研究要望 処理数 ^{注2)}	研究採択数 注3)	採択率(%) 注4)
4	農業一般	52	97	40	41
	伊豆農業	5	6	5	83
	茶業	27	47	29	62
	果樹	32	56	30	54
	森林・林業	26	46	20	44
	計	142	252	124	49
5	農業一般	54	88	31	35
	伊豆農業	9	11	5	45
	茶業	17	32	26	81
	果樹	33	58	35	60
	森林・林業	34	70	20	29
	計	147	259	117	45

注1) 年度は、新規課題開始年度を表示

2) 1研究要望に複数の研究要望が含まれるため、研究要望処理は研究要望数より増加する

3) 採択数は、新規課題及び既存課題対応の合計

4) 採択率は、採択数/研究要望処理数×100(%)として算出

b. 試験研究課題数

(a) 所属別研究課題数

所 属	令和4年度			令和5年度		
	継続	新規(要望)	計	継続	新規(要望)	計
本所	15	12	27	16	7	21
茶業研究センター	8	5	13	7	4	11
果樹研究センター	9	1	10	6	4	10
伊豆農業研究センター	7	3	10	8	1	9
森林・林業研究センター	8	6	14	10	2	12
計	47	27	74	45	18	63

※本所、センター間の重複課題を含む

(b) 作目別研究課題数

作 目	令和4年度			令和5年度		
	継続	新規(要望)	計	継続	新規(要望)	計
作物	1	0	1	1	0	1
野菜	7	7	14	10	2	12
花き	2	2	4	4	1	5
茶業	8	5	13	7	4	11
果樹	9	1	10	8	5	13
農業関係共通	12	6	18	3	5	8
森林・林業	8	6	14	11	2	13
計	47	27	74	44	19	63

(c) 基本方向別研究課題数

令和4年度		令和5年度	
基本方向	計	基本方向	計
スマート農林業の社会実装に向けた革新的生産技術の開発	19	スマート農林業の社会実装に向けた革新的生産技術の開発	17
マーケットインに応える新商品開発による静岡農林産物のブランド力強化	30	マーケットインに応える新商品開発による静岡農林産物のブランド力強化	24
気候変動・脱炭素等の環境に配慮した持続可能な農林業の推進	25	気候変動・脱炭素等の環境に配慮した持続可能な農林業の推進	22
計	74	計	63

c. 新成長戦略研究一覧（令和4年度）

(a) 通常研究

研究課題名（研究期間）	機 関	研究員数
1. 気候変動に対応した超晩生温州みかんの早期普及とみかん産地静岡の生産力強化（2-6）	果樹研究センター	9人
2. 茶販売額を倍増する「静岡県ドリンク向け茶生産システム」の開発（2-4）	茶業研究センター	13人
3. 世界市場に向けた新時代の「静岡茶アクティブ有機栽培技術」R&D（2-4）	茶業研究センター	10人
4. 首都圏へ供給拡大!!イチゴ生産を革新する「超促成」「超多収」「高収益」システムの確立（3-5）	農林技術研究所	18人
5. チャ・イチゴ・ワサビの次世代戦略品種育成に向けた「スマート育種」システムの構築（4-8）	茶業研究センター 農林技術研究所 伊豆農業研究センター	12人
6. カーボンニュートラルの実現に向けた新たな森林経営モデルの開発～早生樹による荒廃農地等の活用～（4-6）	森林・林業研究センター 農林技術研究所	4人

(b) チャレンジ研究

研究領域拡大のためチャレンジ性の高い研究を実施し、研究力を高め、幅広い政策課題を実施する。

研究課題名（単年度）	機 関	研究員数
1. イチゴの8月出荷に向けた品質低下を一か月以上抑える長期貯蔵技術の開発	農林技術研究所	1人
2. 転流促進条件を利用したトマトの光合成最大化による多収生産技術の開発	農林技術研究所	1人
3. スマートフォン型測定器による簡易的な丸太のヤング係数および製材の含水率変動測定方法の開発	森林・林業研究センター	2人

[評価・改善]

- ・ 本県農林業の新たな成長に貢献するため、産学官民が連携し、重点的な研究活動を行った。
- ・ 農林業者、関係団体、行政等から研究ニーズに関する情報収集を積極的に行い、新成長戦略研究につながる研究課題を探索し設定に努めた。
- ・ 今後も、政策課題に対応した研究課題を設定するため、準備段階から行政機関・大学・民間等から情報を集めるとともに、連携を強化していく。

d. 国庫関連等外部資金研究課題一覧（令和4年度）

事業の種類	研究課題名（研究期間）	担当部署
国庫交付金事業	1. AOIプロジェクトを加速化する革新的栽培技術の開発（4-8） 2. 大型施設に対応したメロンのウイルス病と媒介虫の総合防除法の開発（元-4） 3. 気候変動に対応した新たなチャ病害防除技術の確立（4-6） 4. チャノミドリヒメヨコバイの薬剤感受性と有効薬剤の選抜（4-6） 5. 多彩で魅力あふれるしずおかオリジナル果樹品種の育成と適応性検定（3-7） 6. カンキツ害虫の薬剤抵抗性管理体系の確立（3-5） 7. 静岡県産シイタケ等の付加価値向上技術の開発（4-8） 8. 林業現場の作業状況モニタリング技術の開発（3-5）	次世代栽培システム科 植物保護環境保全科 茶研セ 茶環境適応技術科 茶研セ 茶環境適応技術科 果研セ 果樹環境適応技術科 果研セ 果樹環境適応技術科 森研セ 森林資源利用科 森研セ 森林資源利用科
国庫委託事業	9. 有機栽培茶園用除草機の開発（2-4） 10. 農産物の成分特性の解明及び機能性の維持・増強技術と素材の開発（2-4） 11. 施設花きの複合環境制御による安定生産および日持ち性向上技術の確立（4-6） 12. 害虫吸引ロボットと天敵を利用した大規模施設トマトのコナジラミ防除体系の開発（4-6） 13. 県内主要農耕地の土壌環境及び土壌炭素モニタリング調査（元-5） 14. 籾殻燃焼灰の畑地利用に関する効果の解明（4-5） 15. 静岡の香りに特色のある茶の品質評価・香味改善に関する研究（29-4） 16. 高品質茶生産拡大のための適期被覆技術体系の確立（元-5） 17. 茶のスマート有機栽培技術体系の開発と現地実証試験（4-6） 18. 温州みかんの双幹形樹形による栽培管理作業の省力技術の開発（3-7） 19. ドローン等の先端技術を活用したカンキツ管理効率化技術の開発（30-4） 20. 異常気象に対応する落葉果樹の新たな栽培技術の開発（4-6） 21. 多彩で魅力あふれるしずおかオリジナル果樹品種の育成と適応性検定（3-7） 22. 多様な販売形態に活用できる果樹新品種の育成・選抜と早期成園化技術の開発（3-7） 23. 低コスト育林体系技術の構築に関する研究（30-4）	茶研セ 茶環境適応技術科 農業ロボット・経営戦略科 加工技術科 花き生産技術科 植物保護環境保全科 栄養・機能性科 栄養・機能性科、農業ロボット・経営戦略科 茶研セ 新商品開発科 茶研セ 茶生産技術科、茶環境適応技術科 茶研セ 茶生産技術科、茶環境適応技術科 果研セ 果樹生産技術科 果研セ 果樹環境適応技術科 果研セ 果樹加工技術科 果研セ 果樹生産技術科 伊豆セ 生育・加工技術科 森林セ 森林育成科

[評価・改善]

- ・国等の競争的資金に積極的に応募し、研究予算の確保に努めた。
- ・外部資金獲得のための情報収集、研究機関同士の連携強化に努めた。
- ・今後も、国等の競争的資金を積極的に活用し、研究予算の確保を図っていく。

e. 共同研究課題一覧（令和4年度）

共同研究課題名（研究期間）	担当部署	共同研究機関
1. A O I プロジェクトを加速化する革新的栽培技術の開発（4-8）	本所 次世代栽培システム科	・山本電機株 ・(有)石井育種場 ・(株)まえばー
2. 有機栽培茶園用除草機の開発（2-4）	本所 農業ロボット・経営戦略科 茶業研究センター茶環境適応技術科	農研機構果樹茶業研究部門、(株)寺田製作所
3. 突然変異育種等を活用した黄色輪ギク品種の育成（4-8）	本所 花き生産技術科	静岡大学
4. 大型施設に対応したメロンのウイルス病と媒介虫の総合防除法の開発（元-4）	本所 植物保護・環境保全科	小林製袋産業(株)
5. 県内主要農耕地の土壌環境及び土壌炭素モニタリング調査（元-5）	本所 栄養・機能性科	農研機構農環研、北海道、青森県他
6. 野菜におけるコスト低減可能な粒状牛ふん堆肥活用技術の開発（2-4）	本所 栄養・機能性科	富士見工業(株)、畜産技術研究所
7. カーボンニュートラルの実現に向けた新たな森林経営モデルの開発～早生樹による荒廃農地等の活用～（4-6）	本所 栄養・機能性科 森林・林業研究センター森林育成科	フォレストエナジー(株)、(株)ハヶ代造園
8. 荒茶販売額を倍増する「静岡型ドリンク向け茶生産システム」の開発（2-4）	本所 農業ロボット・経営戦略科、茶業研究センター 新商品開発科、茶生産技術科、茶環境適応技術科	カワサキ機工(株)、(株)伊藤園、三井農林(株)、ハラダ製茶(株) 他
9. 世界市場に向けた新時代の「静岡茶アクティブ有機栽培技術」の開発（2-4）	本所 農業ロボット・経営戦略科 茶業研究センター茶環境適応技術科、茶生産技術科	静岡大学、(株)寺田製作所、KAWANE 抹茶(株) 他
10. 中山間地域の農村畦畔における火入れの実態解明と芝生畦畔の導入（3-5）	本所 水田農業生産技術科	農研機構 西日本農業研究センター
11. ワサビの高温期育苗安定化技術と効果的育苗管理体系の確立（4-6）	伊豆農業研究センター わさび生産技術科	・静岡県立大学 ・静岡大学
12. 静岡の香りに特色のある茶の品質評価・香味改善に関する研究（29-4）	茶業研究センター 新商品開発科	農研機構果樹茶業研究部門、カワサキ機工(株)
13. 温州みかんの双幹形樹形による栽培管理作業の省力技術の開発（3-7）	果樹研究センター 果樹生産技術科 果樹環境適応技術科	農研機構果樹茶業研究部門 他
14. ドローン等の先端技術を活用したカンキツ管理効率化技術の開発（30-4）	果樹研究センター 果樹環境適応技術科	農研機構果樹茶業研究部門 他

15. 気候変動に対応した超晩生温州みかんの早期普及とみかん産地静岡の生産力強化(2-6)	果樹研究センター 果樹生産技術科、 果樹環境適応技術科	国立研究開発法人 産業 技術総合研究所 等
16. 多彩で魅力あふれるしずおかオリジナル果樹品種の育成と適応性検定(3-7)	果樹研究センター 果樹生産技術科 果樹加工技術科	農研機構果樹茶業研究 部門
17. 多様な販売形態に活用できる果樹新品種の育成・選抜と早期成園化技術の開発(3-7)	伊豆農業研究センター 生育・加工技術科	京都大学、広島県、 高知県、宮崎県 他
18. 多様な販売形態に活用できる果樹新品種の育成・選抜と早期成園化技術の開発(3-7)	伊豆農業研究センター 生育・加工技術科	京都大学、広島県、 高知県、宮崎県 他
20. スギエリートツリー等の交配系統のコンテナ苗を利用した相互植栽試験(29-7)	森林・林業研究センター 森林育成科	(国研)森林総合研究所林 木育種センター
21. ソルビタントリオレート(STO)を利用したスギ花粉飛散防止に関する研究	森林・林業研究センター 森林資源利用科	東京農業大学
22. 水ストレスや光環境に対するヒノキの物質循環に関する研究(4)	森林・林業研究センター 森林育成科	静岡大学 東海国立大学機構
23. 木造ハイブリッド構法の接合部の開発(3-4)	森林・林業研究センター 森林資源利用科	静岡大学 合同会社木造研究所
24. 早生候補樹種としてのスラッシュパイン等の生長・材質特性の解明(4)	森林・林業研究センター 森林資源利用科	静岡県農林環境専門職 大学
25. 早生樹の成長特性評価と早生樹構造用合板の強度・材質特性の解明(4)	森林・林業研究センター 森林育成科	(株)ノダ
26. 林業現場の作業状況モニタリング技術の開発(4)	森林・林業研究センター 森林資源利用科	鹿児島大学 浜松医科大学

[評価・改善]

- ・試験研究を効率的に推進するため、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構、民間企業や大学等との共同研究を推進した。
- ・静岡県立農林環境専門職大学との連携を強化するため、「静岡県農業・畜産・林業技術研究連携会議」を開催し、情報提供、意見交換を実施した。
- ・連携協定等を締結した県内大学と新たな分野等において研究活動の拡大に努める。

(オ) 試験研究課題の推進

a. 所全体の研究推進

農林技術研究所の試験研究を関係機関と連携して、効率的かつ効果的に推進するために研究推進会議を実施した。(令和4年度)

区 分	開 催 日	開 催 内 容
研究推進会議	5月31日	R4 試験研究課題、試験研究要望について
	9月8日	R5 新規試験研究課題及び新成長戦略研究課題等について
	3月8日	R4 試験研究成果及び R5 新規試験研究課題について

[評価・改善]

- ・研究の要望、課題の設定、研究の内容などについて関係機関から意見を聞き、研究課題に反映した。
- ・農林事務所に対し、情報提供や調査への協力依頼を行うとともに、普及指導員研修や研究成果発表会などをおして、研究成果の効果的な普及に努めた。

b. 本所・各センターの研究推進

本所、各センターにおいて部門ごとに、情報交換や研究課題の設計・成果の検討を実施した。

機 関	区 分	開 催 内 容	回 数
本 所	分野別情報交換会	トマト意見交換会 イチゴ情報交換会 花き(輪ギク・バラ・ガーベラ)情報交換会	1 1 3
	成績・設計検討会 ^{注)}	AOI プロジェクト、野菜、花き、作物、機械・経営、品質・商品開発、植物保護、土壌環境の分野別に年2回、試験研究課題の進捗状況、試験設計、研究成績の検討	16
茶業研究センター	茶業分野別情報交換会	研究成果発表会 経済連・農協等技術研修会 茶品評会・審査会等での技術指導、情報交換 茶普及指導員との情報交換会	1 8 21 2
	成績・設計検討会 ^{注)}	試験研究課題の進捗状況、試験設計、研究成績の検討	2
果樹研究センター	果樹分野別情報交換会	研究成果発表会 主要研究成果発表(県庁 YouTube チャンネル動画配信) 落葉果樹、柑橘品評会での審査、情報交換 経済連・農協等技術研修会	1 1 10 26
	成績・設計検討会 ^{注)}	試験研究課題の進捗状況、試験設計、研究成績の検討	3
伊豆農業研究センター	伊豆農業情報交換会	研究成果発表(県庁 YouTube チャンネル動画配信) 試験研究要望の収集、マーガレット情報交換会	4 2
	成績・設計検討会 ^{注)}	年2回、試験研究課題の進捗状況、試験設計、研究成績を検討	2
森林・林業研究センター	果樹分野別情報交換会	試験研究要望の収集、研究成果に関する意見交換 研究成果発表会(県庁 YouTube チャンネル動画配信)	3 1
	成績・設計検討会 ^{注)}	試験研究計画及び推進スケジュール 試験研究課題の進捗状況 試験研究成果の検討及び意見交換	4

注) 成績・設計検討会の構成員

- 本 所 : 所長、次長、企画調整部長、研究統括官、技監、研究員、革新支援専門員、普及指導員
 各センター : 所長、センター長、研究統括官、技監、研究調整官、研究員、革新支援専門員、普及指導員
 伊豆農業研究センター : 所長、センター長、研究員、革新支援専門員、普及指導員

[評価・改善]

- ・各分野の情報交換会において、農業者や農協等の関係団体に、研究成果を紹介し、新たな技術移転の情報を提供した。
- ・成績設計検討会では、専門分野ごとの研究設計や成果、進捗状況等について、普及指導員等の関係機関を交えた詳細な検討が実施できた。

c. 試験研究の評価

本所、各センターで農業一般、茶業、果樹、伊豆農業、森林・林業の部門ごとの研究評価委員会において、試験研究を効率的かつ効果的に推進するため、試験研究課題の計画の妥当性、進捗状況、研究の成果等の外部評価を実施した。

<評価の種類>

- ・ 事前評価：新規研究課題の選定に際して研究内容・計画等を評価する
- ・ 中間評価：研究課題の進捗状況や研究継続の必要性等を研究期間の中間年度に評価する
- ・ 事後評価：事後研究課題の目標達成度や成果等を評価する
- ・ 追跡調査：研究課題が完了した後、概ね3年後に研究の成果等を評価する

(令和4年度)

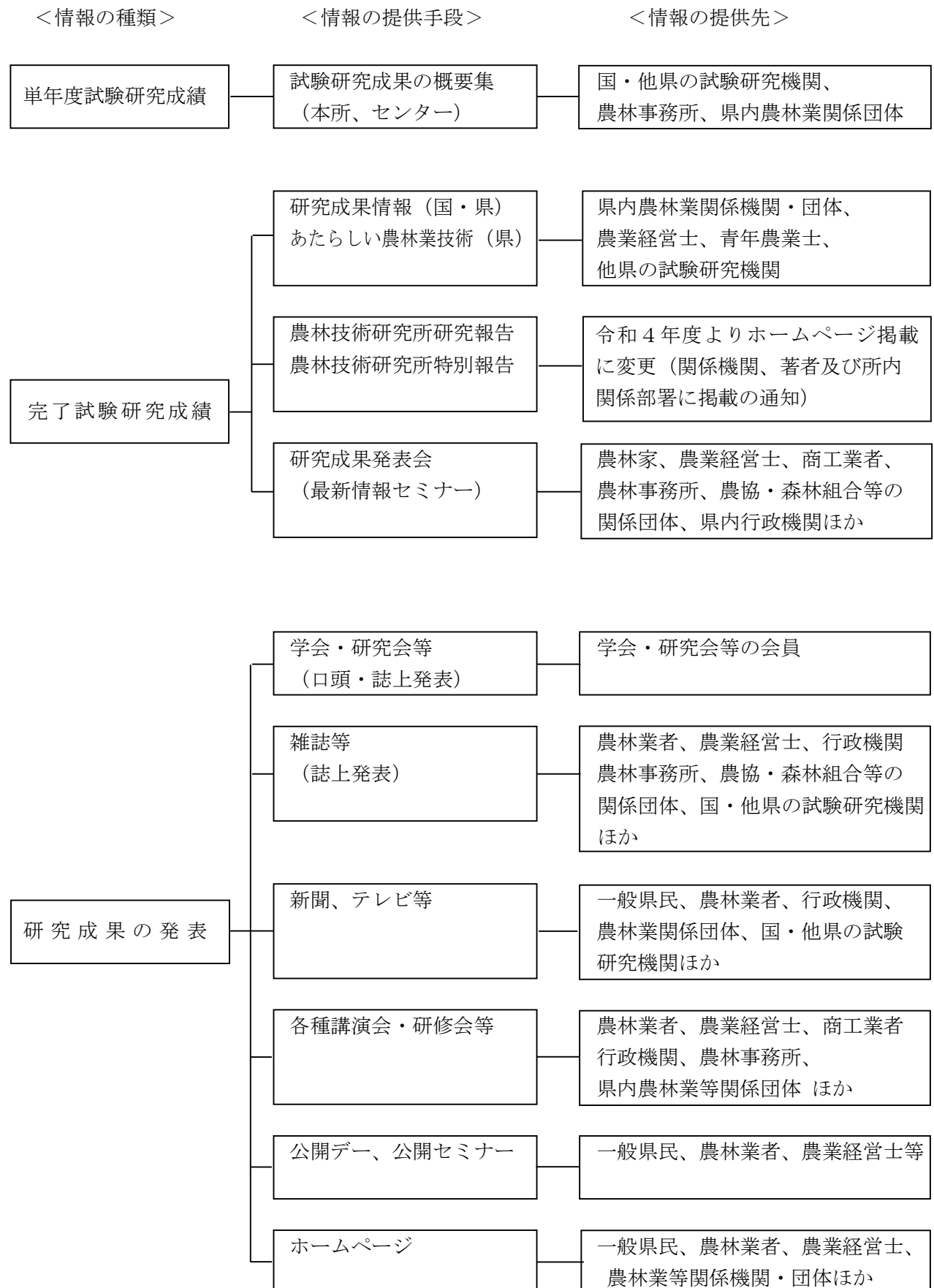
	部 門	事前評価(件)	中間評価(件)	事後評価(件)	追跡調査(件)	合計(件)
新 成 長 研 究	農 業 一 般	0	1	0	1	2
	茶 業	0	1	2	1	4
	果 樹	1	1	0	0	2
	伊 豆 農 業	0	0	0	0	0
	森 林・林 業	0	1	0	1	2
	計	1	4	2	3	10
一 般 研 究	農 業 一 般	4	2	4	2	12
	茶 業	2	1	0	1	4
	果 樹	1	1	1	0	3
	伊 豆 農 業	1	2	1	0	4
	森 林・林 業	2	6	1	1	10
	計	10	12	7	4	33
合計		11	16	9	7	43

[評価・改善]

- ・「一般研究」「新成長戦略研究」の研究課題について、専門家や有識者からなる外部評価委員から、事前評価、中間評価、事後評価、追跡調査の時点に分けた評価を受けた。今後は、評価の結果をもとに、研究課題の進行管理や研究内容の向上に反映させる。
- ・「新成長戦略研究」4課題の中間評価では、13人の評価委員によって評価が実施された。全ての課題について評価委員からA評価（継続すべき）を受けた。C評価（継続すべきでない）を受けた課題はなかった。
- ・「一般研究」の中間評価は、2日間のべ6人の評価委員によって12課題が評価され、全ての課題について評価委員から A評価（継続すべき）を受けた。C評価（継続すべきでない）を受けた課題はなかった。

(カ) 試験研究成果の広報

a. 試験研究における情報の種類、提供手段及び提供先



b. 試験研究成果一覧

別 冊

c. 試験研究成果の概要集の印刷及び配布（令和4年度）

研究成果を概要集として取りまとめて関係機関に配布した。

種 類	農業一般、伊豆農業	茶 業	果 樹	森林・林業	計
試験研究成果 の概要集	作成部数 55 部	電子データ 電子データ	170 部	電子データ	225 部
	配布機関 34 機関	123 機関	119 機関	280 機関	556 機関

d. 試験研究成果情報（令和4年度）

研究成果のうち普及等に移す試験研究課題を取りまとめた。

種 類	農業一般	茶 業	果 樹	伊豆農業	森林・林業	計
研究成果情報	10 件	5 件	2 件	5 件	2 件	24 件

e. 令和4年度 研究成果情報一覧

部 門	成 果 情 報 名
農業一般	<ol style="list-style-type: none"> 1. 水稻「令和誉富士」の奨励品種採用 2. イチゴ‘きらび香’の育苗株数を半減する本ほ増殖法 3. ガーベラ、バラ切り花への電解次亜塩素酸水処理で灰色かび病の発生を抑制 4. バラ・ガーベラは切り花収穫後の保管・輸送時の温度管理が花持ちに影響する 5. 水田裏作レタスのマルチ栽培において冠水すると土壌の肥料成分が溶脱する 6. ネギ黒腐菌核病の予防的防除を支援する AI アプリ「HeSo+（ヘソプラス）」 7. 静岡土着系統のタバコカスミカメで大玉トマトのタバココナジラミを防ぐ 8. 海洋由来乳酸菌による新たな大豆発酵食品の開発 9. 温室メロンの未利用部位は、γ-アミノ酪酸（GABA）・抗酸化成分を多く含有する 10. トマト生理障害である軟果玉の非破壊判別技術の開発
茶 業	<ol style="list-style-type: none"> 1. ドリンク原料茶生産に対応した静岡型茶園管理規格 2. ドリンク等の原料茶生産における多収性品種の選定 3. 製茶時間の大幅な短縮を目指したドリンク原料茶用低コスト製茶技術 4. 静岡県育成チャ登録品種の DNA マーカーを用いた品種判別 5. 安価で持続性の高い土壌物理性改善方法の確立
果 樹	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大麦由来発酵濃縮液肥を利用したウンシュウミカンの早期成園化 2. 長期貯蔵に適するウンシュウミカン新品種「春しずか」の育成
伊 豆	<ol style="list-style-type: none"> 1. ローダンセマムとの交雑による薄桃花のマーガレット属間雑種「伊豆 48 号」 2. ローダンセマムとの交雑による濃赤紫花のマーガレット属間雑種「伊豆 50 号」 3. マーガレットとローマンカモミールは交雑が可能である 4. 夏季に連続して開花するマーガレット属間雑種「伊豆 49 号」 5. 近赤外分光法を用いて‘古山ニューサマー’の種子数を非破壊で予測できる
森林・林業	<ol style="list-style-type: none"> 1. スマホ型測定器による椋積み丸太の強度区分方法の開発 2. クラウドファンディング支援による無花粉スギ優良品種の開発

f. 令和4年度 あたらしい農林業技術一覧

種 類	農業一般	茶 業	果 樹	伊豆農業	森林・林業	計
あたらしい農林業技術	5件	0件	0件	1件	3件	9件

部 門	あたらしい農業技術・あたらしい林業技術名
農業一般	水稻品種「にじのきらめき」および「令和菅富士」の特性と栽培法について
農業一般	ガーベラは赤色LEDを夜間照射することで上位階級比率が増加し出荷ロス率が減少する
農業一般	静岡県農産物141品目の抗酸化能、総ポリフェノール量と機能性データベースでの公開
農業一般	天敵農薬タバコカスミカメによる施設栽培大玉トマトのタバココナジラミ防除技術
農業一般	【改訂新版】圃場のネギ黒腐菌核病リスクに応じて防除対策を選択できる診断・防除マニュアル
伊豆農業	近赤外光による‘古山ニューサマー’の種子数予測
森林・林業	花粉症対策無花粉スギ優良品種の開発
森林・林業	菌床シイタケ栽培の安定生産技術
森林・林業	電気柵の電圧維持のための効果的な雑草管理方法

g. 令和4年度 農林技術研究所研究報告

		題名	公開方法
研究報告	原著論文	鉢物用マーガレット新品種‘ブリアンルーージュ’および‘シェリエメール’の育成	研究所HPに掲載
		‘やぶきた’三番茶不摘採園におけるチャ炭疽病の被害解析	
		近赤外分光法を用いたウンシュウミカンの浮き皮果判別	
		植栽密度の違いが11年生スギ、ヒノキの成長と応力波伝搬速度に及ぼす影響	
		静岡県で生育したユリノキの樹幹内における材質変動及び乾燥した板材の材質	
	論文抄録	ワサビ稚苗の生育に及ぼす気温の影響	
		栽培データの分布不均衡性を考慮した植物生理状態の推定：施設栽培イチゴデータにて	
		高温期における夜間冷房が鉢物マーガレット類の開花・鉢物品質に及ぼす影響	
		静岡県産農産物の DPPH 活性,H-ORAC 値からみた抗酸化能と総ポリフェノール量の評価	
		氷温によるコンテナ輸送は特定の青果物の腐敗を抑制し、品質を維持する	
		玄米 (<i>Oryza sativa</i> L.) の塩水処理による抗酸化能・GABA 含量の増加・増強効果は、表面殺菌の有無により異なる	
		準天頂衛星みちびきを利用した高精度な方位推定技術の開発	
		施設栽培のメロンおよびガーベラから採集されたヘヤカブリダニ（ダニ目：カブリダニ科）に対する各種薬剤の影響	
		有機栽培および慣行栽培茶園における雑草植生	
		静岡県内の茶園周縁部における春期の雑草植生	
		上質な味と香りを有する煎茶用品種‘しずかおり’の育成	
		Effects of intraguild predation and cannibalism in two generalist phytoseiid species on prey density of the pink citrus rust mite in the presence of high-quality food	
		胚珠培養によるマーガレットとローマンカモミールの属間雑種作出と雑種性の確認	
		雄性不稔スギ挿し木コンテナ苗の標準規格と初期の樹高成	
		富士山周辺におけるニホンジカの移動パターン	
		皆伐・植栽地及びその周辺を利用するニホンジカの行動	
		欧州製自走式搬器を使用した架線集材の作業効率—ウッドライナーを使用した間伐，皆伐それぞれの事例からの考察—	

h. 主な研究成果発表会の開催（令和4年度）

研究成果を迅速に普及推進するために、農林業者、関係団体等を対象に研究成果発表会を開催した。

（本所）

機関	開催日	名称	主な成果発表内容	開催場所	対 象	参加人数
本所	4月7日	イチゴ試験研究報告会	令和3年度の試験研究結果について	農林技術研究所	JA、経済連普及	37人
	4月9日	JA遠州中央白葱部会・白葱生産安定研修会	黒腐菌核病、作型別防除基準について	磐田市	生産者、JA	20人
	6月27日	農業経営士会	果樹園用運搬補助ロボット展示運転	伊豆農業研究センター	農業経営士ほか	15人
	8月1日	レタス生産者大会	レタス生育予測システムについて	Web	生産者、JA	100人
	8月1日 8月5日	経営支援班研修会	経営評価ソフトの活用方法について	農林技術研究所ほか	普及指導員	18人
	8月16日	JA営農技術員会いちご部会	イチゴ花芽検鏡研修	専門職大学	JA	30人
	8月18日	県花き連ガーベラ研究会	研究所のガーベラ試験成果について	農林技術研究所	JA、生産者	12人
	8月22日	実践技術指導力強化研修(花き)	肥料コスト低減のための施肥技術	農林技術研究所	普及指導員	5人
	8月22日	カキ農薬散布実演	果樹園用運搬補助ロボット展示運転	農林技術研究所	JA、生産者	20人
	9月8日	県花き連ばら研究会	研究所のバラ試験成果について	農林技術研究所	生産者、JA	20人
	9月21日	実践技術指導力強化研修(野菜)	堆肥施用技術について	農林技術研究所	普及指導員	25人
	10月4日	「賀茂」農業寺子屋	土壌管理・施肥の基礎	農林技術研究所	生産者	10人
	10月6日	静岡県害虫研究会	施設トマトにおけるタバコカスミカメを利用したタバココナジラミのIPMに関する研究	島田市	大学、国、県、メーカー	50人
	10月21日 10月26日	ほおずき栽培講習会	ロ汚れ症状の対策と、斑点細菌病菌及び所属不明ホロ腐敗原因細菌の薬剤感受性検定結果	湖西市 引佐町	生産者、JA	40人
	10月25日	就農セミナー	スマート農業、経営評価ソフトの活用方法について	富士農林事務所	生産者	8人
	10月26日	研究成果発表会	果樹園用運搬補助ロボット展示運転	果樹研究センター	生産者、指導機関	30人
	10月26日	実践技術指導力強化研修(作物)	土壌調査方法の基本と土壌改良について	農林技術研究所	普及指導員	5人
10月27日	施肥コスト低減セミナー	施肥コスト低減のための施肥技術	磐田市	生産者、指導機関	60人	
11月1日	2022年度植物工場研修	ガーベラの養液栽培のポイントと事例	Web	研究員、生産者等	15人	

機関	開催日	名称	主な成果発表内容	開催場所	対 象	参加人数
本所	11月8日	輪ギク品種検討会	輪ギクの新品種育成と現地試験株の選抜	農林技術研究所	JA、生産者、普及	4人
	11月14日	トマト研究成果発表会	トマトの生理障害軟果の発生要因と対策	農林技術研究所 (Web)	JA、生産者、普及	109人
	11月17日	バラ光環境制御研修会	研究所のバラ試験成果について	袋井市	生産者、JA	20人
	11月18日	JAふじ伊豆果菜部会ミニトマト栽培講習会	現地ほ場の青枯病汚染状況調査結果と、土壌還元消毒の安定性向上試験に関する情報提供	伊豆の国市	国県研究員、JA、普及指導員、生産者	30人
	11月22日	農研機構つくば植物工場研修会	データ駆動による高生産性技術と省力化技術の利用に向けて	Web	生産者、行政機関、研究機関等	70人
	11月24日	農業経営士花き部会研修会	研究所の花き関連試験成果について	農林技術研究所	生産者、JA、農林事務所	15人
	11月30日	令和4年度静岡県植物病理研究会	ほ場の健康診断に基づくネギ黒腐菌核病の予防的管理技術の開発	静岡市	大学、メーカー、県	60人
	12月8日	4年度「知の集積による産学官連携支援事業」セミナー	イチゴ個体群光合成計測に基づく栽培支援ツールの開発	岡山市	生産者、研究者	150人
	12月20日	省エネルギー対策研修会	温室の省エネ対策	農林技術研究所 (オンライン開催)	生産者、指導機関	60人
	12月21日	温室メロン害虫防除研修	ミナミキイロアザミウマの総合防除	袋井市	生産者	30人
	1月12日	静岡トマト栽培講習会	いま一度のIPM～コナジラミ類を例に～	Web	JA	50人
	1月16日	磐田市農業委員会合同研修会	土壌診断と施肥コスト低減について	磐田市	生産者、指導機関	30人
	1月24日	レタス栽培研究会	レタス生育予測システムについて	農林技術研究所	JA、生産者、普及	20人
	1月26日	県野菜振興協会レタス部会	レタス生育予測システムについて	JA遠州中央園芸流通センター	JA	10人
	1月26日	農薬管理指導士研修会	病害虫・雑草と防除、発生予察情報と病害虫防除基準の活用	Web	農協職員、農薬卸商、造園業者等	119人
	1月26日	静岡県先進的農業推進協議会研究成果情報交換会	施設トマトにおける新たな天敵を利用した害虫防除	静岡大学	大学、県関係者	50人
	3月7日	令和4年度病害虫関係成績説明会	ほ場の健康診断に基づくネギ黒腐菌核病の予防的管理技術の開発	Web	メーカー、JA、県	50人
	3月17日	AOIプロジェクト研究成果発表会	持続可能な「農」と「食」の未来	沼津市	民間事業者、生産者、行政機関	150人

(茶業研究センター)

機関	開催日	名称	主な成果発表内容	開催場所	対 象	参加人数
茶業研究センター	4月8日	農業経営士会 ファイト静岡茶	茶業研究センターの茶芽の生育 状況と茶園クリーナーについて	静岡市	静岡県農業経営士会茶部会	20人
	4月13日	普及実践技術研修	研究成果紹介	茶業研究センター	普及指導員	10人
	6月9日	JA 大井川品評会	品評会を通じた製茶技術の説明、 情報交換	JA 大井川	JA 技術員	20人
	6月16日	JA 遠州夢咲全 品予備審査	品評会を通じた製茶技術の説明、 情報交換	JA 遠州夢咲	JA 技術員	30人
	7月15日	普及実践技術研修	研究成果紹介	茶業研究センター	普及指導員	10人
	7月17日	香り緑茶互評会	互評会を通じた製茶技術の説明、 情報交換	茶業研究センター	生産者、関係 機関	20人
	8月5日	JA 遠州夢咲茶 づくり塾研修会	茶害虫防除の留意点と IPM につ いて	JA 遠州夢咲	生産者、JA	30人
	8月2日	静岡県茶品評会	品評会を通じた製茶技術の説明、 情報交換	静岡市	JA 技術員、関 係者	100人
	8月23日	静岡県産地技術 課題解決研究会	チャの病害虫の生態と防除	茶業研究センター (Web)	JA、指導機関	100人
	9月3日	品種茶研修会	品種育成方法、品種茶試飲等	茶業研究センター	日本茶インス トラクター	24人
	10月20日	世界お茶まつり 研究成果等紹介	香り緑茶の紹介及び試飲	グランシップ	茶業関係者、 一般消費者等	300人
	10月20日	静岡県立大 茶学入門	茶の生産現場から「多彩な品種 と新しいお茶」	静岡県立大 学	受講生	200人
	10月27日～ 28日	茶商社知識向上 セミナー	茶栽培技術、育種方法、製茶加 工等について	茶の都ミュ ージアム	茶商	14人
	11月7日	JA 技術員会研 修会	病害虫抵抗性品種について	茶業研究センター	JA 技術指導員 等	50人
	11月7日	経済連茶園防除 対策研修会	JAS 有機認証栽培の病害虫対策 について	茶業研究センター (Web 開催)	生産者、関係 機関	50人
	1月18日	中遠茶業経営体 支援プロジェクト「今やらね ば!!セミナー」	茶園での堆肥散布による影響	磐田市	生産者、関係 機関等	57人
	2月18日	農研機構 研究成果等紹介	茶作期プロジェクトでの香り緑 茶大量生産技術紹介	福岡県内	茶業関係者、 一般消費者等	100人
	3月2日	成果発表会	令和4年度茶業研究センターの 研究成果について	茶業研究センター	生産者、民間 企業、関係機 関等	400人

(果樹研究センター)

機関	開催日	名称	主な成果発表内容	開催場所	対 象	参加人数
果樹研究センター	4月2日	西部地区柑橘技術者協議会	病虫害対策について、春しずかについて	J A みっかび本店	JA、県関係者	24人
	5月25日	柑橘技術者協議会	令和4年度着花状況、今後の生産対策	果樹研究センター	JA、県関係者	25人
	6月2日	キウイフルーツ栽培講習会	静電受粉・花粉採取・摘果	果樹研究センター	JA、県関係者	25人
	6月28日	なし剪定講習会	剪定・静電受粉・育成系統について	果樹研究センター	生産者、JA、県関係者	25人
	7月19日	J A 静岡市通常総会 記念講演	温州みかん‘春しずか’について	J A 静岡	生産者、JA	30人
	9月7日	柑橘技術者協議会 全員研修会	温州みかん‘春しずか’について	果樹研究センター	JA、県関係者	60人
	9月28日	農業新施用技術協議会	カンキツ病虫害防除におけるドローン導入上の課題	オンライン開催	都道府県、農業会社	200人
	10月28日	研究成果発表会	果樹研究センターにおける研究成果について	果樹研究センター	生産者、JA関係者	40人
	12月2日	柑橘技術者協議会	春しずか現地調査結果報告	果樹研究センター 現地ほ場	JA、県関係者	23人
	12月2日 ほか3回	ナシ育成系統説明会	ナシ育成系統 S2103 の特性説明	県内4JA	生産者	60人
	1月5日	第26回農業相模セミナー	無人航空機導入によるカンキツ病虫害防除の省力化を目指した取り組み	公益財団法人 相模中央化学研究所	大学、農業会社	100人
	1月20日	重イオンビームユーザー会	長期貯蔵に適した温州ミカン‘春しずか’の育成	(国) 理化学研究所	大学、研究所	40人
	2月1日	落葉果樹研究会	「早秋」における「静カ台2号」台及び主幹仕立てによる栽培管理の省力効果	web 会議	農研機構、各県関係	300人
	2月9日	令和5年柑橘生産者大会	カンキツの総合的病虫害管理 (IPM) の歩みと展望	グランシップ	生産者、JA関係者	300人
	3月14日	日本応用動物昆虫学会大会	寒天ゲル上のリーフディスクによるヤノネカイガラムシの飼育法	摂南大学	大学、国、都道府県、企業	100人
11月21日 ～3月31日	研究成果発表	果樹研究センターにおける令和4年度の研究成果について	県庁 YouTube 動画配信	生産者、JA、県関係機関他	687件 (延べ閲覧数)	

(伊豆農業研究センター)

機関	開催日	名称	主な成果発表内容	開催場所	対 象	参加人数
伊豆農業研究センター	4月1日	研究成果発表会	研究成果紹介	県庁 (YouTube 動画配信)	生産者等関係者	960人
	4月28日	南伊豆山葵生産組合品種検討会	「静系19号」について	下田市	生産者	15人
	5月13日	ワサビ採種講習会	ワサビ種子の採種方法、流水浸漬方法について	伊豆市	生産者	15人
	5月26日	カワヅザクラ切り枝生産研究会研修会	カワヅザクラ切り枝専用ほ場におけるジョイントおよびはく皮について	南伊豆町	生産者、関係機関	10人
	6月16日	JAふじ伊豆ニューサマー部会	古山ニューサマーの特性について	伊豆農業研究センター	生産者、JA	15人
	7月28日	JAひじ伊豆はるひ部会	カンキツ新品種の特性について	伊豆農業研究センター	生産者、JA	20人
	9月2日	静岡県花卉連カーネーション部会研究会	カーネーションにおけるLED照射技術について	伊豆農業研究センター	生産者、JA	30人
	11月10日	JAふじ伊豆ニューサマー部会	ヒュウガナツにおけるCTV被害について	伊豆農業研究センター	生産者、JA	15人
	11月15日	キンギョソウ品種検討会	キンギョソウ新品種について	伊豆農業研究センター	生産者、JA、経済連、指導機関	30人
	12月13日	カワヅザクラ切り枝生産研究会研修会	カワヅザクラ切り枝収穫について	南伊豆町	生産者、関係機関	7人
	1月6日	静岡県東部花き流通センター農協マーガレット部会	マーガレット育成系統の紹介	伊豆農業研究センター	生産者、指導機関	12人
	1月24日	JAおおいがわ切り花マーガレット栽培講習会	マーガレットの栽培管理について	伊豆農業研究センター	生産者、JA、経済連	4人
	2月4日	研究成果発表会	研究成果紹介	伊豆農業研究センター (動画上映)	生産者等関係者	18人
	2月10日	南伊豆山葵生産組合研修会	新品種「ふじみどり」とワサビの育種について	下田市	生産者	15人
	3月2日	安倍山葵業組合研修会	ワサビの採種方法、種子調製・保存方法について	静岡市	生産者	20人
	3月7日	静岡県東部花き流通センター研究会	マーガレットに関する近年の研究成果	富士市	生産者、指導機関	30人
	3月7日	静岡県東部花き流通センター農協わさび苗部会	ワサビの実生育苗について	富士市	生産者、指導機関	30人

(森林・林業研究センター)

機関	開催日	名称	主な成果発表内容	開催場所	対 象	参加人数
森林・林業研究センター	6月8日	テーダマツの植栽に係る研修会	テーダマツの利用、植栽など	島田市	林業従事者	50人
	6月27日	静岡市林道事業推進協議会研修	再造林の低コスト化	静岡市林業センター	林業従事者	20人
	8月5日	令和4年度森林・林業研究センター成果発表会	令和3年度森林・林業研究センターの研究成果	森林・林業研究センター	林業関係者等	100人 (Web視聴者)
	8月25日	未利用木材活用トライアル事業事前検証会	生産性の向上	森林・林業研究センター	行政、林業関係者	13人
	9月2日	静岡県森林・林業技術研究発表会	ノウサギの主軸切断被害について	県庁	林業関係者	50人
	10月7日	種苗生産事業者講習会	種苗生産について	森林・林業研究センター	苗木生産者	6人
	10月25日	伐木造材技術競技会	伐木造材競技の審査	富士宮市麓	林業事業者	40人
	10月25日	鳥獣被害防止対策指導者育成研修	集落環境診断について	森林・林業研究センター	行政、林業関係者	30人
	10月28日	テーダマツ講習会	テーダマツの育苗方法	森林・林業研究センター	苗木生産者	20人
	11月9日	令和4年度フォレストワーカー3年目研修(集合研修)	木材の特性	西部農林事務所 天竜農林局	緑の雇用・森林技術者研修の研修生	19人
	11月18日	成長に優れた苗木を活用した施業モデルに関する現地検討会	エリートツリー、特定母樹、林木育種、種苗生産	瀬尻国有林	行政、林業関係者	55人
	12月1日	しずおか優良木材認定工場研修会	スマホ型ヤング係数測定器とスギ平角の乾燥仕分け装置について	静岡市	製材業者	25人
	12月16日	松くい虫防除連絡協議会	松くい虫被害と防除対策	静岡市	行政、林業関係者	45人
	12月16日	中日本合板工業組合受託研究中間報告会	テーダマツの利用、植栽等について	森林・林業研究センター	林業従事者	10人
	2月10日	鳥獣被害防止講習会	鳥獣被害対策について	磐田市	行政、林業関係者	25人
	3月5日	天竜地域森林県民円卓会議	放置竹林整備にかかる研究成果の紹介	森林・林業研究センター	造園業者、森づくり団体等	20人
	3月24日	法令講習会	鳥獣被害対策について	浜松市	行政、林業関係者	90人

i. 研究成果の学会発表の実施（令和4年度）

学会等学術分野において研究成果を発表した。

機 関	学会発表等回数
本 所	39回
茶業研究センター	16回
果樹研究センター	3回
伊豆農業研究センター	12回
森林・林業研究センター	21回
計	91回

j. 研究成果を踏まえ講演会等の実施、報道機関を通じた研究成果の発表、農業者、関連企業等の技術支援（相談対応）の対応（令和4年度）

機 関	講演会・研修会の開催回数 及び参加者数 ^(注)		新聞等掲載件数	相談者(回)
	開催回数	参加者数		
本 所	58回	1,567人	42件	159回
茶業研究センター	42回	2,457人	46件	189回
果樹研究センター	35回	2,465人	5件	57回
伊豆農業研究センター	35回	1,528人	40件	21回
森林・林業研究センター	47回	1,424人	10件	115回
計	217回	9,441人	143件	541回

注) 成果発表会での動画配信閲覧者数も含む

k. 公開デー等の開催（令和4年度）

機 関	名 称	開催日	開催場所	参加人数
果樹研究センター	夏休み親子農業教室	8月4日	果樹研究センター	4組8人
	研究成果発表会	10月26日	果樹研究センター	40人
伊豆農業研究センター	伊豆農業研究センター公開デー	2月4日	伊豆農業研究センター	94人
森林・林業研究センター	森とともだちになろう	8月15~19日	森林・林業研究センター	16組54人
	サイエンスカフェ	12月27日		5組18人

l. 本所・センターの視察者・参観者数（令和4年度）

機 関	参観者数
本 所	489人
茶業研究センター	46人
果樹研究センター	377人
伊豆農業研究センター	73人
森林・林業研究センター	206人
計	1,191人

m. 農林業資料館の管理・運営（令和4年度）

種 類	所 属	資料保管点数	参観者数
農業資料館	本 所	707点	100人
茶業史料館	茶業研究センター	117点	11人
森の科学館	森林・林業研究センター	500点	625人
計		1,324点	736人

[評価・改善]

- ・研究成果は、成果写真集を活用し、マスコミや関係団体情報誌等様々な機会を捉えて積極的にPRするとともに、県庁YouTubeチャンネルによる動画配信を行うなど、農林事務所等と連携して早期普及に努めた。
- ・現場への技術移転は、農協の営農指導活動や農林事務書の普及指導員の調査研究活動等を活用し、新たな技術の普及を図った。
- ・研究成果について、学会での論文発表や口頭発表を積極的に行った。
- ・共同研究等による外部資金の獲得に努めた。
- ・「親子農業教室」、「公開デー」等の開催により、農林技術研究所の役割を広く一般県民に広報できた。
- ・茶業研究センターにおいては、リニューアル工事中であることから、イベントや来場者の受入を制限している。
- ・今後も新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、適切な方法で県民対象のセミナーや教室の開催や参観人を受入れ、一般県民の農業理解の促進に努める。
- ・広報は所全体で年間を通して、計画的に行った。研究員自らも積極的に広報する姿勢を持つなど、様々な機会を通して、情報を発信し、技術の普及に努める。

(キ) 依頼試験

(令和4年度)

試 験 項 目	件 数	金 額
木材の材質試験	63件	493,110円

[評価・改善]

- ・企業等からの依頼に基づき、有料で、木材の材質試験を適正に実施し、林業・木材産業の向上に寄与した。

(ク) 発酵茶等製造研究施設(発酵茶ラボ)

(令和4年度)

設備の名称	使用件数	延べ使用者数
発酵茶製造設備、半発酵茶製造設備、釜炒茶製造設備	6件	12人

[評価・改善]

- ・一番茶においては、施設の円滑な管理・運営により、茶生産者、茶商が実施する特徴ある茶づくりを支援し、本県の茶業振興に寄与した。
- ・二番茶以降については、茶業研究センターのリニューアル工事が始まったことから受入を中止した。

(ケ) 知的所有権

a. 登録品種と許諾実施状況

国内 (登録)

区分	年月日	番号	作物名	品種名	許諾先
登録	H12.6.27	8131	茶	香駿	JA 静岡経済連、川根本町
登録	H14.7.10	10371	イチゴ	紅ほっぺ	JA 静岡経済連、全農愛媛県本部、三好アグリテック(株)、全農長野県本部、全農三重県本部、(株)バイオテック富士、和歌山県いちご生産組合連合会、愛知県経済連、そらち南農協苺苗部会、(有)アグロマン、(有)房植、(株)カト・ロ、こもろ布引いちご園(株)、長谷川裕晃、中村商事(有)、山口県農業協同組合、(有)サギサカ、(株)コロサキント、(株)JAS (株)小澤農園、(株)fortune、(株)大雅、第一実業(株)
登録	H15.3.17	11103	茶	つゆひかり	JA 静岡経済連、御前崎市茶業振興協議会、川根本町、島田品種茶普及会、掛川市農協、渡邊二郎
登録	H17.1.19	12562	稲	なつしずか	静岡県米麦協会
登録	H17.2.7	12776	マーガレット	フェアリーライトピンク	
登録	H17.2.7	12777	マーガレット	スイートリップル	
登録	H17.2.7	12778	マーガレット	サンデーリップル	東部花き流通センター農業協同組合
登録	H18.7.13	14350	マーガレット	クイーンマイル	東部花き流通センター農業協同組合
登録	H19.3.2	14973	マーガレット	ホワイトジュエル	静岡県花卉園芸組合連合会
登録	H19.3.2	14990	マーガレット	ピーチクイーン	東部花き流通センター農業協同組合
登録	H19.3.2	14992	マーガレット	カナリアクイーン	東部花き流通センター農業協同組合
登録	H19.10.22	15654	ミズカケナ	GR 湧水菜	御殿場小山水かけ菜生産組合
登録	H20.3.13	16566	マーガレット	サワーリップル	東部花き流通センター農業協同組合
登録	H20.10.16	17047	マーガレット	サザンエレガンスホワイト	静岡県花卉園芸組合連合会
登録	H21.2.24	17419	梨	静喜水	JA 静岡経済連
登録	H21.3.6	17696	マーガレット	キューティーマイル	東部花き流通センター農業協同組合
登録	H21.3.6	17784	キヌサヤエンドウ	伊豆みどり	ふじ伊豆農業協同組合
登録	H21.3.19	18111	稲	誉富士	静岡県米麦協会
登録	H21.4.2	21554	マーガレット	ガーネットクイーン	
登録	H22.9.24	19934	スプレーギク	古都の夢	静岡県花卉園芸組合連合会
登録	H23.3.9	20467	マーガレット	ムーンライト	
登録	H24.1.20	21315	温州みかん	静丸早生	JA 静岡経済連
登録	H24.2.21	21400	マーガレット	スーパーレモネード	静岡県花卉園芸組合連合会
登録	H24.2.21	21403	マーガレット	風恋香	東部花き流通センター農業協同組合
登録	H24.11.14	22069	茶	ゆめするが	JA 静岡経済連、掛川市農協
登録	H24.11.14	22066	マーガレット	カーニバルクイーン	
登録	H26.3.6	23119	柿(台木)	静カ台1号	JA 静岡経済連
登録	H26.3.6	23120	柿(台木)	静カ台2号	JA 静岡経済連
登録	H27.3.11	23945	茶	しずかおり	JA 静岡経済連

区分	年月日	番号	作物名	品種名	許諾先
登録	H24. 11. 14	22066	マーガレット	カーニバルクイーン	
登録	H26. 3. 6	23119	柿(台木)	静カ台1号	JA 静岡経済連
登録	H26. 3. 6	23120	柿(台木)	静カ台2号	JA 静岡経済連
登録	H27. 3. 11	23945	茶	しずかおり	JA 静岡経済連
登録	H28. 1. 18	24631	マーガレット	おぼろ月	東部花き流通センター農業協同組合
登録	H28. 1. 18	24633	マーガレット	ラブリーフレンド	東部花き流通センター農業協同組合
登録	H28. 1. 18	24634	マーガレット	ファイアークラッカー	東部花き流通センター農業協同組合
登録	H28. 11. 17	25502	らっきょう	NR 静育1号	
登録	H29. 2. 6	29483	イチゴ	きらび香	三好アグリテック(株)、静岡県いちご協議会、静岡県在住生産者49名
登録	H28. 8. 9	25353	カンキツ	静姫	JA 静岡経済連
登録	H29. 9. 28	26271	わさび	伊づま	静岡県山葵組合連合会
登録	H31. 1. 23	27143	マーガレット	ブリアンルージュ	東部花き流通センター農業協同組合
登録	H30. 6. 19	26867	稲	葵美人	静岡県米麦協会
登録	R2. 3. 9	27824	マーガレット	シェリエメール	東部花き流通センター農業協同組合

国内(出願公表)

区分	公表年月日	出願番号	作物名	品種名	許諾先
出願公表	R3. 11. 22	35533	みかん	春しずか	JA 静岡経済連
出願公表	R4. 2. 21	35793	マーガレット	レディフレア	東部花き流通センター農業協同組合
出願公表	R4. 2. 21	35794	マーガレット	スイングレモネード	東部花き流通センター農業協同組合
出願公表	R4. 2. 21	35795	マーガレット	スノーフレア	東部花き流通センター農業協同組合
出願公表	R4. 5. 13	35979	マーガレット種×ローダンセマム種	ビジューマム ロー ズクオーツ	東部花き流通センター農業協同組合
出願公表	R4. 5. 13	35980	マーガレット種×ローダンセマム種	ビジューマムガー ネット	東部花き流通センター農業協同組合
出願公表	R4. 5. 13	35965	水稻	令和誉富士	静岡県米麦協会
出願公表	R4. 9. 29	36324	わさび	ふじみどり	準備中

海外への品種登録

作物名	品種名	対象国	出願状況	備考
イチゴ	「きらび香」	中華人民共和国 台湾	出願公表	「植物品種等海外流出防止緊急対策事業」(農林水産省)を活用
		大韓民国	R2. 10. 15 登録	
		台湾	出願中	
わさび	伊づま	大韓民国	R3. 7. 13 登録	
		EU	R4. 11. 22 登録	
		イギリス	出願公表	
マーガレット	シェリエメール ブリアンルージュ	シンガポール	出願公表	
		香港	出願中	

令和4年度許諾契約件数：32件(3月末時点) 令和4年度許諾実施料：2,223,661円(3月末時点)

b. 職務発明と許諾実施状況

区分	名 称	年 度	共同出願人	許 諾 先
特 許	植物の生育段階判定方法及びシステム	H24 登録		山本電機(株) (株)IT 工房Z
特 許	空気熱源ヒートポンプエアコン	H26 登録	三菱重工空調システム(株)、中部電力(株)、ネボン(株)	
特 許	果実結露防止センサ	H28 登録	中部電力(株)	
特 許	植物体の害虫抑制方法	R 1 登録	大阪府立環境農林水産総合研究所	(株)ユニコ
特 許	野生反芻動物駆除用組成物及び野生反芻動物の駆除方法	R 1 登録		
特 許	動物捕獲用罟	R 1 登録	(有)渡部製作所	(有)渡部製作所
特 許	玉ねぎ類処理機	R 2 登録	(株)ニシザワ	
特 許	植物の自動給液システム及び養液栽培方法	R 2 登録		山本電機(株)
特 許	植物群落透過光センサユニット及び植物の生育状況判定方法	R 4 登録		山本電機(株)
準特許	過酢酸による果実の保存性及び貯蔵性向上方法	H29 出願	保土谷化学工業(株)	
特 許	果実の剥皮方法	R 4 登録		
準特許	適食予備加工された青切り柑橘果実並びその製造方法並び青切り柑橘果実を用いた食材	R 1 出願		
準特許	紅茶の製造法及び紅茶の製造法における発酵適期判定装置	R 1 出願	(株)寺田製作所	
準特許	植物栽培における遮光制御システム及び遮光制御方法	R 2 出願		
準特許	リサンプリング装置、情報処理システム、リサンプリング方法、及びリサンプリングプログラム	R 3 出願	国立大学法人静岡大学	
準特許	農作物栽培に関する情報取得方法及びプログラム	R 3 出願	農研機構、愛知県	
準特許	茶樹用防除装置と茶樹用防除方法	R 3 出願	(株)寺田製作所	
準特許	茶の樹冠下を除草する草刈機の装着機構	R 4 出願	(株)寺田製作所	
準特許	土壌散布用組成物および作物の生産方法	R 4 出願	第一工業製薬(株)、三ヶ日町農業協同組合	
準特許	茶園用走行型管理装置	R 4 出願	(株)寺田製作所	
準特許	非接触の振動による植物体からの追い出し、光による誘引、ならびに吸引による捕虫効果を用いたコナジラミ類の防除及びモニタリング方法	R 4 出願	農研機構、ピクシーダストテクノロジーズ(株)	

令和4年度新規許諾契約件数：1件

令和4年度許諾実施料：33,000円

イ 研修関連業務

(ア) 職員の派遣等研修状況

職員の資質向上、専門的な知識の習得、研究推進等を図るため、所内研修を実施した。例年実施されている農林水産省や国立研究開発法人への研修はコロナ禍でWEB開催となった。

所内研修も密を避けるため、WEB会議で各センターへ配信する形式で実施した。

研修の種類	所属・氏名	実施場所	期 間	研 修 事 項
学位取得等スキルアップ研修 (所内研修)	次世代栽培システム科 山際豊、二俣翔、柳瀬 恵 野菜生産技術科 今原 淳吾、望月 達史、 秋山 光雅 花き生産技術科 梅田さつき、入谷 明里 水田農業生産技術科 池村 嘉晃、興津 敏広、 山下 達也、加藤 泰久、 土屋 桃子、朝比奈洸佑 農業ロボット・経営戦略科 牧田 英一、山崎 成浩 塩田 七海 加工技術科 宗野 有雅 植物保護環境保全科 斉藤 千温、片山 紳司、 金原 菜見、服部 里菜 栄養・機能性科 石川 翔乃、美濃部亜衣 病虫害防除所 墨岡 宏紀、平 里奈 茶業研究センター 藤井 拓、古屋 聡、 小野 嵩知、鈴木夏織 果樹研究センター 佐藤 優賛、太田 知宏、 曾根 悠介、大久保貴博、 江本 勇治、石井香奈子、 増井 伸一、外岡 千智、 飯田 康平、大槻 拓海 伊豆農業研究センター 勝岡 弘幸、藤井 俊行、 山田 晋輔、片井 祐介、 小高 宏樹 森林・林業研究センター 中田 理恵、稲葉 大地、 佐藤 紘朗、鷺山 立宗、 野末 尚希、大橋 正孝、 光本智加良	本 所 各センター へW e b 会 議形式で配 信	R4. 10. 12 R5. 3. 17	研究員の資質向上や研究成果の公表による農林技術高度化を図るため、学会等への論文作成スキル向上を目指す研修
近赤外講習会 初級・中上級コース (農研機構)	次世代栽培システム科 柳瀬 恵	W e b	R4. 6. 30 R5. 2. 20	近赤外分光分析を行う技術者を対象とした初級・中上級者向けの研修

農林水産関係 若手研究者研 修 (農水省)	栄養・機能性科 石川 翔乃 果樹研究センター 太田 知宏	W e b	R4. 9. 28～ R4. 9. 29	農林水産関係試験研究機関 の若手研究者として最低限 身につける必要のある知見 の習得、能力の開発を目的 とした研修
農林水産関係 中堅研究者研 修 (農水省)	水田農業生産技術科 興津 敏広	W e b	R5. 1. 19 ～ R5. 1. 20	中堅研究者のキャリアパス として必要となる知見の習 得や企画立案能力の開発を 目的とした研修
東海地域農業 関係試験研究 機関人材育成 研修	果樹研究センター 大槻 拓海	愛知県農業 総合試験場	R4. 10. 7	全量基肥型肥料を活用した イチジク栽培技術について
東海地域農業 関係試験研究 機関人材育成 研修	花き生産技術科 武藤 貴大 入谷 明里	愛知県農業 総合試験場	R4. 11. 9	夏季高温期における統合環 境制御装置および高圧細霧 装置の利活用について
東海地域農業 関係試験研究 機関人材育成 研修	伊豆農業研究センター 藤井 俊行	愛知県農業 総合試験場	R4. 11. 10	環境モニタリングシステム 「あぐりログ」の利活用に ついて
東海地域農業 関係試験研究 機関人材育成 研修	植物保護・環境保全科 片山 紳司	愛知県農業 総合試験場	R4. 11. 18	LAMP 法による病害診断技 術に関する研修
東海地域農業 関係試験研究 機関人材育成 研修	植物保護・環境保全科 斉藤 千温	三重県基盤 技術研究室	R4. 11. 29	タバココナジラミの薬剤感 受性検定法に関する研修
東海地域農業 関係試験研究 機関人材育成 研修	花き生産技術科 梅田 さつき 果樹研究センター 飯田 康平	愛知県農業 総合試験場	R4. 11. 30	安価に自作可能な環境測定 装置の作成
東海地域農業 関係試験研究 機関人材育成 研修	伊豆農業研究センター・ 勝岡 弘幸	岐阜県農業 技術センタ ー	R5. 2. 8	花きの育成品種の開発手法 と栽培技術の確立
(一社)日本植 物防疫協会技 術研修(初級)	植物保護・環境保全科 金原 菜見	日本植物防 疫協会 茨 城研究所	R4. 6. 14 ～ R4. 6. 16	植物防疫の基礎と実習 (病虫害)
(一社)日本植 物防疫協会技 術研修(中級)	植物保護・環境保全科 中野 亮平	法政大学	R4. 8. 23 ～ R4. 8. 25	植物防疫の応用技術と実習 (虫害)

日本植物防疫協会 植物病害診断教育プログラム	植物保護・環境保全科 片山 紳司	秋田県立大学	R4. 8. 22 ~ R4. 8. 26	植物病害診断の基礎と実習
スマート農業技術の経営評価手法に関する研究会	農業ロボット・経営戦略科 塩田 七海	W e b	R4. 10. 31 ~ R4. 11. 01	都道府県の農業関係技術者および研究者を対象に、スマート農業技術の経営評価手法を習得する研修。
肥料分析実務者研修	栄養・機能性科 美濃部 亜衣	W e b	R4. 12. 16	肥料の品質保全、分析技術の向上を目的として実施している、共通試料分析の結果報告及び肥料サンプリング技術の研修
農地土壌炭素貯留等基礎調査事業「農地管理実態調査」講習会（農研機構）	栄養・機能性科 石川 翔乃 美濃部 亜衣	宮城県宮城県古川農業試験場	R4. 10. 13 ~ R4. 10. 14	公設等の農業試験研究機関に在籍し、本調査事業を実施している土壌肥料研究者等の土壌調査・分類に関する資質向上を目指した研修
令和4年度関東ブロック土壌保全対策技術研究会（関東農政局）	栄養・機能性科 石川 翔乃 美濃部 亜衣	山梨県総合農業技術センター	R4. 11. 17 ~ R4. 11. 18	関東地域の農業試験研究機関研究員対象の「土壌分析に基づく土づくりと施肥による持続性の高い農法への転換」に資する研究会

(イ) 研修生の受入状況

農林業の技術交流の推進等を図るために、研修生を受け入れた。

所属・氏名	受入所属	期 間	研 修 内 容
モンゴル国 バダルチ・ ブヤンウルジー	農林技術研究所 本所	R4. 10. 24~ R4. 12. 9	先進的な温室栽培技術 野菜栽培技術 冬季の温室栽培技術
モンゴル国 エンフタイワン・ エンフトゥヴシン	農林技術研究所 本所		
東京農業大学 生命科学部 佐野 未桜	農林技術研究所 次世代栽培システム科	R4. 8. 1~ R4. 8. 5	インターンシップ
静岡県立農林環境専門職大学 生産環境経営学部 犬飼 裕弥	農林技術研究所 本所	R4. 8. 22~ R4. 8. 26	インターンシップ
静岡県立農林環境専門職大学 生産環境経営学部 川口 蘭々	農林技術研究所 本所	R4. 9. 5~ R4. 9. 9	インターンシップ
静岡大学大学院 農学部 藤田 駆	農林技術研究所 本所	R4. 9. 7~ R4. 9. 9	インターンシップ

静岡大学大学院 農学専攻応用生命科学コース 田澤 李花	農林技術研究所 果樹研究センター	R4. 8. 1～ R4. 8. 5	インターンシップ
静岡県立大学大学院 薬食生命科学府環境科学専攻 岡本 啓志	農林技術研究所 果樹研究センター	R4. 9. 5～ R4. 9. 9	インターンシップ
静岡県立大学 食品栄養科学部 一瀬 可典子	農林技術研究所 果樹研究センター	R4. 9. 5～ R4. 9. 9	インターンシップ
静岡県立大学 食品栄養科学部 秋山 実優	農林技術研究所 果樹研究センター	R4. 9. 5～ R4. 9. 9	インターンシップ
福島大学 食農学類 岡田 直之	農林技術研究所 伊豆農業研究センター・生育加工技術科	R4. 8. 18～ R4. 8. 26	インターンシップ
静岡県立農林環境専門職大学 生産環境経営学部 長岡 桃子	農林技術研究所 森林・林業研究センター	R4. 8. 23～ R4. 8. 24	インターンシップ
静岡大学 農学部 今泉 堅斗	農林技術研究所 森林・林業研究センター	R4. 8. 25	インターンシップ
(東海地域農業関係試験研究 機関人材育成研修) 岐阜県農業技術センター 病理昆虫部 小島 一輝	農林技術研究所 植物保護・環境保全科	R4. 11. 7	プラスチックボトルを利用した太陽熱土壌消毒の 模擬試験
(東海地域農業関係試験研究 機関人材育成研修) 三重県農業研究所 基盤技術研究室 佐々木 彩乃	農林技術研究所 植物保護・環境保全科	R4. 11. 16	天敵タバコカスミカメの 飼育および試験方法
(東海地域農業関係試験研究 機関人材育成研修) 愛知県農業総合試験場 園芸研究部落葉果樹研究室 大野 郁夫	農林技術研究所 農業ロボット・経営戦略科	R4. 11. 16	農業用自律走行運搬補助 ロボットの構造と利用
(東海地域農業関係試験研究 機関人材育成研修) 愛知県農業総合試験場 研究戦略部技術開発研究室 伴 佳典 他1名	農林技術研究所 農業ロボット・経営戦略科	R4. 12. 9	経営評価ソフトの活用について

[評価・改善]

- ・職員の資質向上を図るため、農林水産省等の研修にWeb方式により積極的に参加した。また、農林業の技術交流の推進等を図るために、モンゴル国からの研修生やインターンシップの大学生、他県の研究機関の職員の研修を受け入れた。

ウ 研究以外の事業の実績

機 関	事業名	事業概要	2年度事業実績	担当部署
本 所	水稲・麦の原々種、原種育成配布、採種事業	<ul style="list-style-type: none"> 水稲・小麦奨励品種の遺伝的純度と優良特性を維持するため、原原種、原種を生産し、県内の採種組合(水稲4組合、麦1組合)に種子を供給する。 採種ほのほ場審査を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 水稲2奨励品種の原種1,126kgと1品種の原原種20kgを生産。 小麦1奨励品種の原原種37kgを生産。 R5年産用種子として、県内4水稲採種組合へ8奨励品種の原種2,049kgを配布。 R5年産用種子として、県内1麦採種組合へ1奨励品種の原種を630kgを配布。 採種ほのほ場審査の実施 9回 	水田農業生産技術科
	イチゴの無病苗増殖・配布事業	本県イチゴ生産の健全な発展を図るため、イチゴ無病苗(原々苗)を計画的に増殖配布し、生産農家の経営安定を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 本県生産者団体(経済連)へ原々苗150株を供給(「紅ほっぺ」75株、「きらび香」75株) 	野菜生産技術科
	病害虫・生理障害等の診断及び防除対策指導業務	農家圃場で発生した病害虫の診断と防除対策指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 植物体診断・防除指導件数 51件 栄養診断2件 	植物保護環境保全科 栄養・機能性科
茶 研 セ	安全・安心な農業推進事業	茶園施肥による環境負荷の軽減を図るため、関係団体、関係機関で構成する県茶園施肥適正化推進会議を組織し、施肥低減に向けた様々な取り組みを実施した。	<ul style="list-style-type: none"> 丹野池及び周辺地区の水質調査 2名×4回 環境に与える負荷の少ない肥料の効果実証 1カ所 施肥適正化茶園の設置 1カ所 	茶環境適応技術科
	病害虫発生予察事業	病害虫防除所に協力し、基準ほ場における病害虫発生状況を調査した。	<ul style="list-style-type: none"> 病害虫発生状況調査 3名×12回 発生予察会議での助言 1名×8回 	茶環境適応技術科
果 研 セ 果 研 セ	病害虫発生予察事業	病害虫防除所に協力し、基準ほ場における病害虫発生状況を調査した。	<ul style="list-style-type: none"> 病害虫発生状況調査 2名×9回 	果樹環境適応技術科
	病害虫・生理障害等の診断及び対策指導業務	農家圃場で発生した病害虫及び生理障害の診断と対策指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 植物体診断・対策指導件数 50件 電話相談による対策指導 75件 	果樹環境適応技術科 果樹生産技術科 果樹加工技術科

森林研セ	抵抗性クロマツ種苗供給事業	静岡県山林種苗協同組合連合会に対し、抵抗性クロマツ苗の生産に必要なマツノザイセンチュウの供与を行う。	・培養用のマツノザイセンチュウ島原体群の供与	森林資源利用科
	森の力再生事業効果調査	森の力再生事業施行地における植生変化等を毎年モニタリングしその森林動態の結果を森の力再生事業評価委員会に報告する。	・森の力再生事業地モニタリング調査 10箇所	森林育成科
	松くい虫発生予察調査	森林病虫害防除法第7条の2第1項の規定に基づく防除実施基準（平成15年9月26日付け農林水産省通達）に基づき、薬剤散布の適期を確かめるためマツノマダラカミキリの発生予察調査を行う。	・マツノマダラカミキリ発生予測調査 事業課に情報提供	森林育成科
	花粉飛散量調査	スギ雄花の開花前に、目視による雄花着生調査を行って、花粉飛散量を予測する。	・スギ雄花着生調査（花粉飛散量予測） 20箇所	森林育成科 企画指導スタッフ
	しずおか優良木材認証審査指導	しずおか優良木材に関わる工場認証審査、製品品質管理等に関わる技術指導等を行う。	・しずおか優良木材認証審査会 4回	森林資源利用科

[評価・改善]

- ・研究以外の事業において優良苗や種子の配布等を実施し、効率的な現地普及の支援が可能となった。

③肥料検査事業

令和4年度に県に登録・届出のあった肥料について検査等を行っている。また、肥料の品質を保全するため、肥料取締法に基づき、肥料工場の立入検査、及び採取したサンプルの分析検査を実施している。なお、県登録・届出の普通肥料及び特殊肥料の検査は県で、国登録の普通肥料の検査は独立行政法人農林水産消費安全技術センターで実施している。

ア 登録・届出のあった肥料の検査結果（3月31日時点）

分類	検査点数	取下げ点数	不合格点数
普通肥料	13	0	0
特殊肥料	14	0	0
計	27	0	0

イ 肥料工場の立入検査実績

(ア) 普通肥料

a 検査か所数 6か所 検査点数 10点

b 分析項目：窒素全量、アンモニウム性窒素、りん酸全量、く溶性りん酸、水溶性りん酸、加里全量、く溶性加里、水溶性加里、アルカリ分、可溶性苦土、く溶性苦土、水溶性苦土、ひ素、カドミウムの14項目。

c 検査結果

肥料の種類	検査点数	不合格点数	不合格の理由
指定配合肥料	5	0	
副産動植物質肥料	2	0	
豆腐かす乾燥肥料	1	0	
混合有機質肥料	1	0	
なたね油かす及びその粉末	1	0	
計	10	0	—

(イ) 特殊肥料

a 検査か所数 5か所 検査点数 5点

b 分析項目 窒素全量、りん酸全量、加里全量、炭素窒素比、水分の5項目

c 検査結果

特殊肥料の指定名	検査点数	不合格点数
堆肥	5	0
計	5	0

[評価・改善]

- 肥料原料の国際相場と国内の肥料価格が、国際情勢により高騰している。本来は使用できない原料が使われる懸念もあるので、製造工場や流通場面での監視に努める。また、未利用資源を原料とした特殊肥料の届出が増えているので、不良な肥料が流通しないよう検査を徹底し、指導を強化している。

④病虫害防除所

植物防疫法に基づき、病虫害の発生予察情報の作成・提供、新しい予察法と防除法の研究、「農薬安全使用指針・農作物病虫害防除基準」の編集・公開・遵守指導及び病虫害診断等の植物防疫対策業務を行った。

ア 病虫害発生予察業務

(ア) 指定病虫害発生予察事業

植物防疫法第23条に基づき、農林水産大臣指定病虫害の発生状況を定期的に調査し、発生の予察を行うとともに適時・的確な情報を提供した。

○調査対象作物及び病虫害

調査対象作物（18作物）、病虫害（77種類）

対象作物	指定病虫害
イネ	稲こうじ病、いもち病、縞葉枯病、ばか苗病、もみ枯細菌病、紋枯病、イネミズゾウムシ、コブノメイガ、セジロウンカ、ツマグロヨコバイ、トビイロウンカ、ニカメイガ、ヒメトビウンカ、フタオビコヤガ 斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ、トゲシラホシカメムシ、シラホシカメムシ、ホソハリカメムシ、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、ミナミアオカメムシ、イネカメムシ）
ムギ	赤かび病、うどんこ病
ダイズ	アブラムシ類（ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ、ダイズアブラムシ）、 ハスモンヨトウ（作物共通） 吸実性カメムシ類（アオクサカメムシ、イチモンジカメムシ、ホソヘリカメムシ、ミナミアオカメムシ）
カンショ	ハスモンヨトウ（作物共通）、シロイチモジヨトウ（作物共通）
バレイショ	疫病、アブラムシ類（ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ）、ハスモンヨトウ（作物共通）
カンキツ	かいよう病、黒点病、そうか病、 果樹カメムシ類（作物共通：クサギカメムシ、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）、 アブラムシ類（ワタアブラムシ、ユキヤナギアブラムシ、ミカンクロアブラムシ）、ハダニ類（ミカンハダニ）
ナシ	黒星病、黒斑病、アブラムシ類（ナシアブラムシ、ワタアブラムシ、ユキヤナギアブラムシ）、 シンクイムシ類（ナシヒメシンクイ）、ハダニ類（カンザワハダニ、ミカンハダニ） ハマキムシ類（チャノココクモンハマキ、チャハマキ）、 果樹カメムシ類（作物共通：クサギカメムシ、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）
カキ	炭疽病、カキノヘタムシガ、ハマキムシ類（チャノココクモンハマキ、チャハマキ）、 果樹カメムシ類（作物共通：クサギカメムシ、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）、 アザミウマ類（チャノキイロアザミウマ、カキクダアザミウマ）、カイガラムシ類（フジコナカイガラムシ）
キウイフルーツ	かいよう病
チャ	炭疽病、ハマキムシ類（チャノココクモンハマキ、チャハマキ）、ハダニ類（カンザワハダニ）、 チャノホソガ
トマト	疫病、灰色かび病、葉かび病、ハスモンヨトウ（作物共通）、 アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ワタアブラムシ）、オオタバコガ（作物共通）、 コナジラミ類（タバココナジラミ、オンシツコナジラミ）
ダイコン	コナガ（作物共通）、ハスモンヨトウ（作物共通）、 アブラムシ類（ダイコンアブラムシ、ニセダイコンアブラムシ、モモアカアブラムシ）
キャベツ	菌核病、黒腐病、コナガ（作物共通）、ハスモンヨトウ（作物共通）、オオタバコガ（作物共通）、 シロイチモジヨトウ（作物共通）、ヨトウガ（作物共通）、 アブラムシ類（ダイコンアブラムシ、ニセダイコンアブラムシ、モモアカアブラムシ）
タマネギ	白色疫病、べと病、アザミウマ類（ネギアザミウマ）、シロイチモジヨトウ（作物共通）
ネギ	さび病、黒斑病、べと病、アザミウマ類（ネギアザミウマ）、ハスモンヨトウ（作物共通）、 シロイチモジヨトウ（作物共通）、アブラムシ類（ネギアブラムシ）、ヨトウガ（作物共通）
レタス	菌核病、灰色かび病、ハスモンヨトウ（作物共通）、アブラムシ類（モモアカアブラムシ）
イチゴ	うどんこ病、炭疽病、灰色かび病、ハスモンヨトウ（作物共通）、 アブラムシ類（モモアカアブラムシ、ワタアブラムシ）、ハダニ類（カンザワハダニ、ナミハダニ） アザミウマ類（チャノキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ）
キク	白さび病、アブラムシ類（キクヒメヒゲナガアブラムシ、ワタアブラムシ）、 アザミウマ類（コスモアザミウマ、ネギアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、 ミナミキイロアザミウマ、クロゲハナアザミウマ）、オオタバコガ（作物共通）

(イ) 指定外病虫害発生予察事業

植物防疫法第31条に基づき、指定病虫害と平行して本県の主要な24作物の133病虫害を対象に発生予察を行った。

○ (ア)、(イ) の業務方法

情報の収集

- ・ 所員による巡回ほ場の調査（調査地点 330か所、病虫害多発時等追加地点 250か所）
- ・ 植物防疫法第33条に基づく病虫害防除員（76人）による産地ほ場の調査
- ・ 地区予察調査員等による予察灯等の調査（20か所）
- ・ 県予察ほ場の調査（農林技術研究所本所、茶業研究センター、果樹研究センター）

情報の分析・とりまとめ

- ・ 発生予察会議による予察情報（月報、警報、注意報、特殊報）の作成
会議構成メンバー：病虫害防除所、農林技術研究所、茶業研究センター、果樹研究センター、食と農の振興課、各農林事務所（必要に応じ）

情報の提供

- ・ F A X
病虫害防除員、農薬卸商、報道機関、国関係機関、農業団体
- ・ Eメール
病虫害防除員、関係機関、農業団体
- ・ 県庁S D Oの経済産業部の掲示板
- ・ J P P - N E Tの掲示板
全国の病虫害防除所やネット加入者閲覧
- ・ インターネット
病虫害防除所ホームページ 令和4年度アクセス数：13,834件

○ 予察情報の提供状況

（月報） 12回 毎月下旬に翌月の予報を発表

（注意報） 令和4年度発表なし

（特殊報） 令和4年11月2日 第1号 アリモドキゾウムシ

(ウ) 地域実験予察調査

各地域で問題となっている害虫の発生原因を解析し、発生予察法や防除法を確立するための調査を行った。

○ 地域実験予察調査

作物	課 題 名
作物	静岡県内で発生したイネいもち病菌の QoI 剤感受性検定(培地検定)
作物	静岡県中遠地域の水田内におけるイネカメムシの発生消長
野菜	静岡県におけるばれいしょ疫病菌のカルボン酸アミド(CAA)系薬剤感受性検定
茶	茶園周辺部の雑草の年間発生実態調査(夏期～秋期)
茶	茶園樹冠面における雑草の年間発生実態調査(夏期～秋期)
茶	クワシロカイガラムシのピリプロキシフェン剤に対する感受性検定
野菜	トマトキバガのフェロモントラップによる誘殺及び寄生調査

(エ) 薬剤耐性菌・抵抗性害虫検定調査

- ・稲：令和4年7月～9月に水田の巡回調査ほ場など、21ほ場で採取した葉いもち病菌72菌株についてQoI剤に対する検定を行ったが、QoI剤耐性菌は確認されなかった。
- ・ばれいしょ：令和4年5月～6月に西部地区のばれいしょほ場から採取した疫病菌4菌株のカルボン酸アミド（CAA）系薬剤に対しての検定を行ったが、感受性低下は認められなかった。
- ・茶：令和4年1月～3月にピリプロキシフェン剤を散布した2箇所からクワシロカイガラムシ雌成虫を採取し増殖し、薬剤感受性検定に供試した。2個体群のピリプロキシフェン剤に対する明確に感受性低下は認められなかったが、一部常用濃度での生存個体も確認されたことから、今後注視していく。

(オ) 重要病害虫の侵入警戒調査事業

国が行う植物検疫対象病害虫の侵入警戒調査に協力し、いずれの病害虫も発生は認められなかった。

- ・ミバエ類侵入警戒調査 9地点
- ・アリモドキゾウムシ侵入警戒調査 3地点
- ・スイカ果実汚斑細菌病、メロン果実汚斑細菌病発生警戒調査 各4地点
- ・火傷病侵入警戒調査 10地点
- ・ウメ輪紋ウイルス病発生調査 14地点
- ・トマトキバガ発生調査 1地点

(カ) 輸出農産物検疫条件整備

令和2年度まで名古屋植物防疫所とともに、JA大井川輸出みかん管理組合等によるミバエ類（15種、12地点）の発生調査に協力したが、令和3年度より調査は名古屋植物防疫所清水支所、大井川農協、JA大井川輸出みかん管理組合が実施している。

(キ) 重要病害虫対策

国の重要病害虫に指定されているアリモドキゾウムシが、令和4年10月26日に浜松市で確認された。このため、初動対応として名古屋植物防疫所清水支所や西部農林事務所と協力し、発生状況調査及び周辺の植生調査を実施した。また、防除のための情報提供を実施した。

3月19日からは、植物防疫法に基づく緊急防除として、引続き発生状況調査等を実施した。

[評価・改善]

- ・引き続き指定病害虫及び指定外病害虫の発生予察、重要病害の侵入警戒調査を実施するとともに、主要病害虫を対象とした地域実験予察調査に取り組む。また、侵入した重要病害虫であるアリモドキゾウムシの根絶にむけ、国や農林事務所とも協力して緊急防除を進めていく。

イ 病虫害防除対策業務

(ア) 病虫害防除員の設置

非常勤職員の病虫害防除員を委嘱し、担当作目の当該地域（62地域）における病虫害発生の状況調査と防除の推進、農薬安全指導等の業務に当たさせた。また、その活動を円滑に進めるために指導や研修会を行った。

○病虫害防除員の設置状況

担当 作目	穀類・豆類		茶	果樹				野菜・芋類				キク	計
	水稲	その他		柑橘	ナシ	カキ	その他	イチゴ	トマト	パレイショ	その他		
人数	13	2	12	9	3	4	4	6	3	2	17	1	76

(イ) 講演会、研修会等による調査研究成果の発表及び病虫害防除・農薬安全使用指導

調査研究成果を講演会・病虫害防除指導研修会や学会等で発表し、農薬安全使用指導研修会等により情報提供を行った。

○調査研究成果の発表状況

講演会、研修会等の回数及び参集者数	学会等発表回数
10回 345人	0回

(ウ) 病虫害防除指導

JA、農家等からの防除対策の相談に応ずるとともに、特殊な病虫害については、所管の農林事務所と連携し適切な防除指導を行った。

[評価・改善]

- ・病虫害防除員等の資質向上を図るとともに、成果等の情報伝達や防除指導を行う。

ウ 農薬安全使用対策業務

(ア) 「農薬安全使用指針・農作物病虫害防除基準」編集及び農薬情報システムの運用

新たな病虫害の発生や農薬に対する抵抗性獲得病虫害に的確に対処し、安全・安心な農産物の生産に寄与するため、「農薬安全使用指針・農作物病虫害防除基準」の編集を行い、農薬情報システムにより病虫害防除所ホームページ上で公開した。日本植物防疫協会のJPP-NETの更新データを反映するシステムのため、農薬登録情報は常に最新のデータとなっている。

なお、県植物防疫協会は、本システムの公開データをもとに冊子版を毎年度作成している。

○インターネットでの「農薬安全使用指針・農作物病虫害防除基準」の利用実績

R4年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
アクセス数	748	1,334	1,043	717	748	804	740	557	508	193	1,222	606	9,220

(注) 4月21日から公開し、3月31日までの実績

(イ) 農薬安全使用指針・農作物病虫害防除基準の遵守指導

病虫害の防除及び適正な農薬使用を徹底するため、「農薬安全使用指針・農作物病虫害防除基準」の説明会を開催した。

○説明会開催状況

開催月日	開催地	出席者	対 象
令和4年4月27日	書面開催	—	農協、農薬卸小売業者、農林事務所等
令和5年1月26日	静岡市	119人	令和4年度農薬管理指導士研修会

(ウ) 農薬安全使用講習会の開催

農薬の安全使用を推進するために地域農業課、農林事務所と協力して、市町、農協、病害虫防除員、農薬卸小売業者等を対象に講習会を開催した。

講演会、研修会等の回数及び参集者数 10回 345人

注：イ（イ）の再掲

[評価・改善]

- ・関係機関と連携して、講演会、研修会等の場において適正な農薬使用の徹底を図る。
- ・農薬情報システムの利用を促進するために、研修会の場で一層のPRを行う。

エ 病害虫診断業務

農林技術研究所本所の所管する、イネ、ムギ、野菜、花きの他、チャ、カンキツ、落葉果樹について病害虫診断を実施した。

持ち込みによる診断・回答件数 57件

[評価・改善]

- ・病害虫診断は、対象とする作物が多く、高度な知識・技能と経験を要するため、職員を各種研修会、学会などに派遣して資質向上を図る。

主要病害虫の発生概況調

(令和2年度)
(栽培面積 15,800ha)

(1) 水稲

区分 病害虫名	発生面積 (ha)		要防除面積 (ha)	発生概評		
		平年比(倍)		発生程度	平年比(倍)	調査単位
葉いもち	988	0.4	176	2.2	1.2	発病株率%
穂いもち	0	—	0	0	—	発病株率%
白葉枯病	0	—	0	0	—	発病株率%
紋枯病	4938	0.7	1317	7.1	0.9	発病株率%
萎縮病	0	—	0	0	—	発病株率%
縞葉枯病	988	0.8	329	1.3	2.4	発病株率%
ニカメイチュウ	2,548	2.3	0	0.9	2.5	被害株率%
ツマグロヨコバイ	7,135	1.0	0	0.9	0.8	最高寄生数/株
ヒメトビウンカ	7,242	0.9	0	0.6	0.5	最高寄生数/株
セジロウンカ	11,213	1.9	0	3.1	4.4	最高寄生数/株
トビイロウンカ	7,645	4.0	510	4.8	16.5	最高寄生数/株
イネミズゾウムシ	7,505	1.0	3,950	13.2	1.3	被害株率%
斑点米カメムシ類	5,606	1.2	1,529	1.4	1.6	すくい取り虫数/30回

発生面積・程度：年間の最大値 要防除面積：発生面積最大時の発生程度が中以上の面積

(令和2年度)
(栽培面積 16,500ha)

(2) 茶

区分 病害虫名	発生面積 (ha)		要防除面積 (ha)	発生概評		
		平年比(倍)		発生程度	平年比(倍)	調査単位
炭疽病	15,180	1.3	660	21.3	1.5	発病葉数/1.25㎡
もち病	5,610	2.4	1,320	37.2	3.8	発病葉数/1.25㎡
輪斑病	11,880	1.1	660	8.9	1.3	発病葉数/1.25㎡
チャノコカクモンハマキ	3,960	1.6	330	0.6	0.8	幼虫数/1.25㎡
チャハマキ	4,950	1.8	0	0.6	0.7	幼虫数/1.25㎡
チャノホソガ	6,930	1.3	0	2.5	1.3	巻葉数/1.25㎡
カンザワハダニ	8,250	1.2	1,650	2.8	1.0	寄生葉率%
チャノミドリヒメヨコシ	14,190	1.4	6,270	9.3	3.5	叩き落とし虫数
クワシロカイガラムシ	9,240	1.3	5,280	20.4	1.5	寄生株率%
チャノキイロアザミウマ	15,180	1.0	660	12.7	0.9	叩き落とし虫数

発生面積・程度：年間の最大値 要防除面積：発生面積最大時の発生程度が中以上の面積

(令和2年度)

(3) 温州みかん

(栽培面積 5,470ha)

区分 病害虫名	発生面積 (ha)		要防除面積 (ha)	発生概評		
		平年比(倍)		発生程度	平年比(倍)	調査単位
そうか病	1,141	3.4	0	0.1	1.3	発病度
黒点病	5,470	1.9	0	1.8	1.9	発病度
かいよう病	1,094	5.6	0	0.1	2.0	発病度
ヤノネカイガラムシ	365	6.3	0	0.1	7.0	寄生(葉)果率%
ミカンハダニ	2,553	1.2	0	2.4	1.0	寄生葉率%
イセリヤカイガラムシ	547	1.5	0	0.2	2.3	寄生枝率%
ツノロウムシ	182	0.9	0	0.1	0.4	寄生枝率%
チャノキイロアザミウマ	4,741	1.1	0	0.9	0.6	果実被害度

発生面積・程度：年間の最大値 要防除面積：発生面積最大時の発生程度が中以上の面積

(令和3年度)

(1) 水稲

(栽培面積 15,700ha)

区分 病害虫名	発生面積 (ha)		要防除面積 (ha)	発生概評		
		平年比(倍)		発生程度	平年比(倍)	調査単位
葉いもち	8,088	7.4	476	7.2	15.9	発病株率%
穂いもち	1,427	1.8	0	0.6	1.6	発病株率%
白葉枯病	0	—	0	0	—	発病株率%
紋枯病	7,612	0.8	2,379	9.0	0.8	発病株率%
萎縮病	0	—	0	0	—	発病株率%
縞葉枯病	476	0.4	0	0.1	0.2	発病株率%
ニカメイチュウ	476	0.4	0	0.7	1.7	被害株率%
ツマグロヨコバイ	5,079	0.8	0	0.7	0.7	最高寄生数/株
ヒメトビウンカ	9,515	1.3	320	0.8	0.9	最高寄生数/株
セジロウンカ	10,894	1.2	641	4.5	2.4	最高寄生数/株
トビイロウンカ	952	0.4	0	0.1	0.1	最高寄生数/株
イネミズゾウムシ	7,850	1.0	7,065	20.5	2.1	被害株率%
斑点米カメムシ類	8,341	1.7	2,453	2.6	2.8	すくい取り虫数/30回

発生面積・程度：年間の最大値 要防除面積：発生面積最大時の発生程度が中以上の面積

(令和3年度)
(栽培面積 15,900ha)

(2) 茶

区分 病害虫名	発生面積 (ha)		要防除面積 (ha)	発生概評		
	発生面積 (ha)	平年比 (倍)		発生程度	平年比 (倍)	調査単位
炭疽病	14,946	1.4	3,498	55.7	2.3	発病葉数/1.25㎡
もち病	3,816	0.9	636	7.4	1.3	発病葉数/1.25㎡
輪斑病	11,448	1.0	954	16.7	1.0	発病葉数/1.25㎡
チャノコカクモンハマキ	3,180	1.4	0	0.3	1.1	幼虫数/1.25㎡
チャハマキ	2,862	1.3	0	0.2	0.7	幼虫数/1.25㎡
チャノホソガ	9,540	1.5	0	4.6	0.8	巻葉数/1.25㎡
カンザワハダニ	10,176	1.6	2,544	5.5	3.2	寄生葉率%
チャノミドリヒメヨコシイ	14,946	1.5	6,360	10.7	3.2	叩き落とし虫数
クワシロカイガラムシ	6,678	0.9	3,816	14.8	1.0	寄生株率%
チャノキイロアザミウマ	15,264	1.1	318	13.2	1.0	叩き落とし虫数

発生面積・程度：年間の最大値 要防除面積：発生面積最大時の発生程度が中以上の面積

(令和3年度)
(栽培面積 5,420ha)

(3) 温州みかん

区分 病害虫名	発生面積 (ha)		要防除面積 (ha)	発生概評		
	発生面積 (ha)	平年比 (倍)		発生程度	平年比 (倍)	調査単位
そうか病	1,265	1.9	0	0.1	1.8	発病度
黒点病	5,059	1.7	0	1.7	1.8	発病度
かいよう病	542	0.6	0	0.1	0.5	発病度
ヤノネカイガラムシ	542	1.9	0	0.3	10.0	寄生(葉)果率%
ミカンハダニ	2,529	1.0	0	4.9	1.2	寄生葉率%
イセリヤカイガラムシ	903	3.9	0	0.2	1.8	寄生枝率%
ツノロウムシ	361	1.0	0	0.1	0.7	寄生枝率%
チャノキイロアザミウマ	3,252	0.8	0	0.4	0.4	果実被害度

発生面積・程度：年間の最大値 要防除面積：発生面積最大時の発生程度が中以上の面積

(令和4年度)
(栽培面積 15,500ha)

(1) 水稻

区分 病害虫名	発生面積 (ha)		要防除面積 (ha)	発生概評		
		平年比(倍)		発生程度	平年比(倍)	調査単位
葉いもち	6,297	4.6	969	4.3	4.3	発病株率%
穂いもち	1,453	1.8	0	0.40	1.0	発病株率%
白葉枯病	0	—	0	0	—	発病株率%
紋枯病	7,750	0.9	1,453	9.5	0.9	発病株率%
萎縮病	0	—	0	0	—	発病株率%
縞葉枯病	721	0.8	0	0.5	0.8	発病株率%
ニカメイチュウ	1,442	2.3	0	0.7	2.4	被害株率%
ツマグロヨコバイ	5,407	1.1	360	1.0	0.8	最高寄生数/株
ヒメトビウンカ	8,574	1.4	330	1.8	1.8	最高寄生数/株
セジロウンカ	3,965	0.9	0	0.9	0.6	最高寄生数/株
トビイロウンカ	721	1.0	0	0.4	0.6	最高寄生数/株
イネミズゾウムシ	4,759	0.6	4,769	10.5	0.9	被害株率%
斑点米カメムシ類	8,373	1.9	4415	5.4	4.6	すくい取り虫数/30回

発生面積・程度：年間の最大値 要防除面積：発生面積最大時の発生程度が中以上の面積

(令和4年度)
(栽培面積 15,200ha)

(2) 茶

区分 病害虫名	発生面積 (ha)		要防除面積 (ha)	発生概評		
		平年比(倍)		発生程度	平年比(倍)	調査単位
炭疽病	15,200	1.4	3,344	50.0	1.9	発病葉数/1.25㎡
もち病	6,992	2.9	1,520	21.2	15.1	発病葉数/1.25㎡
輪斑病	13,072	1.2	608	16.7	0.9	発病葉数/1.25㎡
チャノコカクモンハマキ	5,168	7.4	608	0.5	3.6	幼虫数/1.25㎡
チャハマキ	6,080	1.9	0	0.7	0.6	幼虫数/1.25㎡
チャノホソガ	9,728	1.6	0	2.0	0.4	巻葉数/1.25㎡
カンザワハダニ	9,424	1.5	3,115	2.6	1.2	寄生葉率%
チャノミドリヒメヨコバイ	13,680	1.3	5,168	8.6	2.0	叩き落とし虫数
クワシロカイガラムシ	8,208	2.1	4,868	15.6	2.3	寄生株率%
チャノキイロアザミウマ	14,268	1.1	608	11.1	0.9	叩き落とし虫数

発生面積・程度：年間の最大値 要防除面積：発生面積最大時の発生程度が中以上の面積

(令和4年度)
(栽培面積 5,350ha)

(3) 温州みかん

区分 病害虫名	発生面積 (ha)		要防除面積 (ha)	発生概評		
		平年比 (倍)		発生程度	平年比(倍)	調査単位
そうか病	1,605	2.1	178	1.3	12.9	発病度
黒点病	4,993	1.6	0	3.4	4.1	発病度
かいよう病	1,070	1.2	0	0.3	2.9	発病度
ヤノネカイガラムシ	1,070	1.3	0	0.5	1.1	寄生(葉)果率%
ミカンハダニ	3,210	1.2	891	13.2	1.3	寄生葉率%
イセリヤカイガラムシ	892	1.8	0	0.8	5.3	寄生枝率%
ツノロウムシ	357	1.2	0	0.1	0.9	寄生枝率%
チャノキイロアザミウマ	1,962	0.8	0	0.3	0.8	果実被害度

発生面積・程度：年間の最大値 要防除面積：発生面積最大時の発生程度が中以上の面積

(3) 事業の根拠法令調

事業名	根拠法令
<p>(農林技術研究所, 病虫害防除所関係)</p> <p>農業に関する試験研究事業</p> <p>バイオマス利活用フロンティア推進事業</p> <p>肥料検査事業</p> <p>農薬残留研究調査事業</p> <p>植物防疫対策事業</p> <p>病虫害発生予察事業</p>	<p>農業改良助長法 (第2章)</p> <p>静岡県民の豊かな暮らしを支える食と農の基本条例(第15条)</p> <p>地力増進法 (第4条、第5条、第8条)</p> <p>肥料取締法 (第30条)</p> <p>農薬取締法 (第2条、第3条)</p> <p>植物防疫法 (第32条、第33条)</p> <p>植物防疫法 (第23条、第31条)</p>
<p>(茶業研究センター関係)</p> <p>試験研究事業</p> <p>病虫害発生予察事業</p> <p>農薬適正使用管理体制強化事業</p> <p>発酵茶ラボ</p>	<p>農業改良助長法 (第2章)</p> <p>静岡県民の豊かな暮らしを支える食と農の基本条例(第15条)</p> <p>植物防疫法 (第23条、第31条)</p> <p>農薬取締法 (第12条の4)</p> <p>静岡県農林技術研究所茶業研究センター発酵茶等製造研究施設の設置、管理及び使用料に関する条例</p>
<p>(果樹研究センター関係)</p> <p>試験研究事業</p> <p>農薬・肥料適正使用管理体制強化事業</p> <p>病虫害発生予察事業</p>	<p>農業改良助長法 (第2章)</p> <p>果樹農業振興特別措置法 (第5章)</p> <p>静岡県民の豊かな暮らしを支える食と農の基本条例(第15条)</p> <p>農薬取締法 (第2条、第27条、第28条)</p> <p>植物防疫法 (第23条、第31条)</p>
<p>(森林・林業研究センター関係)</p> <p>試験研究事業</p> <p>委託 (受託) 試験事業</p> <p>林業普及指導事業</p>	<p>静岡県森林と県民の共生に関する条例</p> <p>静岡県手数料徴収条例、同要領</p> <p>森林法 (第187条)</p> <p>林業普及指導事業実施要領</p>

2 職員状況

様式第2号

(1) 職 員 調

森林・林業研究センター

(令和5年4月1日現在)

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要
1	センター長 (技)	荒生 安彦	センター総括	□□□	□ . □	□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□□□□□ □ □□□□□□□□□□
2	技監 (技)	藤田 巖	研究調整	□□□	□ . □	□□□
総務課森林・林業分室						
3	分室長 (事)	市原 真一	総務総括	□□□	□ . □	□□□ □□□□□□□□□□□□□□□□□□ □
4	主査 (事)	渡瀬 浩康	総務・経理	□□□	□ . □	□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□□□□□ □
5	主任 (事)	市川 俊明	総務・経理	□□□	□ . □	□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□□□□□ □
6	主任技能員 (業)	山田 宗二郎	実験棟・圃場管理 研究補助	□□□	□ . □	□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□ □ □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□ □ □□□□□□□□□□
企画指導スタッフ						
7	主査 (技)	光本 智加良	企画指導総括	□□□	□ . □	□□□
森林育成科						
8	森林育成科長 (技)	大橋 正孝	森林育成総括 育種、森林保護	□□□	□ . □	□□□ □□□□□□□□□□□□□□□□ □□□ □□□□□□□□□□
9	上席研究員 (技)	山田 晋也	育苗	□□□	□ . □	□□□ □□□□□□□□□□□□□□□□ □□□ □□□□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□
10	上席研究員 (技)	神谷 健太	森林保護(鳥獣害等)	□□□	□ . □	□□□
11	上席研究員 (技)	佐藤 紘朗	森林保護(鳥獣害等)	□□□	□ . □	□□□ □□□□□□□□□□
12	主任研究員 (技)	鷺山 立宗	森林保全 森の力再生事業モニタリング調査	□□□	□ . □	□□□□□□□□□□
13	主任研究員 (技)	内山 義政	森林保護(病虫害等)	□□□	□ . □	□□□
14	主任研究員 (技)	福田 拓実	育苗	□□□	□ . □	□□□ □□□□ □□□□□□□□□□
森林資源利用科						
15	木材資源利用 科長 (技)	袴田 哲司	木材資源利用統括	□□□	□ . □	□□□ □□□□□□□□□□□□□□□□ □ □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
16	上席研究員 (技)	中田 理恵	特用林産物	□□□	□ . □	□□□ □□□□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□□□
17	上席研究員 (技)	山口 亮	木材流通 林業イノベーション	□□□	□ . □	□□□
18	主任研究員 (技)	長瀬 亘	木材加工利用 木質バイオマス	□□□	□ □	□□□□□□□□□□□□□□□□□□ □□□□□□□□□□□□□□□□
19	研究員 (技)	稲葉 大地	木材品質性能	□□□	□ □	
会計年度任用職員						
1	パート (業)	伊藤 龍昭	運転・場内管理	□□□	□ . □	□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
2	パート (事)	吉田 智佳子	研究業務補助	□□□	□ . □	
3	パート (事)	渥美 則夫	研究業務補助	□□□	□ . □	
4	パート (事)	野村 恵子	研究業務補助	□□□	□ . □	
				職員数 本務 パート 計	19 4 23	
				平均勤務 年数	4 . 5 年 月	

(2) 職員の年齢調

森林・林業研究センター

(令和5年4月1日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	人	
20歳以上 30歳未満	1	
30歳以上 40歳未満	5	
40歳以上 50歳未満	3	
50歳以上 56歳未満	4	
56歳以上 61歳未満	5	
61歳以上	1	うち再任用職員 1名
計	19	平均年齢 47.1歳

(3) 健康管理

1 令和4年度受診状況

(森林・林業研究センター)

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 20人
	職員数 20人
受 診 率	100.0%
県平均受診率	100.0%

(1) 未受診の理由

- (注) 1 前年度末日現在在籍している職員について記載する。
 2 受診率算定に当たっては、休職・特休中、育休・産休・妊娠中、治療中及び海外派遣中等の職員は、算定の対象から除く。 2 令和5年度在籍者の健康管理区分結果

2 令和4年度在籍者の健康管理区分結果

(森林・林業研究センター)

健 康 管 理 区 分		人 数
A	休養のため必要な時間、勤務を休止させる。	人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療 人
B 2		要経過観察 人
C 1	勤務をほぼ平常に行ってよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療 1人
C 2		要経過観察 人
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療 10人 (10人)
D 2		要経過観察 4人 (4人)
D 3		医 療 不 要 5人 (5人)
区 分 者 計		19人 (19人)
未区分者数		人
合 計		19人 (19人)

(1) 管理区分A～C 2該当者に対する措置状況

C 1：時間外勤務及び遠方への出張を控えている。

(2) 未区分の理由

- ア 産休・育休 人
 イ 新規採用 人
 ウ 自己都合による未受診 人
 エ その他 (自己啓発等休業) 人

- (注) 1 健康管理区分結果は、調書調製日現在在籍している職員（様式第2号-2の記載対象者と同じ。）について記載する。
 2 本年度の健康管理区分結果が出ていない職員については、前年度の結果を記載し、()書きで再掲する。
 3 前年度に市町等へ派遣されていた職員等は、派遣先等の健康診断結果等に基づき、該当箇所に記載する。

(4) 職員配置調

様式第3号

職 員 配 置 調

(令和5年4月1日現在)

区 分	農 林 技 術 研 究 所												小計
	総務課	企画調整部	次世代栽培システム科	野菜生産技術科	花き生産技術科	水田農業生産技術科	農業ロボット・経営戦略科	加工技術科	植物保護・環境保全科	栄養・機能性科	病害虫防除所		
所在地	磐 田 市 富 丘 678-1												
担当区域	県 内 全 域												
配置職員	職員(事)	4											4 (-)
	職員(技)	3	4	4	4	4	7	4	3	5	3	7	48 (-)
	職員(業)		6										6 (-)
	再任用職員(事)	2											2
	再任用職員(技)			1	1								2
	再任用職員(業)		4										4 (-)
	会計年度任用職員	(2)	(23)	(2)								(1)	(28)
	臨時的任用職員												(-)
計	9 (2)	14 (23)	5 (2)	5 (-)	4 (-)	7 (-)	4 (-)	3 (-)	5 (-)	3 (1)	7 (-)	66 (28)	

(注) ()のうち、兼務職員、会計年度任用職員、臨時任用職員は外数。

区 分	茶 業 研 究 セ ン タ ー					果 樹 研 究 セ ン タ ー					小計
	総務課 茶業分室	茶生産 技術科	茶環境 適応 技術科	新商品 開発科		総務課 果樹分室	果樹生産 技術科	果樹環境 適応技術 科	果樹加工 技術科		
所在地	菊 川 市 倉 沢 1706-11					静 岡 市 清 水 区 茂 畑					
担当区域	県 内 全 域					県 内 全 域					
配置職員	職員(事)	1				1 (-)	1				1 (-)
	職員(技)	2	5	3	4	14 (-)	2	5	5	2	14 (-)
	職員(業)	2				2 (-)	2				2 (-)
	再任用職員(事)	2				2 (-)	2				2 (-)
	再任用職員(技)		1	1	1	3 (-)		1		2	3 (-)
	再任用職員(業)					0 (-)					0 (-)
	会計年度任用職員	(8)				(8)	(7)				(7)
	臨時的任用職員					(-)					(-)
計	7 (8)	6 (-)	4 (-)	5 (-)	22 (8)	7 (7)	6 (-)	5 (-)	4 (-)	22 (7)	

(注) ()のうち、兼務職員、会計年度任用職員、臨時任用職員は外数。

区 分	伊豆農業研究センター				森林・林業研究センター					合計	
	(総務課)	生育・加工技術科	わさび生産技術科	小計	総務課 林業分室	企画指導 スタッフ	森林育成 科	森林資源 利用科	小計		
所在地	賀茂郡東伊豆町 稲取3012		伊豆市 湯ヶ島 2860-25		浜松市浜北区根堅2542-8						
担当区域	県 内 全 域				県 内 全 域						
配置職員	職員(事)	(2)			(2)	2				2 (-)	8 (2)
	職員(技)	1	4	3	8 (-)	2	1	7	5	15 (-)	99 (-)
	職員(業)				0 (-)	1				1 (-)	11 (-)
	再任用職員 (事)					1				1	7 (-)
	再任用職員 (技)				0					0	8 (-)
	再任用職員 (業)		1		1 (-)					0 (-)	5 (-)
	会計年度任用職員	(1)	(3)	(2)	(6)	(4)				0 (4)	0 (53)
	臨時的任用職員				(-)					0 (-)	0 (-)
	計	1 (3)	5 (3)	3 (2)	9 (8)	6 (4)	1 (-)	7 (-)	5 (-)	19 (4)	138 (55)

(注) ()のうち、兼務職員、会計年度任用職員、臨時任用職員は外数。

見開き調整ページ

歳 入 予 算

一般会計

区 分	調 定 額 A	収 入 済 額	
		納 期 内 B	納 期 後 C
	円	円	円
款 08 使用料及び手数料	48,500	42,200	6,300
項 01 使用料	48,500	42,200	6,300
目 06 経済産業使用料	48,500	42,200	6,300
13 庁舎等使用料	48,500	42,200	6,300
款 14 諸収入	3,475,369	2,375,369	1,100,000
項 05 受託事業収入	2,550,700	1,450,700	1,100,000
目 04 経済産業受託事業収入	2,550,700	1,450,700	1,100,000
03 森林・林業研究センター受託料	2,550,700	1,450,700	1,100,000
項 08 雑入	924,669	924,669	0
目 02 雑入	924,669	924,669	0
76 保険料負担金	847,729	847,759	0
非常勤職員	847,759	847,759	0
79 雑収	76,910	76,910	0
雑収	76,860	76,860	0
公文書開示負担金	50	50	0
計	3,523,869	2,417,569	1,106,300

執行状況調

(令和3年度)

不納欠損額 D	収入未済額			収入歩合 $\frac{B+C}{A-D-F}$ %	納期内 収入率 $\frac{B}{A-D-F}$ %	摘要
	納期限経過 E	納期限未到来 F	計			
円	円	円	円			
0	0	0	0	100.0	87.0	
0	0	0	0	100.0	87.0	
0	0	0	0	100.0	87.0	
0	0	0	0	100.0	87.0	
0	0	0	0	100.0	68.3	
0	0	0	0	100.0	56.8	
0	0	0	0	100.0	56.8	
0	0	0	0	100.0	56.8	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	68.6	

歳 入 予 算

一般会計

区 分	調 定 額 A	収 入 済 額	
		納 期 内 B	納 期 後 C
	円	円	円
款 08 使用料及び手数料	45,970	39,720	6,250
項 01 使用料	45,970	39,720	6,250
目 06 経済産業使用料	45,970	39,720	6,250
13 庁舎等使用料	45,970	39,72	6,250
款 14 諸収入	3,168,094	3,168,094	0
項 05 受託事業収入	2,447,000	2,447,000	0
目 04 経済産業受託事業収入	2,447,000	2,447,000	0
03 森林・林業研究センター受託料	2,447,000	2,447,000	0
項 08 雑入	721,094	721,094	0
目 02 雑入	721,094	721,094	0
76 保険料負担金	379,404	379,404	0
非常勤職員	379,404	379,404	0
79 雑収	341,690	341,690	0
計	3,214,064	3,207,814	6,250

執行状況調

(令和4年度)

(令和5年2月28日現在)

不納欠損額 D	収入未済額			収入歩合 $\frac{B+C}{A-D-F}$	納期内 収入率 $\frac{B}{A-D-F}$	摘要
	納期限経過 E	納期限未到来 F	計			
円	円	円	円	%	%	
0	0	0	0	100.0	86.4	
0	0	0	0	100.0	86.4	
0	0	0	0	100.0	86.4	
0	0	0	0	100.0	86.4	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	
0	0	0	0	100.0	100.0	

様式第5号-2

県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調

区 分	令和3年度	令和4年度 (令和5年2月28日現在)
	件 数	件 数
材木種子の発芽率検定	0件	0件
木材の材質試験	44件	43件
計	44件	43件

(注) 1 本表は出先機関において、該当がある場合に調製する。

2 「区分」欄は、使用料及び手数料の名称を記載する。

保管現金有高調

(令和4年度)

(令和5年2月28日現在)

現金保管者	区 分	金 額
森林・林業研究センター 資金前渡者 センター長	遠隔地等における公用車燃料代 継続的資金前渡	1,060円
森林・林業研究センター 資金前渡者 センター長	有料道路等使用料 継続的資金前渡	6,320円

預 金 調

(令和5年2月28日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高 (円)	摘要
㈱静岡銀行 西鹿島支店	無利息型 普通預金	0319576	静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター 資金前渡者センター長 清水 全	0	遠隔地公用車燃料代、 有料道路使用料、 証紙購入、負担金の支 出
㈱静岡銀行 西鹿島支店	無利息型 普通預金	0319587	(自振口) 静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター 資金前渡者センター長 清水 全	0	電気料、水道料金、 電話料、携帯電話料、 インターネット利用料 の支出
残 高 合 計				0	

郵券等受払調

(令和5年2月28日現在)
(単位：枚、円)

区分	種類	令和3年度						令和4年度								摘要
		繰越		受入		払出		繰越		受入		払出		差引現在高		
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	
郵券	1円券	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	郵便発送
	5円券	3	15	0	0	2	10	1	5	0	0	0	0	1	5	
	10円券	0	0	0	0	0	0	0	0	50	500	1	10	49	490	
	50円券	4	200	0	0	1	50	3	150	10	500	1	50	12	600	
	62円券	2	124	0	0	0	0	2	124	0	0	2	124	0	0	
	63円券	2	126	2	126	0	0	4	252	0	0	4	252	0	0	
	84円券	1	84	133	11,172	134	11,256	0	0	150	12,600	94	7,896	56	4,704	
	92円券	3	276	0	0	0	0	3	276	0	0	3	276	0	0	
	94円券	0	0	0	0	0	0	0	0	100	9,400	3	282	97	9,118	
	100円券	47	4,700	0	0	4	400	43	4,300	9	900	1	100	51	5,100	
	120円券	14	1,680	0	0	0	0	14	1,680	9	1,080	6	720	17	2,040	
140円券	65	9,100	0	0	4	560	61	8,540	9	1,260	2	280	68	9,520		
280円券	48	13,440	0	0	0	0	48	13,440	0	0	48	13,440	0	0		
500円券	17	8,500	0	0	0	0	17	8,500	0	0	17	8,500	0	0		
計			38,245		11,298		12,276		37,267		26,240		31,930		31,577	
県証紙	200円券	0	0	0	0	0	0	0	0	1	200	1	200	0	0	銃砲所持許可申請用 安全運転管理協会講習手数料
	500円券	0	0	1	500	1	500	0	0	2	1,000	2	1,000	0	0	
	2,000円券	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4,000	2	4,000	0	0	
	3,000円券	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3,000	1	3,000	0	0	
	4,000円券	0	0	0	0	0	0	0	0	3	12,000	3	12,000	0	0	
10,000円券	0	0	1	10,000	1	10,000	0	0	0	0	0	0	0	0		
計			0		10,500		10,500		0		20,000		20,000		0	

歳出予算執行状況調

(令和3年度)

一般会計

区 分	令達予算額	支出済額	支出未済額	摘 要
	円	円	円	
款04経営管理費	6,881,933	6,881,933	0	
項01経営管理費	6,881,933	6,881,933	0	
目01一般総務費	2,324,933	2,324,933	0	
01報酬	1,401,273	1,401,273	0	
03非常勤職員報酬	1,401,273	1,401,273	0	
03職員手当等	276,970	276,970	0	
01その他職員手当等	276,970	276,970	0	
04共済費	579,590	579,590	0	
02報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	579,590	579,590	0	
08旅費	67,100	67,100	0	
01その他旅費	67,100	67,100	0	
目03行政経営費	2,459,300	2,459,300	0	
08旅費	105,300	105,300	0	
02普通旅費	105,300	105,300	0	
14工事請負費	2,354,000	2,354,000	0	
目05資産経営費	2,097,700	2,097,700	0	
10需用費	249,700	249,700	0	
01その他の需用費	249,700	249,700	0	
14工事請負費	1,848,000	1,848,000	0	
款05くらし・環境費	714,940	714,940	0	
項04環境費	714,940	714,940	0	
目01環境政策費	714,940	714,940	0	
08旅費	24,520	24,520	0	
02普通旅費	24,520	24,520	0	
10需用費	669,300	669,300	0	
01その他の需用費	669,300	669,300	0	
11役務費	21,120	21,120	0	
12委託料	0	0	0	

一般会計

区 分	令達予算額	支出済額	支出未済額	摘 要
	円	円	円	
款06スポーツ・文化観光費	11,470	11,470	0	
項02スポーツ費	11,470	11,470	0	
目01スポーツ費	11,470	11,470	0	
08旅費	11,470	11,470	0	
02普通旅費	11,470	11,470	0	
款07健康福祉費	4,480	4,480	0	
項06感染症対策費	4,480	4,480	0	
目01感染症対策費	4,480	4,480	0	
08旅費	4,480	4,480	0	
02普通旅費	4,480	4,480	0	
款08経済産業費	47,641,219	45,476,252	2,164,967	
項01経済産業費	13,140	13,140	0	
目02経済産業企画費	13,140	13,140	0	
08旅費	13,140	13,140	0	
02普通旅費	13,140	13,140	0	
項05農業費	37,473,688	35,308,721	2,164,967	
目01農業費	37,473,688	35,308,721	2,164,967	
01報酬	4,460,000	4,450,129	9,871	
03非常勤職員報酬	4,460,000	4,450,129	9,871	
03職員手当等	695,000	694,442	558	
01その他の職員手当等	695,000	694,442	558	
04共済費	1,229,000	1,214,248	14,752	
02報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	1,229,000	1,214,248	14,752	
07報償費	25,000	24,337	663	
01その他の報償費	25,000	24,337	663	
08旅費	2,072,000	992,349	1,079,651	
01その他の旅費	234,000	199,189	34,811	
02普通旅費	1,838,000	793,160	1,044,840	

一般会計

区 分	令達予算額	支出済額	支出未済額	摘 要
	円	円	円	
10需用費	14,968,000	14,963,586	4,414	
01その他の需用費	14,968,000	14,963,586	4,414	
11役務費	2,725,000	2,321,258	403,742	
12委託料	9,309,000	9,198,785	110,215	
13使用料及び賃借料	423,688	235,133	188,555	
14工事請負費	428,000	418,000	10,000	
17備品購入費	620,000	428,054	191,946	
18負担金、補助及び交付金	385,000	234,400	150,600	
26公課費	134,000	134,000	0	
項07森林・林業費	10,154,391	10,154,391	0	
目01森林・林業費	10,154,391	10,154,391	0	
08旅費	381,630	381,630	0	
01その他の旅費	0	0	0	
02普通旅費	381,630	381,630	0	
10需用費	2,658,014	2,658,014	0	
01その他の需用費	2,658,014	2,658,014	0	
11役務費	148,640	148,640	0	
12委託料	6,950,107	6,950,107	0	
13使用料及び賃借料	0	0	0	
18負担金、補助及び交付金	16,000	16,000	0	
計	55,254,042	53,089,075	2,164,967	

歳出予算執行状況調

(令和4年度)
(令和5年2月28日現在)

一般会計

区 分	令達予算額	支出済額	支出未済額	摘 要
	円	円	円	
款04経営管理費	5,583,844	3,778,029	1,805,815	
項01経営管理費	5,583,844	3,778,029	1,805,815	
目01一般総務費	43,524	41,709	1,815	
04共済費	43,524	41,709	1,815	
02報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	43,524	41,709	1,815	
目03行政経営費	261,420	261,420	0	
08旅費	261,420	261,420	0	
02普通旅費	261,420	261,420	0	
目05資産経営費	5,278,900	3,474,900	1,804,000	
10需用費	339,900	339,900	0	
01その他の需用費	339,900	339,900	0	
14工事請負費	4,939,000	3,135,000	1,804,000	
款05くらし・環境費	1,161,638	930,615	231,023	
項04環境費	1,161,638	930,615	231,023	
目01環境政策費	1,161,638	930,615	231,023	
08旅費	177,188	65,950	111,238	
02普通旅費	177,188	65,950	111,238	
10需用費	927,450	829,885	97,565	
01その他の需用費	927,450	829,885	97,565	
11役務費	57,000	34,780	22,220	
12委託料	0	0	0	
款07健康福祉費	14,944	14,944	0	
項06感染症対策費	14,944	14,944	0	
目01感染症対策費	14,944	14,944	0	
08旅費	14,944	14,944	0	
02普通旅費	14,944	14,944	0	
款08経済産業費	55,610,792	35,998,932	19,611,860	
項01経済産業費	18,900	18,900	0	
目02経済産業企画費	18,900	18,900	0	
08旅費	18,900	18,900	0	
02普通旅費	18,900	18,900	0	

様式第10号

(令和4年度)
(令和5年2月28日現在)

一般会計

区 分	令達予算額	支出済額	支出未済額	摘 要
	円	円	円	
項02産業革新費	9,574,967	6,476,325	3,098,642	
目01産業革新費	9,574,967	6,476,325	3,098,642	
01報酬	1,752,000	1,233,078	518,922	
03非常勤職員報酬	1,752,000	1,233,078	518,922	
03職員手当等	62,000	61,988	12	
01その他の職員手当等	62,000	61,988	12	
04共済費	35,000	5,256	29,744	
02報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	35,000	5,256	29,744	
08旅費	642,000	492,607	149,393	
01その他の旅費	202,000	135,797	66,203	
02普通旅費	440,000	356,810	83,190	
10需用費	2,590,622	1,694,290	896,332	
01その他の需用費	2,590,622	1,694,290	896,332	
11役務費	2,567,345	1,994,516	572,829	
12委託料	660,000	0	660,000	
13使用料及び賃借料	114,000	81,950	32,050	
17備品購入費	858,000	778,090	79,910	
18負担金、補助及び交付金	294,000	134,550	159,450	
項05農業費	35,712,015	27,202,803	8,509,212	
目01農業費	35,712,015	27,202,803	8,509,212	
01報酬	3,586,000	2,972,957	613,043	
03非常勤職員報酬	3,586,000	2,972,957	613,043	
03職員手当等	654,000	653,594	406	
01その他の職員手当等	654,000	653,594	406	
04共済費	1,121,000	887,346	233,654	
01地方公務員共済組合に対する負担金	108,000	85,001	22,999	
02報酬、給料及び賃金に係る社会保険料	1,013,000	802,345	210,655	
07報償費	76,870	76,870	0	
01その他の報償費	76,870	76,870	0	
08旅費	1,512,970	1,076,203	436,767	
01その他の旅費	204,000	114,641	89,359	
02普通旅費	1,308,970	961,562	347,408	

様式第10号

(令和4年度)
(令和5年2月28日現在)

一般会計

区 分	令達予算額	支出済額	支出未済額	摘 要
	円	円	円	
10需用費	14,906,695	14,412,996	493,699	
01その他の需用費	14,906,695	14,412,996	493,699	
11役務費	2,981,000	1,817,747	1,163,253	
12委託料	8,438,000	3,613,899	4,824,101	
13使用料及び賃借料	236,080	220,891	15,189	
14工事請負費	1,421,000	748,000	673,000	
17備品購入費	394,400	394,400	0	
18負担金、補助及び交付金	225,000	169,300	55,700	
26公課費	159,000	158,600	400	
項07森林・林業費	10,304,910	2,300,904	8,004,006	
目01森林・林業費	10,304,910	2,300,904	8,004,006	
08旅費	650,000	345,184	304,816	
02普通旅費	650,000	345,184	304,816	
10需用費	1,982,000	1,693,418	288,582	
01その他の需用費	1,982,000	1,693,418	288,582	
11役務費	134,910	114,702	20,208	
12委託料	6,228,000	0	6,228,000	
13使用料及び賃借料	290,000	127,600	162,400	
14工事請負費	0	0	0	
17備品購入費	1,000,000	0	1,000,000	
18負担金、補助及び交付金	20,000	20,000	0	
21補償、補填及び賠償金	0	0	0	
計	62,371,218	40,722,520	21,648,698	

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)		
					令和2年度	令和3年度	左のうち、2年度からの繰越額分
(12) 委託料	1. 一般会計	5. 暮らし・環境費	4. 環境費	1. 環境政策費	/	0	/
	1. 一般会計	8. 経済産業費	5. 農業費	1. 農業費		9,198,785	
	1. 一般会計	8. 経済産業費	7. 森林・林業費	1. 森林・林業費		6,950,107	
計					21,060,096	16,148,892	0
(14) 工事請負費	1. 一般会計	4. 経営管理費	1. 経営管理費	3. 行政経営費	/	2,354,000	/
	1. 一般会計	4. 経営管理費	1. 経営管理費	5. 資産経営費		1,848,000	
	1. 一般会計	8. 経済産業費	5. 農業費	1. 農業費		418,000	
計					3,025,000	4,620,000	0
(16) 公有財産 購入費					/		/
計					0	0	0
(17) 備品購入費	1. 一般会計	8. 経済産業費	5. 農業費	1. 農業費	/	428,054	/
計					989,450	428,054	0
(18) 負担金、補助 及び交付金	1. 一般会計	8. 経済産業費	5. 農業費	1. 農業費	/	234,400	/
	1. 一般会計	8. 経済産業費	7. 森林・林業費	1. 森林・林業費		16,000	
計					275,700	250,400	0
(22) 補償、補填 及び賠償金					/		/
計					0	0	0

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和5年2月28日現在)

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
						うち、令和3年度からの繰越額分
(12) 委託料	1. 一般会計	5. 暮らし・環境費	4. 環境費	1. 環境政策費	0	0
	1. 一般会計	8. 経済産業費	2. 産業革新費	1. 産業革新費	0	0
	1. 一般会計	8. 経済産業費	5. 農業費	1. 農業費	3,613,899	0
	1. 一般会計	8. 経済産業費	7. 森林・林業費	1. 森林・林業費	0	0
計					3,613,899	0
(14) 工事請負費	1. 一般会計	4. 経営管理費	1. 経営管理費	5. 資産経営費	3,135,000	0
	1. 一般会計	8. 経済産業費	5. 農業費	1. 農業費	748,000	0
	1. 一般会計	8. 経済産業費	7. 森林・林業費	1. 森林・林業費	0	0
計					3,883,000	0
(16) 公有財産 購入費						
計					0	0
(17) 備品購入費	1. 一般会計	8. 経済産業費	2. 産業革新費	1. 産業革新費	778,090	0
	1. 一般会計	8. 経済産業費	5. 農業費	1. 農業費	394,400	0
	1. 一般会計	8. 経済産業費	7. 森林・林業費	1. 森林・林業費	0	0
計					1,172,490	0
(18) 負担金、補助 及び交付金	1. 一般会計	8. 経済産業費	2. 産業革新費	1. 産業革新費	134,550	0
	1. 一般会計	8. 経済産業費	5. 農業費	1. 農業費	169,300	0
	1. 一般会計	8. 経済産業費	7. 森林・林業費	1. 森林・林業費	20,000	0
計					323,850	0
(21) 補償、補填 及び賠償金						
計					0	0

委 託 料 に

整理 番号	委 託 業 務 名	受 託 者	当初設計 金額(円)	契 約 金 額(円)		
				当初額	変更増減額	計
1	(事務関係) 森林・林業研究センター清掃業 務委託	浜松市中区常盤町132-8 中部ビル保善(株)	2,811,336	2,442,000	0	2,442,000
2	森の科学館管理業務委託	浜松市中区鴨江三丁目1-10 (公社)浜松市シルバー人材 センター	797,940	797,940	0	797,940
3	自家用電気工作物保安全管理業 務委託	浜松市北区東三方町503-1 (一財)中部電気保安協会浜 松北営業所	269,280	269,280	0	269,280
4	消防設備保守点検業務委託	浜松市東区将監町7-14 セルコ(株)	444,840	444,840	-142,230	302,610
5	空調及びクリーンルーム関係設 備保守点検業務委託	浜松市中区上島二丁目19- 20 ヤマザキ・シー・エー(株)	3,221,900	2,860,000	0	2,860,000
6	合併浄化槽保守点検業務委託	浜松市東区白鳥町1417-1 (株)北陽	467,060	467,060	0	467,060
7	庁舎機械警備業務委託	東京都渋谷区神宮前1-5-1 セコム(株)	390,720	390,720	0	390,720

関 する 調

(令和3年度)

契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額(円)	委託業務の内容	摘要
一般	自 R3.4.1 至 R4.3.31	R3.5.31	132,550	日常清掃 12か月 定期清掃 年2回 ガラス清掃 年2回 受水槽清掃 年1回 空気環境測定 年6回	
		R3.6.30	160,050		
		R3.7.30	198,550		
		R3.8.31	470,250		
		R3.9.30	132,550		
		R3.10.29	160,050		
		R3.11.30	132,550		
		R3.12.24	160,050		
		R4.1.31	132,550		
		R4.2.28	470,250		
R4.3.31	132,550				
R4.4.28	160,050				
	小計	2,442,000			
随契	自 R3.4.1 至 R4.3.31	R3.6.4	61,380	森の科学館管理(土日祝日)	随契1号(少額) 単価契約 概算所要
		R3.6.30	88,660		
		R3.7.30	54,560		
		R3.8.31	75,020		
		R3.9.30	27,280		
		R3.11.30	68,200		
		R3.12.27	68,200		
		R4.1.31	54,560		
		R4.2.28	40,920		
		R4.3.31	34,100		
	小計	572,880			
随契	自 R3.4.1 至 R4.3.31	R3.4.30	134,640	自家用電気工作物(キュービクル、非常用発電機)保安管理	随契1号(少額)
		R3.10.15	134,640		
		小計	269,280		
随契	自 R3.4.1 至 R4.3.31	R3.12.3	132,550	消防用機材保守点検 (変更理由) ガス漏れ警報設備点検の取り止め	随契1号(少額)
		R4.3.18	170,060		
		小計	302,610		
一般	自 R3.4.1 至 R4.3.31	R4.4.8	2,860,000	一般空調・研究用無菌設備保守点検	
随契	自 R3.4.1 至 R4.3.31	R4.4.8	467,060	合併浄化槽保守点検	随契1号(少額)
随契	自 R3.4.1 至 R4.3.31	R3.5.31	32,560	建物外周及び内部の機械警備	随契1号(少額)
		R3.6.30	32,560		
		R3.7.30	32,560		
		R3.8.31	32,560		
		R3.9.30	32,560		
		R3.10.29	32,560		
		R3.11.30	32,560		
		R3.12.27	32,560		
		R4.1.31	32,560		
		R4.2.28	32,560		
R4.3.31	32,560				
R4.4.28	32,560				
	小計	390,720			

委 託 料 に

整理 番号	委 託 業 務 名	受 託 者	当初設計 金額(円)	契 約 金 額(円)		
				当初額	変更増減額	計
8	一般廃棄物収集運搬処理業務 委託	浜松市東区有玉南町2163 (株)ミダック	118,800	105,600	0	105,600
9	森の力再生事業モニタリング調 査業務委託	静岡市葵区清閑町13-12 (株)環境アセスメントセンター	8,584,400	5,115,000	-107,241	5,007,759
					66,848	5,074,607
10	ジベレリンA4処分委託	豊橋市伊古部町字東荒子41 (株)マルサワ	29,700	29,700	0	29,700
11	廃棄物収集運搬処分委託	浜松市天竜区二俣町二俣41 (株)リサイクルクリーン	29,700	29,700	0	29,700
12	耐力壁面内せん断試験機保守 点検業務委託	静岡市葵区大岩2-14-20 東海理機(株)	474,760	457,160	0	457,160
13	廃棄物収集運搬処分委託	浜松市天竜区二俣町二俣41 (株)リサイクルクリーン	51,700	51,700	0	51,700
14	機密書類収集運搬処分委託	浜松市天竜区二俣町二俣41 (株)リサイクルクリーン	77,000	77,000	0	77,000
15	森林・林業研究センター樹木伐 倒業務委託	浜松市西区呉松町2382-1 (有)荻造園工事	274,989	264,000	0	264,000
16	森林・林業研究センター樹木伐 倒業務委託(その2)	静岡市清水区山切733-1 片平 有信	343,200	343,200	0	343,200
17	森林・林業研究センター不要薬 品等処分業務委託	豊橋市伊古部町字東荒子41 (株)マルサワ	192,975	192,975	0	192,975
18	改良型動物侵入検知通報端末 製作業務委託	静岡市葵区伝馬町8-6 凸版印刷株式会社静岡営業 所	1,875,500	1,875,500	0	1,875,500
19	森林・林業研究センター樹木伐 倒業務委託(その3)	静岡市清水区山切733-1 片平 有信	343,200	343,200	0	343,200
	事務関係 計	14件	20,799,000	16,556,575	-182,623	16,373,952
	工事関係 計	0件	0	0	0	0
	合 計	14件	20,799,000	16,556,575	-182,623	16,373,952

関 する 調

(令和3年度)

契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額(円)	委託業務の内容	摘要
随契	自 R3.4.1 至 R4.3.31	R3.5.31	8,800	一般ごみ(可燃物、資源ゴミ)の収集運搬処理	随契1号(少額)
		R3.6.30	8,800		
		R3.7.30	8,800		
		R3.8.31	8,800		
		R3.9.30	8,800		
		R3.10.29	8,800		
		R3.11.30	8,800		
		R3.12.24	8,800		
		R4.1.31	8,800		
		R4.2.28	8,800		
		R4.3.31	8,800		
		R4.4.28	8,800		
		小計	105,600		
一般	自 R3.5.24 至 R4.2.28	R4.4.28	5,074,607	立木調査、植生調査、林床被覆率調査等 (変更理由) 調査地点(プロット数)の減少。 (変更理由) 報告項目を追加。	
随契	自 R3.5.17 至 R3.6.28	R3.7.5	29,700	不用品ジベレリンA4の処分	随契1号(少額)
随契	自 R3.7.26 至 R3.9.15	R3.9.24	29,700	不燃ゴミ等の収集運搬処分	随契1号(少額)
随契	自 R3.7.16 至 R3.11.8	R3.11.15	457,160	耐力壁面内せん断試験機の保守点検	随契1号(少額)
随契	自 R3.11.9 至 R4.2.28	R4.2.10	51,700	不燃ゴミ等の収集運搬処分	随契1号(少額)
随契	自 R3.11.16 至 R3.12.28	R3.12.14	77,000	保管年限が過ぎた公文書の廃棄処分	随契1号(少額)
随契	自 R4.1.26 至 R4.3.15	R4.3.18	264,000	森林・林業研究センター構内の立木伐採	随契1号(少額)
随契	自 R4.1.31 至 R4.3.15	R4.3.31	343,200	森林・林業研究センター構内の立木伐採	随契1号(少額)
随契	自 R4.2.9 至 R4.3.18	R4.3.18	192,975	ランネット(汚泥)等不要薬品の処分	随契1号(少額)
随契	自 R4.2.9 至 R4.3.18	R4.4.28	1,875,500	動物侵入検知通報システムの端末を改良する開発業務	随契2号(競争不適)
随契	自 R4.3.4 至 R4.3.15	R4.3.31	343,200	森林・林業研究センター構内の立木伐採	随契1号(少額)
			16,148,892		
			0		
			16,148,892		

委 託 料 に

整理 番号	委 託 業 務 名	受 託 者	当初設計 金額(円)	契 約 金 額 (円)		
				当初額	変更増減額	計
1	(事務関係) 森林・林業研究センター清掃業 務委託	浜松市中区常盤町132-8 中部ビル保善(株)	2,750,220	2,514,600	0	2,514,600
2	自家用電気工作物保安管理業 務委託	浜松市北区東三方町503-1 (一財)中部電気保安協会浜 松北営業所	370,920	370,920	0	370,920
3	消防設備保守点検業務委託	浜松市東区将監町7-14 セルコ(株)	304,370	304,370	0	304,370
4	空調及びクリーンルーム関係設 備保守点検業務委託	浜松市中区上島二丁目19- 20 ヤマザキ・シー・エー(株)	3,170,200	2,860,000	0	2,860,000
5	合併浄化槽保守点検業務委託	浜松市東区白鳥町1417-1 (株)北陽	467,060	467,060	0	467,060
6	庁舎機械警備業務委託	東京都渋谷区神宮前1-5-1 セコム(株)	390,720	390,720	0	390,720
7	一般廃棄物収集運搬処理業務 委託	浜松市東区有玉南町2163 (株)ミダックライナー	105,600	105,600	0	105,600

関 する 調

(令和4年度)
(令和5年2月28日現在)

契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額(円)	委託業務の内容	摘要
一般	自 R4.4.1 至 R5.3.31	R4.5.31	138,600	日常清掃 12か月 定期清掃 年2回 ガラス清掃 年2回 受水槽清掃 年1回 空気環境測定 年6回	
		R4.6.30	166,100		
		R4.7.29	204,600		
		R4.8.31	476,300		
		R4.9.30	138,600		
		R4.10.31	166,100		
		R4.11.30	138,600		
		R4.12.23	166,100		
		R5.1.31	138,600		
		R5.2.28	476,300		
	小計	2,209,900			
随契	自 R4.4.1 至 R5.3.31	R4.4.28	185,460	家用電気工作物(受変電設備、非常用発電機)保安管理	随契1号(少額)
		R4.10.14	185,460		
		小計	370,920		
随契	自 R4.4.1 至 R5.3.31	R4.9.30	133,430	消防用機材保守点検	随契1号(少額)
		小計	133,430		
一般	自 R4.4.1 至 R5.3.31			一般空調・研究用無菌設備保守点検(変更理由) オイルポンプ点検の取り止め	
随契	自 R4.4.1 至 R5.3.31			合併浄化槽保守点検	随契1号(少額)
随契	自 R4.4.1 至 R5.3.31	R4.5.31	32,560	建物外周及び内部の機械警備	随契1号(少額)
		R4.6.30	32,560		
		R4.7.29	32,560		
		R4.8.31	32,560		
		R4.9.30	32,560		
		R4.10.31	32,560		
		R4.10.31	32,560		
		R4.12.23	32,560		
		R5.1.31	32,560		
		R5.2.28	32,560		
	小計	325,600			
随契	自 R4.4.1 至 R5.3.31	R4.5.31	8,800	一般ごみ(可燃物、資源ゴミ)の収集運搬処理	随契1号(少額)
		R4.6.30	8,800		
		R4.7.29	8,800		
		R4.8.31	8,800		
		R4.9.30	8,800		
		R4.10.31	8,800		
		R4.11.30	8,800		
		R4.12.23	8,800		
		R5.1.31	8,800		
		R5.2.28	8,800		
	小計	88,000			

委 託 料 に

整理 番号	委 託 業 務 名	受 託 者	当初設計 金額(円)	契 約 金 額(円)		
				当初額	変更増減額	計
8	実大木材強度試験機保守点検 業務委託	静岡市葵区大岩2-14-20 東海理機(株)	278,300	278,300	0	278,300
9	森林・林業研究センター苗木管 理業務委託	浜松市中区鴨江三丁目1-10 (公社)浜松市シルバー人材 センター	103,599	103,552	-1,953	101,599
10	森の力再生事業モニタリング調 査業務委託	静岡市清水区小芝町4-13 (株)サイエンス	7,751,700	4,576,000	166,884	4,742,884
11	廃棄物収集運搬処分委託	浜松市天竜区二俣町二俣41 (株)リサイクルクリーン	51,700	51,700	0	51,700
12	改良型動物侵入通報端末製作 業務委託	凸版印刷	1,106,050	1,106,050	378,620	1,484,670
13	携帯型木材強度区分器のアプリ 追加機能開発業務委託	島田市金谷東2-3482-413 マイクロメジャー(株)	660,000	660,000	0	660,000
14	森林・林業研究センター緑地管 理業務委託	浜松市中区鴨江三丁目1-10 (公社)浜松市シルバー人材 センター	18,700	18,700	0	18,700
15	不要薬品等処分業務委託	豊橋市伊古部町字東荒子41 (株)マルサワ	35,750	35,750	0	35,750
16	廃棄物収集運搬処分委託(その 2)	浜松市天竜区二俣町二俣41 (株)リサイクルクリーン	51,700	51,700	0	51,700
17	フロン機器収集運搬処分業務委 託	浜松市天竜区二俣町二俣41 (株)リサイクルクリーン	367,400	367,400	0	367,400
18	森林・林業研究センター樹木伐 倒業務委託	静岡市清水区山切733-1 片平 有信	250,800	250,800	0	250,800
	事務関係 計	14件	18,234,789	14,513,222	543,551	15,056,773
	工事関係 計	0件	0	0	0	0
	合 計	14件	18,234,789	14,513,222	543,551	15,056,773

関 する 調

(令和4年度)
(令和5年2月28日現在)

契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額(円)	委託業務の内容	摘要
随契	自 R4.4.25 至 R4.11.22	R4.11.30	278,300	木材強度試験機の保守点検	随契1号(少額)
随契	自 R4.5.21 至 R4.10.31	R4.6.30	7,815	育成試験中の苗木への灌水作業 (変更理由) 10/15(土)の作業取り止め	随契1号(少額)
		R4.7.29	15,631		
		R4.8.31	21,492		
		R4.9.30	17,584		
		R4.10.28	19,538		
		R4.11.18	19,539		
	小計	101,599			
一般	自 R4.6.20 至 R5.3.10			立木調査、植生調査、林床被覆率調査等 (変更理由) 打ち合わせ回数の増	
随契	自 R4.6.29 至 R4.8.31	R4.9.16	51,700	不燃ゴミ等の収集運搬処分	随契1号(少額)
随契	自 R4.8.17 至 R5.3.24			改良型動物侵入検知通報端末の製作	随契2号(不適)
随契	自 R4.11.1 至 R5.3.10			携帯型木材強度区分器のアプリ機能追加に係る開発業務	随契1号(少額)
随契	自 R4.11.7 至 R4.11.8	R4.11.21	18,700	森林・林業研究センター構内の緑地整備	随契1号(少額)
随契	自 R4.12.15 至 R5.3.31	R5.2.20	35,750	酸・アルカリ等の廃薬品の処分	随契1号(少額)
随契	自 R5.1.20 至 R5.3.31			不燃ゴミ等の収集運搬処分	随契1号(少額)
随契	自 R5.1.26 至 R5.3.31			冷蔵庫・恒温装置等の収集運搬処分	随契1号(少額)
随契	自 R5.1.27 至 R5.3.15			森林・林業研究センター構内の立木伐採	随契1号(少額)
			3,613,899		
			0		
			3,613,899		

負担金支出調

(令和 3 年度)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	浜北地区安全運転管理協会年会費	浜北地区安全運転管理協会	会 則	地域安全運転協会運営	円 25,000	R3. 4. 30
2	フォークリフト運転技能講習料	株式会社静岡県セイブ自動車学校	受講案内	教習・講習・教育	66,000	R3. 5. 10
3	玉掛け技能講習受講料	(株)掛川自動車学校 (掛川クレーン学校)	受講案内	教習・講習・教育	27,500	R3. 7. 15
4	全国林業試験研究機関協議会会費	全国林業試験研究機関協議会	会 則	情報交換研究発表会等開催	28,000	R3. 8. 18
5	安全運転管理者法定講習	(一社)静岡県安全運転管理協会	受講案内	安全運転管理者等講習	4,500	R4. 1. 26
6	第 39 回年次大会	公益社団法人日本木材加工技術協会 北海道支部	開催要領	情報交換研究発表会等 Web 開催	4,000	R3. 9. 10
7	日本森林学会機関会費	日本森林学会	会 則	情報交換研究発表会等開催	18,000	R3. 11. 12
8	第 133 回日本森林学会大会参加費	日本森林学会	開催要領	研究会の開催	24,000 16,000	R3. 11. 29 R4. 1. 31
9	フォークリフト (1t 未満) 運転技能講習料	株式会社静岡県セイブ自動車学校	受講案内	教習・講習・教育	17,050	R3. 12. 10
10	クレーン (5t 未満) 特別教育受講料	(株)掛川自動車学校 (掛川クレーン学校)	受講案内	教習・講習・教育	20,350	R4. 2. 3
	計	10 件			250,400	

負担金支出調

(令和 4 年度)

(令和 5 年 2 月 28 日現在)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	小型移動式クレーン 技能講習	(株)掛川自動車学校 (掛川クレーン学	受講案内	教習・講習・教育	円 68,200	R4. 4. 25
2	浜北地区安全運転管 理協会年会費	浜北地区安全運転 管理協会	会則	地域安全運転協 会運営	25,000	R4. 4. 28
3	フォークリフト運転 技能講習料	株式会社静岡県セ イブ自動車学校	受講案内	教習・講習・教育	36,300	R4. 5. 13
4	関東中部林業試験研 究機関連絡協議会令 和 4 年度会費	関東中部林業試験 研究機関連絡協議 会	会則	情報交換、研究発 表会等開催	25,000	R4. 6. 30
5	日本木材加工技術協 会第 40 回記念大会 (2022 東京) 参加費	(公社) 日本木材 加工技術協会	開催要領	情報交換、研究発 表会等	4,000	R4. 8. 5
6	全国林業試験研究機 関協議会会費	全国林業試験研究 機関協議会	会則	情報交換、研究発 表会等開催	28,000	R4. 8. 10
7	安全運転管理者法定 講習	(一社) 静岡県安 全運転管理協会	受講案内	安全運転管理者 等講習	4,500	R4. 8. 23
8	玉掛け技能講習 B コ ース受講料	(株)掛川自動車学校 (掛川クレーン学校)	受講案内	教習・講習・教育	25,300	R4. 9. 5
9	小型車両系建設機械 (整地等) 特別講習受 講料	(株)掛川自動車学校 (掛川クレーン学校)	受講案内	教習・講習・教育	20,350	R4. 9. 7
10	日本海岸林学会 神田・湘南大会	令和 4 年度日本海 岸林学会神田・湘南 大会実行委員会	開催要領	情報交換、研究発 表会等	1,500	R4. 10. 19
11	日本木材学会中部支 部大会参加費	(一社) 日本木材 学会中部支部	開催要領	情報交換、研究発 表会等	4,500	R4. 10. 19
12	ウッドサイエンスセ ミナー参加費	(公財) 日本木材 加工技術協会関西 支部	開催要領	情報交換、研究発 表会等	2,500	R4. 11. 1
13	日本森林学会機関会 費	日本森林学会	会則	情報交換、研究発 表会等開催	18,000	R4. 11. 11

14	第12回中部森林学会 参加費	第12回中部森林学 会大会運営委員会	開催要領	研究会の開催	16,000	R4.11.18
15	小型車両系建設機械 (解体用)特別講習受 講料	(株)掛川自動車学校 (掛川クレーン学校)	受講案内	教習・講習・教育	18,700	R4.12.2
16	第134回日本森林学 会大会参加費	(一社)日本森林 学会大会運営委員 会	開催要領	研究会の開催	24,000	R5.1.31
17	全国サンマッシュ生 産協議会第37回全国 大会参加費	全国サンマッシュ 生産協議会	開催要領	研究会の開催	2,000	R5.2.20
	計	17件			323,850	

見開き調整ページ

建 築

整理 番号	予 算 科 目	工 事 名	工 事 箇 所	当 初 計 金 額	契 約 金 額		
					当 初 額	変 更 増 減 額	計
1	4-1-3 行政経 営費	令和3年度 森林・林業研究 センター本館 1階トイレ改 修工事	浜松市浜北区 根堅 2542-8 静岡県農林技術研 究所森林・林業研 究センター	円 2,354,000	円 2,354,000	円 0	円 2,354,000
	4-1-3 行政経 営費	計	1 件	2,354,000	2,354,000	0	2,354,000
2	4-1-5 資産経 営費	令和3年度 森林・林業研究 センター自家 用発電設備修 繕工事	浜松市浜北区 根堅 2542-8 静岡県農林技術研 究所森林・林業研 究センター	円 1,529,000	円 1,529,000	円 319,000	円 1,848,000
	4-1-5 資産経 営費	計	1 件	1,529,000	1,529,000	319,000	1,848,000
3	8-5-1 農業費	令和3年度 森林・林業研究 センター研究 棟きのこ培養 室加湿器修繕 工事	浜松市浜北区 根堅 2542-8 静岡県農林技術研 究所森林・林業研 究センター	円 418,000	円 418,000	円 0	円 418,000
	8-5-1 農業費	計	1 件	418,000	418,000	0	418,000
		合 計	3 件	4,301,000	4,301,000	319,000	4,620,000

工 事 調

(令和3年度)

契約締結方法	受注者	着手完成(予定)年月日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘要
随契	浜松市浜北区平口678 足立建設(株) 代表取締役 足立 守正	R3.9.14 R4.3.3	円 2,354,000	本館1階の男女各トイレの和式便器を洋式洗浄便器に改修。(職員士気向上)	—	令達 R3.4.15 随契1号(少額) 支払 R4.3.11
			2,354,000			
随契	沼津市東間門字上中溝515 (株)明電エンジニアリング静岡支店 支店長 千葉 慎也	R3.10.28 R3.12.22	円 1,848,000	落雷被災により故障した自家用発電機の修繕。電気系統の修繕後、燃料系統の故障が判明し追加修繕を行った。(変更)	—	令達 R3.10.20 R3.12.17 随契1号(少額) 支払 R4.1.21
			1,848,000			
随契	浜松市中区上島二丁目19-20 ヤマザキ・シー・エー(株) 代表取締役 山寄 貴道	R3.5.10 R3.6.28	円 418,000	研究棟1階きのご培養室(恒温恒湿クリーンルーム)内の空調機の加湿ユニットの交換修理。	—	令達 R3.4.1 随契1号(少額) 支払 R3.7.30
			418,000			
			4,620,000			

建 築

整理 番号	予 算 科 目	工 事 名	工 事 箇 所	当 初 設 計 金 額	契 約 金 額		
					当 初 額	変 更 増 減 額	計
1	4-1-3 行政経 営費	令和4年度 静岡県農林技 術研究所森林・ 林業研究セン ター森の科学 館屋外トイレ 改修工事	浜松市浜北区 根堅 2542-8 静岡県農林技術研 究所森林・林業研 究センター	円 1,804,000	円 1,804,000	円 0	円 1,804,000
		計	1 件	1,804,000	1,804,000	0	1,804,000
2	4-1-5 資産経 営費	令和4年度 静岡県農林技 術研究所森林・ 林業研究セン ター自家用発 電設備修繕工 事	浜松市浜北区 根堅 2542-8 静岡県農林技術研 究所森林・林業研 究センター	663,300	660,000	0	660,000
3	4-1-5 資産経 営費	令和4年度 森林・林業研究 センター本館 玄関木製建具 修繕工事	浜松市浜北区 根堅 2542-8 静岡県農林技術研 究所森林・林業研 究センター	341,000	341,000	0	341,000
4	4-1-5 資産経 営費	令和4年度 静岡県農林技 術研究所森林・ 林業研究セン ター本館・研究 棟外壁修繕工 事	浜松市浜北区 根堅 2542-8 静岡県農林技術研 究所森林・林業研 究センター	2,189,000	2,090,000	44,000	2,134,000
		計	3 件	3,193,300	3,091,000	44,000	3,135,000
5	8-5-1 農業費	令和4年度 森林・林業研究 センター研究 棟きのこ培養 室冷凍機更新 工事	浜松市浜北区 根堅 2542-8 静岡県農林技術研 究所森林・林業研 究センター	858,000	748,000	0	748,000

工 事 調

(令和4年度)

(令和5年2月28日現在)

契約締結方法	受注者	着手完成(予定)年月日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘要
随契	浜松市中区助信町31-19 小野設備工業(株) 代表取締役 小野 弘太郎	R4.12.7 R5.2.24	円 0	森の科学館併設の屋外トイレ(男女各1)の和式大便器を取り壊し、排水不良箇所を解消したうえで、洋式便器化する。	—	令達 R4.8.19 随契1号(少額) 支払 R5.3.13
			0			
随契	沼津市東間門字上中溝515 (株)明電エンジニアリング静岡支店 支店長 千葉 慎也	R4.7.20 R4.8.23	660,000	発電機(ディーゼル式エンジン)内の緊急修繕。	—	令達 R4.7.8 随契2号(不適) 支払 R4.9.12
随契	浜松市浜北区貴布祢2678 (株)イトウ工務店 代表取締役 伊藤 克也	R4.5.27 R4.9.30	341,000	シロアリ蝕害を受けた木製玄関ドア(片側1枚)を作り直す。	—	令達 R4.4.15 随契1号(少額) 支払 R4.10.14
随契	浜松市中区神田町1522 (株)鈴木組 代表取締役 平野 治	R4.7.21 R4.11.30	2,134,000	R3劣化診断で指摘を受けた外壁のしっくい塗り箇所を補修。	—	令達 R4.4.15 R4.11.29 随契1号(少額) 支払 R4.12.16
			3,135,000			
随契	浜松市中区上島二丁目19-20 ヤマザキ・シー・エー(株) 代表取締役 山崎 貴道	R4.6.15 R4.10.20	748,000	研究棟1階きのご培養室(恒温恒湿クリーンルーム)内の冷凍機更新。	—	令達 R4.4.1 随契1号(少額) 支払 R4.11.2

建 築

6	8-5-1 農業費	令和4年度 農林技術研究 所森林・林業研 究センター高 圧受変電設備 修繕工事	浜松市浜北区 根堅 2542-8 静岡県農林技術研 究所森林・林業研 究センター	616,000	616,000	0	616,000
		計	2 件	1,474,000	1,364,000	0	1,364,000
		合 計	6 件	6,471,300	6,259,000	44,000	6,303,000

工 事 調

(令和4年度)

(令和5年2月28日現在)

随契	浜松市東区西ヶ崎町 1288 (株)万雄電気工業所 代表取締役 藤田 雄市	R4.7.27 (R5.3.31)		受変電設備内の経年劣化 回路部品（高圧断路器、高 圧変流器、高圧計器用変流 器、高圧計器用変圧器、高 圧負荷開閉器、電流計切替 スイッチ）の交換修繕。	—	令達 R4.4.1 随契1号(少額) 支払 R4.11.2
			748,000			
			3,883,000			

公有財産調

(令和 3 年度)

区 分	令和 3 年 3 月 31 日現在		増		減		令和 4 年 3 月 31 日現在		摘要
	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	数量 又は 面積	台 帳 価 格	数量 又は 面積	台 帳 価 格	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	
行政財産		千円 1,908,086		千円 1,601		千円 254,916		千円 1,654,771	
土 地	67,546.15 m ²	1,678,973	0	0	8,400	242,825	59,145.96 m ²	1,436,148	
立木竹	68 本	1,726	0	0	28	393	40 本	1,333	
建 物 (建築面積 /延面積)	4,544.82 m ² 5,102.78 m ²	205,468	0 0	0	456 1,012	0	4,088.37 m ² 4,090.34 m ²	205,468	
工作物	77	21,920	0	1,601	15	11,698	62	11,823	
普通財産		148		0		30		118	
特許権等	2	0	0	0	0	0	2	0	
公有財産に 準ずるもの		148		0		30		118	
電話加入権	6	148	0	0	1	30	5	118	
上記の財産に 属さないもの		0		0		0		0	
準特許権等	0	0	0	0	0	0	0	0	

※ 令和 3 年 3 月 31 日現在は、口座名「森林・林業研究センター」及び「農林大学校林業分校」の合算

公有財産調

(令和 4 年度)

(令和 5 年 2 月 28 日現在)

区 分	令和 4 年 3 月 31 日現在		増		減		令和 5 年 2 月 28 日現在		摘要
	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	数量 又は 面積	台帳 価格	数量 又は 面積	台 帳 価 格	数 量 又 は 面 積	台 帳 価 格	
行政財産		千円 1,654,771		千円		千円		千円 1,654,71	
土 地	59,145.96 m ²	1,436,148					59,145.96 m ²	1,436,148	
立木竹	40 本	1,333					40 本	1,333	
建 物 (建築面積 /延面積)	4,088.37 m ²	205,468				13,204	4,088.37 m ²	192,264	
	4,090.34 m ²						4,090.34 m ²		
工作物	62	11,823		436		492	62	11,767	
普通財産		118						118	
特許権等	2	0					2	0	
公有財産に 準ずるもの		118						118	
電話加入権	5	118					5	118	
上記の財産に 属さないもの		0						0	
準特許権等	0	0					0	0	

借地借家等調

(令和 5 年 2 月 28 日現在)

整理 番号	区 分	種 別	所在地	地 目		数量又 は面積	借 料		契 約 期 間	所有者又 は契約者 氏 名	用 途
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	山林	浜松市 浜北区 於呂 字奥山 4201-1	模範林	山林	41,600.00 m ²	円 0	円 0	H24.4.1 ～ R5.3.31	静岡県 (西部農 林事務 所)	試験用 苗畑
2	土地	案内看 板設置 用敷地	浜松市 浜北区 於呂 字向野 4084-1	畑	雑種地	0.69	0	0	H23.12.26 ～ R5.3.31	個 人	森林・林 業研究セ ンター及 び農林大 学校林業 分校案内 看板設置 用
3	土地	山林	浜松市 浜北区 宮口 4831- 302	模範林	山林	432.00	0	0	H25.2.12 ～ R5.3.13	静岡県 (西部農 林事務 所)	試験用 苗畑
4	土地	山林	浜松市 浜北区 宮口 4831- 299 同 4831 -302	模範林	山林	1,968.00	0	0	H25.2.1 ～ R5.3.13	静岡県 (西部農 林事務 所)	試験用 苗畑
5	土地	植生保護 柵設置用 敷地	伊豆市 湯ヶ島 国有林 19は1	山林	山林	835.00	0	0	H16.2.23 ～ R6.3.31	国 (関東森 林管理局 伊豆森林 管理署)	植生保護 柵敷
	計					44,835.69	0	0			

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和4年度)

(令和5年2月28日現在)

区分	事業名又は契約名	内 容	契約額	(契約額の年度別内訳)				
				3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
長期 継続 契約	森林・林業研究センター電子複写機賃貸借契約	森林・林業研究センターに設置するコピー機1台の賃借(契約期間5年) (契約日) R3. 4. 1	円 798,600	円 159,720	円 159,720	円 159,720	円 159,720	円 159,720

行政財産貸付・使用許可調

(令和 5 年 2 月 28 日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量又 は面積	貸付料又 は使用料		貸付又は 使用許可 期間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付・ 使用許可 目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	森林・林業研究センター土地	浜松市 浜北区根 堅 2542-8	宅地 山林	原野 山林	本柱 2本 支線 3本 本柱 4本 支線 4本	180 180 1,210 0	円 360 540 4,840 0	R4.4.1 ～ R8.3.31	中部電力パワー グリッド(株) 浜北営業所長	電力供給
2	"	"	"	山林 その他	山林 その他	本柱 2本 支線 2本 支線柱 1本 支線 3本	870 0 180 180	1,740 0 180 540	R2.4.1 ～ R7.3.31	西日本電信 電話(株) 静岡支店長	電気通信 線路設備 維持
3	"	"	"	宅地 畑	宅地 畑	本柱 1本 支線 2本 本柱 1本 支線 1本	1,500 1,500 1,730 1,730	1,500 3,000 1,730 1,730	R3.4.1 ～ R8.3.31	中部電力パワー グリッド(株) 浜北営業所長	電力供給・ 電気通信 事業
4	"	"	"	宅地	宅地	0.11 m ²		免除	R4.4.1 ～ R5.3.31	浜松市長	古墳案内 表示設置
5	土地 建物	森林・林業研究センター土地・建物	浜松市 浜北区根 堅 2542-8	事務所 建 木造	事務所 建 木造	本館 (大会議室) 172.80 m ² 機械実験棟 285.00 m ² センター敷地 100.00 m ²	6,250	6,250	R4.5.10 ～ R4.5.12	林業・木材製造 業労働災害防 止協会静岡県 支部長	伐木等業 務特別教 育
6	"	"	"	"	"	"	3,370	3,370	R4.5.20	"	刈払機取 扱作業 安全衛生 教育
7	"	"	"	"	"	本館 (大会議室) 172.80 m ²	2,880	2,880	R4.8.1 ～ R4.8.2	林業・木材製造 業労働災害防 止協会静岡県 支部長	林業架線 作業主任 者試験準 備講習会
8	土地 建物	森林・林業研究センター土地・建物	浜松市 浜北区根 堅 2542-8	事務所 建 木造	事務所 建 木造	本館 (大会議室) 172.80 m ² 機械実験棟 285.00 m ² センター敷地 100.00 m ²	4,810	4,810	R4.9.12 ～ R4.9.13	林業・木材製造 業労働災害防 止協会静岡県 支部長	機械集材 装置運 転者特別 教育

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量又 は面積	貸付料又 は使用料		貸付又は 使用許可 期間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付・ 使用許可 目的
				台帳	現況		単価	年額			
9	土地 建物	森林・林 業研究セ ンター土 地・ 建物	浜松市 浜北区根 堅 2542-8	事務所 建 木造	事務所 建 木造	本館 (大会議室) 172.80 m ² 機械実験棟 285.00 m ² センター敷地 100.00 m ²	6,250	6,250	R4.10.19 ～ R4.10.21	林業・木材製造 業労働災害防 止協会静岡県 支部長	チェーンソ ーによる伐 木等業務 特別教育
10	"	"	"	"	"	本館 (大会議室) 172.80 m ²	1,440	1,440	R4.10.19	静岡県山林協 会	林業就業 支援講習 会
11	"	"	"	"	"	"	1,440	1,440	R4.10.28	静岡県山林種 苗協同組合連 合会	苗格付調 査統一会 及び種苗 生産技術 講習会
12	"	"	"	"	"	本館 (大会議室) 172.80 m ² 機械実験棟 285.00 m ² センター敷地 100.00 m ²	3,370	3,370	R4.10.27	林業・木材製造 業労働災害防 止協会静岡県 支部長	刈払機取 扱作業 安全衛生 教育
	合計							円 45,970			

備 品 ・ 図 書 調

(令和 3 年度)

区 分	令和 3 年 3 月 31 日	増		減		令和 4 年 3 月 31 日 現在
	数量	数量	購入価格 (円)	数量	売却価格 (円)	
01-01 机類	4	(0) 0	0	(0) 0	0	4
01-02 台類	17	(0) 0	0	(0) 0	0	17
01-03 いす類	4	(0) 0	0	(0) 0	0	4
01-04 収納保管庫類	12	(0) 0	0	(0) 0	0	12
01-07 書類整理器具類	1	(0) 0	0	(0) 1	0	0
01-10 印判類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
01-13 厨房器具類	12	(0) 0	0	(0) 0	0	12
01-14 冷暖房器具類	5	(0) 1	0	(0) 0	0	6
02-01 情報処理機器類	25	(6) 7	0	(0) 2	0	30
02-02 情報伝達機器類	30	(0) 0	0	(0) 11	0	19
02-03 再生機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
03-01 撮影機器類	10	(0) 0	0	(0) 0	0	10
03-02 観察・観測用光学機器類	24	(0) 0	0	(0) 0	0	24
03-03 視覚用再生等機器類	5	(0) 0	0	(0) 0	0	5
03-04 媒体関連機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
04-01 診療・診断用機器類	6	(0) 0	0	(0) 0	0	6
04-06 獣医用機器類	11	(0) 0	0	(0) 0	0	11
05-01 強度(物性)試験計測機器類	25	(0) 0	0	(0) 0	0	25
05-02 波動・熱試験計測機器類	16	(0) 0	0	(0) 1	0	15
05-03 電気試験計測機器類	5	(0) 0	0	(0) 1	0	4
05-04 分析化学機器類	69	(0) 0	0	(0) 2	0	67
05-05 生物化学機器類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
05-06 環境化学機器類	13	(0) 0	0	(0) 0	0	13

備 品 ・ 図 書 調

(令和 3 年度)

区 分	令和 3 年 3 月 31 日	増		減		令和 4 年 3 月 31 日 現在
	数量	数量	購入価格 (円)	数量	売却価格 (円)	
05-07 測量機器類	14	(0) 1	193,380	(0) 0	0	15
05-08 度量衡測定機器類	24	(0) 0	0	(0) 0	0	24
05-09 天体気象観測機器類	12	(0) 0	0	(0) 0	0	12
05-99 その他の試験計測機器類	75	(0) 0	0	(0) 2	0	73
06-02 金属加工用機器類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
06-04 電気電子機器類	16	(0) 0	0	(0) 0	0	16
06-05 自動車整備用機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
06-08 プラスチック成形機器類	4	(0) 0	0	(0) 0	0	4
06-09 木工用機器類	18	(0) 0	0	(0) 0	0	18
06-99 その他の諸機器類	6	(0) 0	0	(0) 0	0	6
07-01 農産用機器類	32	(0) 0	0	(0) 2	0	30
07-02 林産用機器類	30	(0) 0	0	(0) 0	0	30
08-01 車両類	8	(0) 0	0	(0) 0	0	8
09-01 標本美術品	13	(0) 0	0	(0) 13	0	0
10-99 その他の教育用器具類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
12-01 雑機器	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
50-01 図書	3	(0) 0	0	(0) 2	0	1
計	562	(6) 9	428,054	(0) 37	0	534

備 品 ・ 図 書 調

(令和 4 年度)

(令和 5 年 2 月 28 日現在)

区 分	令和 4 年 3 月 31 日	増		減		令和 5 年 2 月 28 日 現在
	数量	数量	購入価格 (円)	数量	売却価格 (円)	
01-01 机類	4	(0) 0	0	(0) 0	0	4
01-02 台類	17	(0) 0	0	(0) 0	0	17
01-03 いす類	4	(0) 0	0	(0) 0	0	4
01-04 収納保管庫類	12	(0) 0	0	(0) 0	0	12
01-10 印判類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
01-13 厨房器具類	12	(0) 0	0	(0) 0	0	12
01-14 冷暖房器具類	6	(0) 0	0	(0) 0	0	6
02-01 情報処理機器類	30	(6) 1	159,390	(0) 5	0	26
02-02 情報伝達機器類	19	(0) 0	0	(4) 4	0	15
02-03 再生機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
03-01 撮影機器類	10	(0) 0	0	(0) 3	0	7
03-02 観察・観測用光学機器類	24	(0) 0	0	(0) 1	0	23
03-03 視覚用再生等機器類	5	(0) 0	0	(0) 0	0	5
03-04 媒体関連機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
04-01 診療・診断用機器類	6	(0) 0	0	(0) 0	0	6
04-06 獣医用機器類	11	(0) 0	0	(0) 3	0	8
05-01 強度(物性)試験計測機器類	25	(0) 2	1,013,100	(0) 2	0	25
05-02 波動・熱試験計測機器類	16	(0) 0	0	(0) 0	0	15
05-03 電気試験計測機器類	4	(0) 0	0	(0) 0	0	4
05-04 分析化学機器類	67	(0) 0	0	(0) 10	0	57
05-05 生物化学機器類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
05-06 環境化学機器類	13	(0) 0	0	(0) 3	0	10

備 品 ・ 図 書 調

(令和 4 年度)

(令和 5 年 2 月 28 日現在)

区 分	令和 4 年 3 月 31 日	増		減		令和 5 年 2 月 28 日 現在
	数量	数量	購入価格 (円)	数量	売却価格 (円)	
05-07 測量機器類	15	(0) 0	193,380	(0) 2	0	13
05-08 度量衡測定機器類	24	(0) 0	0	(0) 3	0	21
05-09 天体気象観測機器類	12	(0) 0	0	(0) 7	0	5
05-99 その他の試験計測機器類	73	(0) 0	0	(0) 7	0	66
06-02 金属加工用機器類	2	(0) 0	0	(0) 0	0	2
06-04 電気電子機器類	16	(0) 0	0	(0) 1	0	15
06-05 自動車整備用機器類	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
06-08 プラスチック成形機器類	4	(0) 0	0	(0) 1	0	3
06-09 木工用機器類	18	(0) 0	0	(0) 0	0	18
06-99 その他の諸機器類	6	(0) 0	0	(0) 0	0	6
07-01 農産用機器類	30	(0) 0	0	(0) 7	0	23
07-02 林産用機器類	30	(0) 0	0	(0) 6	0	24
08-01 車両類	8	(1) 1	0	(0) 0	0	9
10-99 その他の教育用器具類	1	(0) 0	0	(0) 1	0	0
12-01 雑機器	3	(0) 0	0	(0) 0	0	3
50-01 図書	1	(0) 0	0	(0) 0	0	1
計	534	(1) 4	1,172,490	(4) 66	0	472

主 要 備 品 調

(令和 5 年 2 月 28 日現在)

整理 番号	区 分		品名・規格	利 用 状 況	購入年月	購入金額 (円)
	大・中	小				
1	05-01	ねじり・せん断 機器	島津製作所 EHF-J100-KN10L 耐力壁面内せん断試験機	木材パネル強度試験 年間 40 日	平成 11 年 3 月	18,343,500
2	07-01	その他の農産 用機器	ヤマト YCR-01, 10, 30, 3 室 (5, -10, -30℃)	資料保管用及び耐寒性 試験 常時	昭和 63 年 3 月	9,800,000
3	05-07	その他の測量 機器	ドローン搭載型 レーザーシステム	地形の 3 次元情報を計 測 年間 50 日	平成 29 年 3 月	9,695,260
4	05-01	強度試験・計測 機器	島津製作所 AG-5000B 万能試験機	木材強度測定 年間 50 日	昭和 63 年 3 月	8,690,000
5	05-04	炭素窒素分析機 器	ヤナコ MT-600 炭素・窒素分析	土壌、植物中の炭素・ 窒素分析 年間 120 日	昭和 63 年 3 月	8,650,000
6	06-04	乾燥機器	横山鉄工 YD-8 実大木材乾燥装置	実大木材の乾燥 年間 20 日	昭和 63 年 3 月	8,600,000
7	05-01	材料試験・計測 機器	島津製作所 UH-1000 k NIR 実大木材強度試験機 用高精度制御装置	木材強度測定 年間 50 日	平成 24 年 3 月	7,938,000
8	05-99	試験実験機器	ジョイスレーベル 3CS 密度解析装置	樹木年輪の精査 年間 10 日	昭和 63 年 3 月	7,750,000
9	05-03	電気炉	三弘 酢液回収装置付炭化炉 実証用炭化炉	木竹炭・酢液製造 年間 20 日	平成 13 年 10 月	7,686,000
10	05-04	分光分析機器	日立 Z-7000 原子吸光分光光度計 光度測定	木材含有成分の定性・ 定量分析 年間 10 日	昭和 63 年 3 月	6,900,000

整理 番号	区 分		品名・規格	利 用 状 況	購入年月	購入金額 (円)
	大・中	小				
11	07-02	切削用機器	山福 カクビキ クン GK-480 型	可搬式ミニ製材機 年間 30 日	平成 1 年 9 月	5,479,600
12	05-04	クロマトグラフ	日本分光 880-PU	木材抽出成分の定性・ 定量分析 年間 20 日	昭和 63 年 3 月	4,980,000
13	06-08	プラスチック 成形機器	セイブ HP148-7 油圧ホットプレス	木材の積層加工 年間 20 日	昭和 63 年 3 月	4,980,000
14	05-99	試験実験機器	バイレック 1 万型 細胞融合装置	きこの細胞の電気融合 年間 10 日	昭和 63 年 3 月	4,800,000
15	05-04	その他の分析 化学機器	アブライドバイオシステム DNA シーケンサー メチライザシステム AB3001	DNA 上の塩基配列解析 常時	平成 20 年 1 月	4,704,000
16	06-99	その他の諸機 器	電動ホイストクレーン・フ レーム (1.5tonf)	木材実験棟内木材・試 験体移動運搬 年間 50 日	平成 11 年 3 月	4,357,500
17	06-09	接着機器	大平 C55-B フィンガー ジョインター	木材の縦継ぎ加工 年間 10 日	昭和 63 年 3 月	4,330,000
18	05-99	恒温（湿）維持 器（槽）	エスペック ARL-0680-J 恒温恒湿器	木材の乾燥 年間 90 日	平成 25 年 3 月	4,095,000
19	03-02	顕微鏡	オリンパス AHBS-514 写真顕微鏡シス テム	病原菌の同定 年間 12 日	昭和 63 年 3 月	4,010,000
20	05-01	圧力機器	安島製罐 SKB-450 真空加圧含浸装 置	防腐剤等の浸透 年間 10 日	昭和 63 年 3 月	3,500,000

試験研究成果一覧表

(令和4年度)

区分 事業名	研究テーマ (細目) 研究内容	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期 間	研究目的 背景等	研究 成 果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費(千円)		備 考
									(4年度) 4年度	(全 体) 5年度	
一 林 社 装 け 新 産 の 開 発	1. AOTプロジェクトを加速化する革新的栽培技術の開発	新規	国庫	4-8	先端技術の活用による農業の飛躍的な生産性向上と農業を軸とした関連産業のビジネス展開の促進に寄与する。	病害感染リスクモニタリングツールの開発において、多湿計測用温湿度センサの試作等を行った。LC-MS/MSによる機能性成分の分析メソッドを拡張した。キャベツの育種資源ゲノム情報データベースの作成に向け、GRAS-Di解析等を行った。	環境負荷軽減と生産性向上の両立による民間事業者の事業拡大及び農業産出額の向上に寄与する。	有 植物群落 透過光セ ンサユニ ットの及 び 植物の生 育状況判 定方法	(39,884)	(178,575)	国交付金(地方創生交付金) 山本種機料 (有石井育種場) (株まえばー
									39,884	38,900	
開 発	2. 荒茶販売額を倍増する「静岡型ドリリング向け茶生産システム」の開発	終了	単独	2-4	ドリリング向けの茶を生産するためには省力、低コスト生産が必要である。このため、効率の良い茶園整備と大型機械を利用したドリリング向け茶経営モデルを策定する。	ドリリング向け茶の大規模経営モデルについて、多収性品種およびドリリング茶生産・製茶加工技術を導入した、大規模経営モデルを試算・策定した。	ドリリング向け茶生産に適した茶園整備基準、乗用型茶園管理機の仕様および利用技術、経営モデルからなる「静岡型茶園管理規格」を構築し、現地での普及を図る。	無	(775)	—	
									278	—	
開 発	3. 有機栽培茶園用除草機の開発	終了	国庫	3-4	有機栽培や除草剤使用量の少ない茶栽培では、除草作業には非常に多くの労力を要している。そこで、茶園用多目的管理機に装着する、うね間雑草を効率的に除草する除草機を開発する。	開発機茶園における刈刃耐久性と特性を評価した。牧之原市内の現地茶園で試験した結果、最外周に取り付けた刈刃の摩耗量が最も大きく、約33aの除草で10mm程度摩耗すると推定した。また、使用に伴い発生する刈刃の変形を抑制する改良が必要と考えられた。	課題点を改良の後、R5年度製品化の予定。	無	(996)	—	国委託(農業機械技術クラ スター事業)
									500	—	
開 発	4. 生理障害果を削減するトマトの高品質多収生産技術の開発	新規	単独	4-6	トマトの軟果等、生理障害を未然に防ぐと共に多収生産ができる栽培技術を開発する。	光合成と収量・果実品質との関係、光合成を促進するLEDの設置位置について明らかにした。	研究成果発表会で情報提供した。	無	(1,734)	(3,270)	
									1,734	1,536	

試験研究成果一覧表

農林技術研究所本所

(令和4年度)

区分 事業名	研究内容 (細目) 研究内容	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究 成果	研究成果の活用 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費(千円)		備考
									(4年度) 4年度	(全体) 5年度	
ト スマー 農林業の 社会実装 に向けた 革新的生 産技術の 開発	5. 転流促進条件 を利用したトマ トの光合成最大 化による多収生 産技術の開発	新規	単独	4	トマトの温度、光 合成、転流、果実肥 大の関係を一体的に 評価し、温度管理と 多収性の関係を明ら かとする。	午後の高温処理により転流速 度および群落光合成速度が増加 した。一方、午後の温度管理に 関わらず午後の群落光合成速度 は低下した。午後の光合成低下 の原因は、気孔閉鎖によって引 き起こされている可能性が考え られた。	JA遠州夢咲、農林事務 所と連携した生産現場へ の情報提供を行う。	無	(1,000)	—	
マ ッ ン え 商 発 る 農 物 ラ 力 強化	7. チャ・イチゴ ・ワサビの次世 代戦略品種育成 に向けた「スマ ート育種」シス テムの構築	新規	単独	4-8	消費者や実需者のニ ーズに沿った品種を早期に 育成するために、ゲノム 情報や農業形質等のビッ クデータ解析を基盤とし た「スマート育種」シス テムを構築し、オーダー メイドで短期間の品種育 成を目指す。	イチゴ100品種・系統のゲノム 情報を取得するとともに、MAGIC 集団の育成に向け、6 交配組合 せから優良形質個体を選抜、交 配した。AI画像選抜用の機械学 習のプロトタイププログラムを 作成した。	新成長戦略研究のプロ ジェクトチームでデーター および進捗状況を共有・ 検討した。	無	(3,749)	(10,090)	
	8. 首都圏へ供給 拡大!イチゴ生産 を革新する「超 促成」 「超多 収」 「高収益」 システムの開発	継続	単独	3-5	これまでの収穫量 を大きく上回る、全 国トップ水準の10a 当たり8tの収穫量と 売上1千万円超を目指 した超多収栽培技術 の確立を目指す。	新作型により、10a 当たり総 収量10t 以上を達成した。光合 成最大化ナビゲーション評価機 を試作した。葉中窒素濃度を推 定する手法を開発した。本ほ増 殖法における最適な定植時期を 明らかにした。アザミウマ類の 侵入防止に有効な防虫ネットを 選定した。	イチゴ試験研究報告会で 情報提供する。	有 植物群落 透過光セ ンサユニ ット及び 植物の生 育状態判 定方法	(52,517)	(64,306)	
	9. 水稲新品種育 成および水稲・ 畑作物奨励品種 の選定試験	継続	単独	3-7	地域特産ブランドと なりうる酒造好適米を 育成する。また、需要 が拡大している業務用 米や地球温暖化に対応 又は加工適性を有する 米麦品種を選定する。	酒造好適米は「令和菅富士」を 県奨励尾品種に採用した。業務用 米は令和3年から本格的に普及を 開始した早生奨励品種「このさ らめき」が県内作付面積36haま で拡大した。パン用強力小麦品種 の選定は、有望候補の製めん・製 パン適性評価試験をし2品種が優 れることを確認した。	「令和菅富士」は令和5 年度より一般栽培を開始 し、作付面積は70haが見込 まれる。「このさ らめき」は高温耐性品種として 引き続き普及を推進してい く。 パン用小麦は栽培試験を 実施し、特性を把握する。	無	(7,500)	(8,836)	
									1,000	—	
									3,749	6,341	
									19,944	11,789	
									1,561	1,336	

区分 事業名	研究テーマ (細目) 研究内容	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究 成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費(千円)		備考
									(4年度) 4年度	(全 体) 5年度	
マ ッ ン え 商 発 る 農 物 ラ 力 強 化	10. 高品質・安定 生産が可能なイ チゴ新品種の育 成	継続	単独	3-7	今後十数年先を見据 えた次世代のイチゴ経 営を担う、高品質・安 定生産可能な静岡オリ ジナルのイチゴ新品種 の育成を行う。	実生1年次から33個体を、実生2 年次から2系統を、実生3年次から 2系統(うち1系統は育種素材)を 選抜した。	イチゴ試験研究報告会 で情報提供する。	無	(6,700)	(8,327)	
	11. 日本一早い極 早生タマネギの 育成	新規	受託	4-8	有望個体同士の交配 により、熟期、球の形 状が均一なF1の有望 系統を育成する。	交配親の育成では、花粉親候 補として76系統307個体、種子 親候補の雄性不稔系統として14 系統23個体を選抜した。母球の 保存方法は、球径の小さい球が 保存中の腐敗率が低かった。ま た、短日・畝側面遮光処理によ り播種後1年の抽だい率が上昇 した。	研究委託元であるJAと びあ浜松に情報提供する とともに、現地試験を共 同で実施中である。	無	(750)	(1,873)	JAとびあ浜 松
	12. 突然変異育種 等を活用した黄 色輪ギク品種の 育成	新規	単独	4-8	低温期に優れた伸長 性・開花性を有する輪 ギクオリジナル品種を 突然変異等を活用して 短期間に効率的に育成 し、本県産キクの市場 性向上と経営安定を図 る。	品種選抜会を実施し、濃黄色で草 姿に優れた2系統を選抜した。ま た、育成白色系統へ軟X線、イオン ビーム照射することで黄花色の変異 体を得られた。	JAとびあ浜松オリジナ ル品種育成会と連携し、 有望系統として選抜され た黄色輪ギク2系統は現 地適応性試験を行う。他 有望系統については来年 度継続して特性調査を行 う。	無	(1,160)	(2,362)	JAとびあ浜 松
マ ッ ン え 商 発 る 農 物 ラ 力 強 化	13. レタス生育予 測の精度向上と 産地適応技術の 開発	終了	単独	2-4	レタス販売では事前 に出荷時期や出荷量の 情報提供が価格安定の ため重要である。この ため、収穫予測技術を 開発する。	作成した生育予測アプリケーショ ンについて、県内の生産者団体のほ かに設置した環境測定装置からのデ ータを加工し、本予測システムを実 証した。また、予測システムに用い る有効積算温度について、所内ほ場 で各種作型と品種における精度検証 を実施した。	開発・現場実証したア プリケーションは、生産 者、各農協、経済連、農 業法人が活用する。令和 5年度からの新規課題 で、全栽培期間を通じて 予測が可能な生育モデル を検討する。	無	(4,118)	-	JA静岡経済 連
									1,127	-	

試験研究成果一覧表

(令和4年度)

区分 事業名	研究テーマ (細目) 研究内容	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費(千円)		備考
									(4年度) 4年度	(全 体) 5年度	
マ ン ン え 商 発 る 農 物 ラ 力	14. 施設花きの複 合環境制御によ る安定生産およ び日持ち性向上 技術の確立	新規	国庫	4-6	夏期の高温対策術、 冬期の生産性向上技術 など高度環境制御技術 を確立し、施設花きの 周年安定生産を図る。 また、日持ち性向上に 向けた栽培管理技術を 確立する。	バラ、ガーベラで夏場の遮光 剤、LED補光の効果を明らかにし た。ガーベラでは自動遮光制御シ ステムの改良を、トルコギキョウ では有効積算温度を活用した計画 出荷技術の補完を進めた。トルコ ギキョウ立枯病に対して還元土壌 消毒の効果を明らかにした。	バラ、ガーベラ、トル コギキョウで得られた成 果について、経済連各部 会、JA、農林事務所へ 情報提供した。千両日持 ち試験成果について現地 試験と合わせて展示を行 い情報提供した。	無	(8,050)	(15,350)	農研機構
ブ ド ン 力	15. 農産物の成分 特性の解明及び 機能性の維持・ 増強技術と素材 の開発	終了	国庫 受託	2-4	農産物の未利用部 分等を有効活用する ため、機能性成分等 を維持・増強する加 工技術を解明し、新 たな商品化を支援す る。	MA包装・未包装区の甘味系のア ミノ酸濃度は、いずれも処理温度 の上昇に伴い緩やかに高まった。 また、MA包装区の温室メロンの総 合評価・甘さは、未包装区と同 様、基準区(5℃)と比較し高ま った。一方、硬さは、30℃下での MA包装区のみ基準と同等を示した が、それ以外の区は低下した。	農林水産物データベ ースの基礎資料とす る。また、農林事務所 や温室組合等に情報提 供する。	無	(2,319)	-	
	16. イチゴ等の輸 出を支援する流 通鮮度保持技術 の向上	終了	単独	2-4	イチゴ輸出は航空 輸送が主力となつて いる。航空輸送で は、温度管理が出来 ないため、高温期で は輸用量が減少す る。そこで、航空輸 送に適した輸送流通 技術を開発する。	新聞紙で梱包した1 kgのドライ アイスを発泡スチロール容器上部 に入れてイチゴを輸送流通する技 術を開発した。この技術により、 想定される航空輸送条件でも容器 内温度を10℃付近(±1)に14時 間程度維持することが可能となつ た。	得られた成果は、県産 イチゴの輸出を取り扱う 経済連に情報提供する。 また、学会等に報告す る。	無	(2,921)	-	
	17. イチゴの8月 出荷に向けた品 質低下を一か月 以上抑える長期 貯蔵技術の開発	終了	単独	4	イチゴの出荷時期 及び清水港を活用し た船便輸出を拡大す るため、一か月以上 の長期貯蔵を可能に する条件を調査し、 イチゴの長期貯蔵技 術を開発する。	イチゴを貯蔵前に次亜塩素酸で 洗浄しても、カビ等の発生抑制の 効果は小さかった。また、イチゴ を-1.5℃で貯蔵しても凍害は発生 せず、MA包装した区は35日間貯蔵 しても品質の低下は少なく、カビ の発生がほとんどみられなかった。	イチゴに関する新成長 戦略研究の成果を補完す る。農産物の船便輸出の 基礎資料とする。	無	(1,000)	-	
									8,050	7,300	
									967	-	
									1,000	-	

試験研究成果一覽表

(令和4年度)

農林技術研究所本所

区分 事業名	研究内容 (細目)	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究 成果	研究成果の活用 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費(千円)		備考
									(4年度) 4年度	(全 体) 5年度	
気候変動・炭素循環に配慮した持続可能な農業の推進	18. マリンバイオ産業振興のため、海洋由来微生物を活用した新たな食品開発	終了	単独	2-4	海洋微生物源から食品開発分野において、役立つ特性を有する酵母、乳酸菌を分離、選抜する。選抜した微生物の安全性評価を行うとともに、これらを活用したパン、漬物食品を開発する。	浜名湖から採取したヒトエグサから分離選抜した乳酸菌は、豆乳を低温で発酵させ、抗酸化能とGABAを増加させることが明らかとなった。さらに、その乳酸菌を活用した新たな大豆発酵食品を開発し、商品化された。	農産物を利用した発酵食品の商品化を希望する、六次産業化を実施する生産者や企業等に提案する際の基礎資料とする。	無	(10,402)	—	
	19. 世界市場に向けた新時代の「静岡型アクティブ有機栽培技術」の開発	終了	単独	2-4	茶の有機栽培では除草にかかわる労働時間が多く、作業負担も大きい。そこで、うね間通路の雑草と、樹冠内のつる性雑草を対象とした省力的な除草機を開発する。	開発した除草機は、乗用型摘採機等の後方に装着する、エンジン式刈払機形態の構造である。うね間通路および樹冠下(雨落ち部)を横行並の精度で除草でき、樹冠内つる性雑草も一定程度除草できた。作業能率は12~19a/hで、年間除草作業時間を慣行の半以下に削減できる。	茶園用病害虫クリーナー搭載型除草機として、操作性等の改良のうえ、R5年度製品化予定。 農林事務所等関係機関に情報提供する。	有 茶園用走行管理装置(静岡県、株式会社寺田製作所)	(4,810)	—	
	20. カーボンニュートラルの実現に向けた新たな森林経営モデルの開発～早生樹による荒廃農地等の活用～	新規	単独	4-6	カーボンニュートラル実現のため、成長が早く炭素吸収に優れた「早生樹」を活用した新しい森林経営モデルを開発する。	ギニアグラス栽培により、強酸性土壌改良に係る苦土石灰量は2割削減できた。 伐採茶樹バイオ炭の土壌改良効果を明らかにした。 早生樹の生育適正pHは4.7~6程度であった。	袋井市内の荒廃茶園約6000㎡において、土壌改良技術と早生樹栽培の現地実証を行う。 荒廃茶園の土壌改良技術として関係機関等に情報発信する。	無	(15,135)	(16,931)	森林研究所センター、八ヶ代造園(株)、フォレストエナジー(株)
21. 農薬防除が困難な重要病害の効果的な低減技術の開発		新規	単独	4-6	農薬に頼らない多犯性・難防病害の防除や気候変動リスクの低減を検討し、安定生産を実現する対策技術を開発する。	灰色かび病によるトマト茎枯症状を軽減するUV照射条件を明らかにした。青枯病の土壌還元消毒が水量不足で不安定になるのを還元剤の併用で補える可能性を示した。ネギの夏期生育不良を改善する2つの異なる技術(資材)を明らかにした。	関係機関と連携し講習会等を通して研究成果を提供している。 外部資金での研究展開のため、3課題応募予定。	無	(1,175)	(2,614)	
									1,175	1,439	

試験研究成果一覽表

(令和4年度)

区分 事業名	研究テーマ (細目) 研究内容	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究 成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費(千円)		備考
									(4年度) 4年度	(全 体) 5年度	
変候・脱炭素等の環境配慮に向けた持続可能な農業の推進	22. 大型施設に対応したメロンのウイルス病と媒介介虫の総合防除法の開発	終了	単独	元-4	温室メロンにおいて薬剤抵抗性が大きな問題となっているミナミキイロアザミウマに対して、赤色光照射や天敵の利用等、薬剤のみに頼らない総合的防除体系を開発する。	土着天敵へヤカブリダニに対する各種剤・かん注剤の影響を明らかにした。定植苗に対する48℃8分の蒸熱処理は防除効果が高く、生育障害はないことを確認した。赤色光照射、緑色粘着トラップ、市販のスワルスキーカブリダニを組み合わせた体系防除により、ミナミキイロアザミウマとタバココナジラミを同時に防除可能であることを確認した。	関係機関と連携し、講習会や蒸熱処理装置の視察対応等により研究成果に関する情報を提供している。共同研究により開発した青緑色粘着トラップが発売され、生産者に利用されている。R5新規課題において新規土着天敵の利用を基幹とした総合防除体系を確立する。	無	(2,394)	—	小林製袋産業(株)
	23. 害虫吸引ロボットと天敵を利用した大規模施設トマトのコナジラミ防除体系の開発	新規	国庫	4-6	天敵と併用可能な新しい防除体系として、振動や吸引による防除体系を策定し、害虫タバココナジラミ防除の安定性と薬剤防除の削減を図る。	天敵タバココナジラミと害虫吸引ロボットの併用による防除試験を実施した。その結果、吸引ロボットに天敵はほぼ捕獲されず、定植後2ヶ月間は、各単独使用より、併用使用の方が害虫を減少可能だった。しかし、その後は、天敵単独使用より併用使用で害虫が増加した。今後は天敵に代替餌の供給を行うなど、天敵が減少しない方法を検討する。	特許出願のため、今年度の研究成果の公表および普及が抑制された。特許出願は今年度完了予定のため、次年度以降論文等で成果の公表を行う。外部資金での研究展開のため、2課題応募予定。	有 非接触の振動による植物体からの追い出し、光による誘引、ならびに吸引による捕虫効果を用いたコナジラミ類の防除およびモニタリング方法 静岡県農研機構、ビクシーダストテクノロジーズ(株)	(1,000)	(3,500)	国委託(イノベーション創出推進事業)
	24. 新しい農薬の適応選抜	終了	受託	4	農薬登録に必要なデータを作成するたため、農薬の効果、葉害の調査、残留分析、試料の調製を行う。また、マイナー作物への農薬登録推進に協力する。	8作物で33殺菌剤、6作物で22殺虫剤、また水稻・小麦・芝の7除草剤について防除効果、葉害試験を実施した。	日本植物防疫協会と日本植物調節剤研究協会の主催する成績検討会後、メーカーを経て農薬登録の資料として利用される。	無	(7,194)	—	—

試験研究成果一覧表

(令和4年度)

農林技術研究所本所

区分 事業名	研究テーマ (細目) 研究内容	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究 成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費(千円)		備考	
									(4年度) 4年度	(全体) 5年度		
気候・脱炭素等の環境配慮に向けた持続可能な農業の推進	25. 野菜におけるコスト削減可能な粒状牛ふん堆肥活用技術の開発	終了	単独	2-4	粒状加工した牛ふん堆肥の肥料特性を明らかにし、土壌管理の省力・低コスト化が可能な、野菜の生育に適した指定混合肥料を開発する。	施設野菜、露地野菜において粒状堆肥の配合割合を見直して栽培試験を行い、収量が改善した。肥料費の試算を行い、チンゲンサイでは慣行施肥より30%低減可能であった。	JAとびあみ浜松で実施した現地試験の結果を報告する。技術導入に向けて、西部農林、富士見工業と検討を進める。	無	(2,857)	—	富士見工業(株)、畜技研	
	26. 県内主要農耕地の土壌環境及び土壌炭素モニタリング調査	継続	単独 国庫	元-5	土壌タイプ・作目が異なる102カ所の定点を設け、地力監視を行うと共に、長期的な土壌管理指針を策定する。県内農耕地の土壌炭素量等の調査を行う。	中遠地域40か所の水田の可給態ケイ酸と水稻ケイ酸含有率を明らかにした。県内現地5ほ場及び所内6地点の土壌炭素量等を明らかにした。	JA、農林事務所等関係機関に情報を提供し、施肥の指導等に活用する。	無	(3,267)	(3,687)	420	
27. 粉殻燃焼灰の畑地利用に関する効果の解明		新規	単独 国庫	4-5	大幅な燃油削減を期待できる粉乾燥用粉殻燃焼パーナラーの副産物である粉殻燃焼灰は、炭素貯留と同時に土壌改良資材としての活用が期待できる。そこで、畑地の炭素貯留と野菜に対する作物生育改善効果を評価する。	粉殻燃焼灰施用による土壌物理性、化学性への効果をポット試験により明らかにした。浜松(タマネギ)、磐田(シロネギ、キャベツ)計3か所の生産者ほ場において、灰施用による生育、土壌への効果について調査中。 市販の粉殻散布装置により、畑地への灰散布試験を実施した。供試機は灰の詰まりにより定量散布が不可能で、飛散も顕著であり不適当であった。	コンソーシアム内において情報を共有するとともに、関係機関に情報を提供する。灰を堆肥等資材と混和して散布する等、飛散が少ない散布方法を検討する。	無	(643)	(1,226)	583	農研機構 静岡情報 JAとびあみ 松

試験研究成果一覧表

(令和4年度)

区分 事業名	研究テーマ (細目) 研究内容	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究 成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費(千円)		備考
									(4年度) 4年度	(全 体) 5年度	
優良種苗 配布事業	1. 水稻原原種・原 種の育成配布☆	継続	単独	44-	水稻奨励品種の遺 伝的純度と優良形質 を維持するため、原 種・原種を生産し、 採種ほに原種を 供給する。	原種(「コシヒカリ」「なつしず か」)計1.1tと、原原種(「なつしず か」)を生産し、同品種の原原種用母 株の選定を行った。	県内4ヶ所の種子生 産組合に8品種2,103kg の原種を配布し、合計 60.9haの採種ほで、県 内一般栽培用の種子粉 270tが生産された。	無	800	—	
	2. 畑作物原原種・ 原種の育成配布 ☆	継続	単独	44-	畑作物の奨励品種 の遺伝的純度と優良 形質を維持するた め、原原種・原種を 生産し、採種ほへ原 種を供給する。	小麦奨励品種「きぬあかり」 の原原種を37.7kg生産し、同 品種の原原種用母株の選定を行 った。	「きぬあかり」原種 630kgを袋井種子生産 組合に配布し、9.0ha の採種ほにおいて令和 5年播種の一般栽培用 の種子を現地で栽培中 である。	無	200	—	
	3. イチゴの無病 苗増殖・配布☆	継続	単独	63-	イチゴ無病苗の原原 苗を計画的に増殖し、 関係団体を通じての配 布により、生産農家の 経営安定を図る。	基核苗から、「紅ほっぺ」75株、 「きらび香」75株の原々苗を増殖し て配布した(県内生産者団体計150 株)。	配布した「紅ほっぺ」 および「きらび香」の原 原種から、関係団体にお いて原種および親株を増 殖してJAおよび生産農 家に提供した。	無	809	—	

研究テーマ末尾の☆印は、研究関連業務を示す。

試験研究成果一覧表

(令和4年度)

区分 事業名	研究テーマ (細目) 研究内容	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究 成果	研究成果の活用 及び普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費(千円)		備考
									(4年度) 4年度	(全 体) 5年度	
マ ス ト 業 会 に た た 的 技 術 開 発	1. 荒茶販売額を倍増する「静岡型ドリリング向け茶生産システム」の開発	終了	単独	2-4	「静岡型ドリリング向け茶生産システム」を開発すること で、茶業経営体における荒茶販売額を倍増させ、茶業経営体の経営発展を図る。	ドリリング向け茶園整備、機械利用基準、経営モデルを体系化し、静岡型茶園管理規格を作成した。 6品種を3年間晩期摘採した結果、4品種に多収性が確認され、多収性と荒茶品質を総合的に評価した結果、「つゆひかり」「さわみずか」にドリリング向け適性があることが明らかになった。 想定する新製茶及び慣行組込ラインにおいて、過熱水蒸気、軽Crush処理、Crush処理等の低コスト製茶技術を複合処理し、新製茶ラインで慣行の1/3の時間で製茶が可能なることを明らかにした。	研究成果は、茶業学会、成果発表会で茶業関係者に発表するとともに、技術パンフレット等で情報提供した。 茶園管理規格については、今後現地の農林事務所・関係機関と調整しながら、茶園整備等での利用を図る。 低コスト製茶技術等の課題については、来年度からの新規課題でフォローアップしながら現地普及を図る。	無	(51,402)	—	(一財)リ モート・セ ンジング技 術センター カワサキ機 工(株)
	2. 有機栽培茶園用除草機の開発	終了	国庫	2-4	有機栽培や農薬使用量の少ない茶栽培では、手作業による除草作業には非常に多くの労力を要する。産地の維持・発展のために茶うね通路の雑草を効果的に除草するための機械を新たに開発する。	試作した除草機を用い、現地茶園における除草性能を評価した。 5月中旬と8月中旬に除草機を走行することにより、うね間雑草がほぼ完全に除草され、二番茶及び秋冬番茶摘採時期まで除草効果が持続した。	令和4年度中に、農研機構と寺田製作所が除草機の特許出願予定であり、今後市販化する予定である。	無	(1,200)	—	国委託(農 業機械技術 クラスター 事業)
マ ッ ン え 商 発 る 農 物 ラ 力 強 化	3. チャ・イチゴ・ワサビの次世代戦略品種育成に向けた「スマート育種」システムの構築	新規	単独	4-8	目的とする形質を持った品種を短期間で育成可能とする「スマート育種」システムを確立する。	遺伝資源データベース構築に向けて、約2,500系統のゲノム情報の取得と炭疽病耐性調査を行った。 静岡県育成のチャ4品種・2系統について、DNAマーカー品種判別技術を開発した。 高カテキン・低カフェイン系統の選抜、クワシロカイガラ抵抗性遺伝子保有系統の選抜、高炭素固定能系統の選抜手法の検討を実施した。	取得したゲノム情報の解析結果に基づき、データベースの作成及び中間母本の育成を行っている。	無	(21,000)	(40,000)	静岡大学 国立遺伝学 研究所
									21,000	19,000	

試験研究成果一覧表

農林技術研究所茶業研究センター

(令和4年度)

区分 事業名	研究テーマ (細目) 研究内容	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究期 間	研究目的 背景等	研究成 果	研究成果の活用 及び普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費(千円)		備考
									(4年度) 4年度	(全 体) 5年度	
ケイ ット ン え 商 発 る 農 物 ラ 力 強 化	4. 多様なニーズ に 応 え る チ ャ 戦 略 品 種 の 育 成	継続	単独	3-7	収集、保存され た 遺 伝 資 源 を 利 用 し 、 市 場 性 が 高 い 香 味 に 優 れ た 品 種 、 耐 病 ・ 耐 虫 性 の 品 種 等 を 有 成 す る。 さ ら に 、 選 抜 し た 優 良 系 統 の 中 か ら 県 の 奨 励 品 種 と し て の 適 性 を 持 つ た 品 種 を 選 定 す る。	6,927花の交配、3,699粒(充 実種子)採種を行った。個体選抜 は2015～2020年交配群を供試して 優良個体を選抜し、栄養系比較試 験は2017～2022年定植群を供試し て有望系統を選抜した。奨励品種 選定試験は、静岡県育成系統の第 16～17群及び他試験地育成系統の 系適第15～16群を調査した。	選抜した個体及び有 望系統は次の試験ステ ージへ進める。 得られた成果を研究 成果発表会や技術パン フレット等で情報提供 している。	無	(1,209) 1,209	(3,903) 2,694	
	5. 静岡の香りに特 色ある茶の品質評 価・香味改善に関 する研究	終了	単独 一部 国庫 共同	29-4	「香り緑茶」の 現場への普及を推 進するため、現地 に導入した大量製 造システムの特 性評価、改良を行 うとともに、仕上 げ特性について明 かにする。	現地農協に導入した香り緑茶の 大規模生産システムについて導 入・生産コストを評価し、香り緑 茶の大規模生産システムを現地に 普及させるための「技術導入支援 マニュアル」に反映させた。 導入・生産コストを低減化する ため、生葉コンテナの簡易被覆と 発酵装置での温調処理を行い、各 技術の有用性を明らかにした。	世界お茶まつり2022 にて香り緑茶の試飲を 含めた広報活動を行っ た。農研機構と連携し て「技術導入支援マニ ュアル」を作成し、本 内容を含めて東京と福 岡で情報伝達会を実施 した。香り緑茶の紹介 と技術のポイントをま とめたパンフレットを 作成・配布した。	無	(22,790) 1,500	- -	カワサキ機 工(株) 勝間田開石 茶農業協同 組合

試験研究成果一覧表

農林技術研究所茶業研究センター

(令和4年度)

区分 事業名	研究テーマ (細目) 研究内容	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究 成果	研究成果の活用 及び普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費(千円)		備考
									(4年度) 4年度	(全 体) 5年度	
マ ツ ン え 商 発 展 農 物 ラ フ 力 強 化	6. 高品質茶生産 拡大のための適 期被覆技術体系 の確立	継続	国庫	元-5	てん茶生産にお ける、被覆適期判 定技術の開発、被 覆栽培に適した肥 培・病害虫管理技 術を確立する。	センター内ほ場におけるAIに よる開葉数推定技術の精度検証 を行い予測は可能と考えられ た。 前年度同様に被覆処理区の新 芽でカンザワハダニの多発傾向 が認められたが、被覆処理直前 に薬剤散布することによって密 度を抑制できることが明らかと なった。また、もち病について は、被覆前の銅水和剤散布によ り効果的に防除できた。 地温・土壌水分等をモニタリン グし、現地ほ場の標高差による積 算地温差を明らかにした。土壌分 析によるEC実測値と無機態窒素量 は相関が認められたが、マルチセ ンサーEC値はEC実測値及び無機態 窒素量と相関が認められなかつ た。	研究会等で情報提供 を行った。 A I による開葉数推 定は、サードピス提供を メーカーと協議する。	無	(12,999)	(15,898)	農研機構果 樹茶業研究 部門・植物 防疫研究部 門
	7. 被覆茶葉を用 いた高GABA茶加 工技術の開発	新規	受託	4-6	アミノ酸含有量 が高い被覆茶葉を 用いることによ り、GABA(γ-アミ ノ酪酸)の含有量を 機能性表示が可能 なレベルまで高め た商品を開発す る。	二重被覆により、GABAの基質と なる茶葉中アミノ酸が増加する こと、茶業研究センターで開発 した香り緑茶の香气発揚処理に より、GABAが8倍程度増加する ことを明らかにした。 GABAが増加する処理条件を採 索するための自動ガス制御装置 を製作した。	受託として研究してい る内容について、委託 事業者と関係する現地 農林事務所・JAに成 果を説明する報告会を 開催した。 事業者は、当課題の 関連技術を用いて製造 した高GABA茶の試作品 について海外の展示会 に出展するとともに、 機能性表示食品として 消費者庁に届出した。	無 (被覆 茶葉を 用いた GABA茶 製造方 法は事 業者が 特許を 有 保 済)	(500)	(1,000)	
									500	500	

試験研究成果一覽表

(令和4年度)

区分 事業名	研究テーマ (細目) 研究内容	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究 成果	研究成果の活用 及び普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費(千円)		備考
									(4年度) 4年度	(全体) 5年度	
気候変動・炭素循環に配慮した持続可能な農業の推進	8. 世界市場に向けた新時代の「静岡茶アクトエィブ有機栽培技術」の開発	終了	単独	2-4	県内の茶有機栽培面積の拡大により、本県茶業の新たな振興を図るため、茶有機栽培における技術的課題の解決を行うことで、茶有機栽培の収量性・収益性を向上させる。	茶園用病害虫クリーナーの処理により、茶樹冠中の炭疽病感染源となる罹病葉を除去することにより、本病の発生を無処理の場合と比較してほぼ半減できた。また、茶園用病害虫クリーナーを導入した現地有機栽培茶園においても、本病の防除効果が確認された。牛ふん堆肥施用による無機態窒素量の増加から土壌肥沃化が確認された。一番茶から秋冬番茶までの年間の生葉収量は1,357～1,442kg/10aとなり、目標(1,050kg/10a)を上回った。茶園用病害虫クリーナー搭載型除草機を低速(0.2～0.3m/s)で走行することにより、茶園のうね間及び樹冠下の雑草を効果的に除草できた。本機による除草を2か月間隔で年4回行うことにより、各茶期摘採時期における雑草を少なく抑えられた。	得られた成果を研究会等で情報提供した。農業経営士会やJA、中遠農林事務所講習会等で情報提供を行った。令和3年度の秋冬番茶期から茶園用病害虫クリーナーの現地実証試験を開始し、令和4年度までに炭疽病防除の実証試験を延べ3か所で行った。	有 茶園用 防除装 置と茶 園用防 除方法 (静岡 県、株 式会社 寺田製 作所)	(29,997) 6,441	— —	(株)寺田製作所 静岡大学農学部
	9. 気候変動に対応した新たなチャヤ病害防除技術の確立	継続	国庫	4-6	近年、梅雨等の長雨の増加により、適期防除が困難となり、チャヤの重要な病害である炭疽病等の多発が問題となっているため、その対策を明らかにする。	二番茶1葉期と三番茶2～4葉期に、予防剤と治療剤を混用処理することにより、炭疽病を効果的に防除できた。また、これらの殺菌剤処理と茶園用病害虫クリーナーによる炭疽病葉除去を組み合わせたことにより、高い防除効果が得られた。	得られた成果を講習会等で、生産者等に情報提供する。	無	(2,610) 2,610	(7,830) 2,610	

試験研究成果一覽表

(令和4年度)

区分 事業名	研究テーマ (細目) 研究内容	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究 成果	研究成果の活用 及び普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費(千円)		備考
									(4年度) 4年度	(全体) 5年度	
気候・素環慮持能林推 動炭のにした続な業進	10. チャノミドリヒメヨコバヤの薬剤感受性と有効薬剤の選抜	継続	国庫	4-6	チャノミドリヒメヨコバヤは、品質を著しく低下させるチャヤの重要害虫である。各種薬剤の感受性低下が懸念されるため、各種農薬の感受性を明らかにし、防除効果の高い薬剤を選抜する。	年間を通してチャノミドリヒメヨコバヤの発生消長を調査し、異なる薬剤防除条件下での個体数の変動を明らかにした。 また、静岡県内2個体群のチャノミドリヒメヨコバヤについて、薬剤感受性検定を実施し、各種の各種薬剤に対する感受性を明らかにした。	得られた成果をJAの説明会や研究会等で報告提供する。	無	(2,610)	(7,830)	
	11. 新農薬実用化試験	終了	受託	4	農薬登録に必要な候補農薬の効果、被害等について明らかにする。	実用化が期待される新規殺菌剤・殺虫剤について効果、被害等に関するデータをとりまとめた。	新農薬が登録され効果的な防除法が確立された。	無	(2,064)	—	単年度事業
	12. 新農薬・新肥料及び新資材の効果確認及び使用方法の検討	終了	受託	4	新農薬、新肥料等の効果及び効果的な使用方法を明らかにする。	石灰窒等の資材、茶草等施用の効果を確認した。 茶園周辺の溜池水質の変動傾向を明らかにした。	農協等に対する防除・施肥指導(実証試験)に活用した。	無	(301)	—	単年度事業 肥料協会 食と農の推進課
	13. 茶のスマート有機栽培技術体系の開発と現地実証試験	新規	国庫	4-6	有機JAS適合資材や物理的手法等を利用した病害虫防除・土壌管理技術などを実証し、有機栽培茶園の拡大及び輸出拡大に貢献する。	現地有機栽培茶園において、茶園用病害虫クリーナーを体系処理することにより、炭疽病の発生を45%程度低減できた。 チャドクガについて、2種類の有機JAS適合資材を用いて防除効果を検証し、スピノエースフロアブルは高い防除効果があることを明らかにした。 現地有機栽培茶園における、土壌の特性(土壌化学性・物理性)を明らかにした。また、窒素無機化培養試験を実施したことで、有機質資材の窒素無機化モデル検証試験の基礎データが得られた。	委託事業の成績検討会において、成果報告を行った。	無	(2,900)	(8,700)	
									2,900	2,900	

試験研究成果一覧表

(令和4年度)

農林技術研究所果樹研究センター

区分 事業名	研究内容 (細目)	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究 成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費(千円)		備考	
									(4年度) 4年度	(全体) 5年度		
マ ス ト 業 会 に た た か る 革 命 的 技 術 開 発	1. カキのわい性 台木主幹仕立て による省力化技 術の開発	継続	単独	3-5	わい性台木の利用や 樹形改良により機械化 に向けた省力栽培体系 を構築する。	「静か台2号」台のカキ「前 川次郎」の摘果や収穫作業にお ける省力効果を検証した。 自動走行車両による施肥・収 穫・防除作業の省力化について 調査した。	成績概要書に掲載して 成果を公表するとともに 関係団体に情報を提 供した。	無	(1,473)	(2,316)		
	2. 温州みかんの双 幹樹形による栽培 管理作業の省力化技 術の開発	継続	国庫 共同	3-7	新樹形(双幹形) の省力管理技術を確 立し、双幹形による 根型仕立てと機 械、省力施肥法を導 入した省力管理体系 を構築する。	双幹形と新たな摘果方法(交 互結実)により、摘果や収穫作 業が効率化し、中腰姿勢の作業 が短縮し軽労化された。 交互結実により従来の摘果法 に比べ収量が1.3倍になった。	成績概要書に掲載して 成果を公表するとともに 関係団体に情報を提 供した。	無	(2,200)	(3,700)	農研機構果 樹茶業研究 部門他	
	3. ドロロン等の 先端技術を活用 したカンキツ管 理効率化技術の 開発	終了	国庫 共同	30-4	傾斜地のカンキツ 園におけるドロロン を活用した農薬散布 技術を開発する。	ドロロン用登録薬剤を13剤に 増加させ運用方法を確立した。 現地の急傾斜地で年間を通し た実証試験を行い、効果と効率 の有効性を明らかにした。	成績概要書に掲載して 成果を公表するとともに 関係団体に情報を提 供した。	無	(5,061)	—	農研機構果 樹茶業研究 部門他	
	4. 気候変動に対 応した超晩生温 州みかんの早期 普及とみかん産 地静岡の生産力 強化	継続	単独 共同	2-6	超晩生温州みかん の生育特性を解明 し、新たな生産体系 の早期普及を図る。 リモートセンシング とAI高効率で省に よる力的な樹体診断 技術を開発する。	各産地における超晩生温州み かん「春しずか」の生育量や果 実特性を明らかにした。 ドロロンの空撮画像から、裁 培管理の指標となる葉果比を推 定する技術を改良し、精度検証 のための現地実証を行った。	成績概要書に掲載して 成果を公表した。	有 土壤散 布用組 成物 品種登 録1件	(44,122)	14,745	(58,167)	(国)産総研 他
	5. 異常気象に対 応する落葉果樹 の新たな栽培技 術の開発	新規	単独	4-6	落葉果樹の異常気 象に対応する新たな 栽培技術を開発す る。	キウイフルーツ花粉の除菌資材 は果実生産に影響がなかった。 イチジクの10段階摘心と環状剥皮 の同時処理により収穫が早くな る傾向が認められた。	成績概要書に掲載して 成果を公表した。	無	(1,686)	(3,282)		

試験研究成果一覧表

区分 事業名	研究内容 (細目)	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費(千円)		備考	
									(4年度) 4年度	(全体) 5年度		
マ ッ ン え 商 発 る	6. 多彩で魅力あ ふれるしずおか オリジナル果樹 品種の育成と適 応性検定	継続	国庫 共同	3-7	気候変動や消費者ニ ーズに対応し、現場の 課題解決に向けた高品質な果樹品種を開発す る。	国が育成した果樹の本県での 適応性について調査し、有望系 統を確認した。 ・県で選抜したカンキツ8系 統から、有望系統を選んだ。 ・県育成のナシ新品種候補の 登録用データ収集を行った。	成績概要書に記載して 成果を公表するとともに 関係団体に情報提供し た。	品種登 録1件 (予定)	(2,317)	(3,666)	農研機構果 樹茶業研究 部 甲他	
ブ ド ラ 力 強 化	7. 地域特産果樹 における新たな 作型開発および 加工品の開発	終了	単独	2-4	新たな有望品種の 特性把握と作型を開 発する。 加工需要が高い地 域特産果樹を用いた 加工品を開発する。	短日処理に環状剥皮を加える とブルーベリー収穫時期がさら に前進することが分かった。 ・加工用青切りミカンの効率 的な剥皮条件を明らかにし、試 作品の提供を行った。	成績概要書に記載して 成果を公表するとともに 関係機関、企業等に情報 提供した。	有 青切りミ カンの剥 皮法	(1,911)	—	—	—
変 候 動 炭 の に し 続 な 業 進	8. カンキツ害虫 の薬剤抵抗性管 理体系の確立	継続	国庫	3-5	害虫の薬剤感受性を 把握し効果的な薬剤の 使用体系を確立する。 また、抵抗性害虫を農 薬以外で管理する技術 を開発する。	ミカンハダニの薬剤抵抗性個 体群が薬剤感受性を回復するメ カニズムを明らかにした。 土着天敵によるミカンサビダ ニとミカンハダニの同時防除効 果を確認した。	成績概要書に記載して 成果を公表するとともに 関係団体に情報提供し た。	無	(706)	(849)	—	—
推 進	9. 温州萎縮病の 耐病性台木育成 による被害軽減 技術の開発	終了	単独	30-4	耐病性台木を利用 した温州萎縮病被害 軽減技術を開発す る。	選抜した耐病性台木を使った 温州みかんの生育特性と果実品 質を明らかにした。 耐病性台木系統のうち種子繁 殖に適した系統を選抜し、台木 用種子を効率的に得る花粉親品 種を明らかにした。	成績概要書に掲載して 成果を公表した。	無	(3,176)	—	—	—
	10. 生育調節及び 病害虫防除等新 資材の開発	終了	受託	4	新しい植物生育調節 剤、病害虫防除剤、肥 料等の特性解明と利用 法を開発する。	委託を受けた開発中の薬剤や 肥料、資材等の効果試験を実施 し、効果や被害等を確認した。	日本植物防疫協会、県肥 料協会、J A 等に試験結果 を提供し、農薬登録や新資 材の利用推進に資する。	無	(3,741)	—	—	—

試験研究成果一覧表

(令和4年度)

区分 事業名	研究内容 (細目)	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究 成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費(千円)		備考
									(4年度) 4年度	(全体) 5年度	
マ ス ト 業 会 に た た か す の 革 新 的 技 術 開 発	1. カーネーション、マーガレットの高収益化のための光照射技術等の開発	継続	受託	3-5	伊豆特産花きであるカーネーション、マーガレットにおける生産性向上に向けた光照射技術を開発する。	カーネーション、マーガレットのLED光源を用いた波長、時間等の違いが生育促進や開花に及ぼす影響を明らかにした。 カーネーションの日没後昇温処理、マーガレットの赤色LED光源を用いた長日処理について現地での効果を実証した。	LEDを用いた光照射技術について、カーネーションでは現地3件で実証ほを設置、マーガレットでは現地5件に導入された。	無	(3,835)	(4,728)	花き生産 供給力強 化協議会
ゲ イ ト に る 新 開 業 品 に よ り 岡 産 ブ ド ラ 力 強 化	2. 多様な販売形態に活用できる果樹新品種の育成・選抜と早期成園化技術の開発	継続	国庫	3-7	観光地である伊豆地域で多様な販売に活用できる果樹の新品種を育成・選抜するとともに、産地化を加速するための早期成園化技術を開発する。	広島県で育成したカンキツ新品種「瑞季」について、かんよう病の発生が少なく、大果であることを明らかにした。また、「瑞季」はマルドリ栽培により定植後の苗木の生育が促進され、樹勢が早まることを明らかにした。 フィンガーライム系統における開花時期と結実率の関係を明らかにした。	「瑞季」「汐里」の研究成果について共同研究機関と共有するとともに、JAふじ伊豆カンキツ関連部会において情報提供した。また、普及促進のため「瑞季」「汐里」の現地栽培実証ほを設置した。	無	(4,225)	(6,825)	京都大学・ 広島県・宮 崎県・高知 県 他
	3. 伊豆特産花きの新品種育成と特性解明	継続	単独	3-7	耐暑性に優れたマーガレット品種とオマリナル性に優れた新品目を育成するとともに、キンギョウ新品種などの伊豆特産花きの特性を解明する。	鉢物用新品目「伊豆48号」、 「伊豆50号」(マーガレット×ローダンセマム)、「伊豆49号」(マーガレット×ローマンカモミール)を育成した。 キク×ローダンセマム、マーガレット×イワコマギク、マーガレット×サントリナの交雑が可能なることを世界で初めて明らかにした。	「伊豆48～50号」は、生産者団体から栽培希望があるため、品種登録出願を検討している。 新規に交雑を行った品目について、論文を投稿(採択1報、投稿中1報)、有望系統は現地適応性を調査し、生産現場への普及を目指す。	有 品種 登録	(3,125)	(4,502)	
									713	1,377	

試験研究成果一覧表 (令和4年度)

農林技術研究所伊豆農業研究センター

区分 事業名	研究テーマ (細目) 研究内容	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究 成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費(千円)		備考
									(4年度) 4年度	(全体) 5年度	
ケイトンえんしょう農産物ラフ力強化	4. 安定生産に向けたワサビF1品種の育成と特性解明	継続	単独	3-7	本県が多様な水系の栽培環境に適性があり、安定して生産できるワサビ種子繁殖性F1品種を育成する。	ワサビの市販系統等について、生育特性と合わせて花茎発生時期および発生数の系統間差を明らかにし、今後のF1育種における中間母本として交配の容易な系統を抽出した。	F1品種の育種方法について、生産者団体に説明を行い、育種素材の提供への協力を呼びかけた。 新たに交配したF1系統について、次年度以降に現地わさび田において栽培実証試験を実施する。	有 品種 登録	(3,610) 810	(4,561) 951	
ブドウ	5. チャ・イチゴ世代戦略品種育成に向けた「スマート育種」システムの構築	新規	単独	4-8	ワサビのゲノム情報や農業形質等のビッグデータ解析を基盤とした「スマート育種」システムを構築し、オーダーメイドで短期間の品種育成を目指す。	ワサビ50系統のゲノムを解析し、昨年度と合わせて合計100系統の解析を終了した。 ワサビの耐暑性、根こぶ病耐性および雄性不稔性の系統を育成するため、F1・3系統の栽培試験およびF1に戻し交配したB1・3系統の採種を実施した。	解析したゲノム情報については、来年度以降系統樹の作成により、幅広い育種の材料とする。 耐暑性などの下等田での適応が期待できる系統について、現地実証を進めていく。	無	(3,367) 3,367	(6,026) 2,659	
	6. 伊豆特産ヒュウガナツの生産力強化に向けた園地若返りおよび高品質安定生産技術の開発	継続	単独	3-5	在来ヒュウガナツの低樹高化による作業改善を図るとともに、「古山ニューサマー」の高品質栽培技術を開発することで、伊豆特産果樹の生産力を強化する。	ヒュウガナツのカットバック処理2年後の生育を明らかにした。また、樹容積あたりの収量、剪定および収穫作業時間を調査し、処理の効果を明らかにした。 「古山ニューサマー」における4年生初結実での適正葉果比を明らかにした。また、肥大曲線を作成し、摘果する果実の目安を明らかにするとともに、4月上旬収穫により6月下旬まで貯蔵可能なことを明らかにした。	新規に苗木を定植する場合との生育、作業労力およびコストを経年で比較し、作業管理法を含むマニユアルを作成して現地への普及を図る。 在来ヒュウガナツの代替品種として、「古山ニューサマー」の産地への導入が進み、栽培面積は5.2haまで増加した。	無	(2,676) 756	(3,581) 905	

試験研究成果一覧表

(令和4年度)

区分 事業名	研究内容 (細目)	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究 成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費(千円)		備考
									(4年度) 4年度	(全体) 5年度	
マ ッ ン え 商 発 る 農 物 ラ 力 強 化	7. カワゾクザクラ 切り枝等伊豆特 産作物の生産加 工技術の開発	終了	単独	2-4	カワゾクザクラ切り枝 の商品化に向け、専用 ほ場の早期成園化を可 能とする着書促進技術 を開発する。また、収 益を増加させるため、 切り枝品質の向上や、 副産物の利用に必要な 技術開発を行う。	ジョイント仕立てと環状はく皮 の組合せにより、切り枝専用圃場 の早期成園化が可能であることを 明らかにした。 切り枝出荷可能な花芽分化時期 を明らかにし、花芽分化と休眠覚 醒に至る計算式を算出した。 食用の汎用資材(上白糖、クエン 酸、食用乳化剤)を用いた開花促 進液を開発し、市販の開花促進液 と同等の効果があつたことを明らか にした。コストは市販開花液の1/5 である目標額6円/枝より安価な3.3 円/枝を達成した。	河津町および南伊豆町に おいて切り枝用ほ場が3か 所35a設置された。 南伊豆町のカワゾクザクラ 切り枝専用ほ場では、切り 枝の出荷が開始された 切り枝生産の担い手支援 に向け、河津桜切り枝生産研 究会を発足させ、賀茂農林 事務所とともに、生産3団 体を対象に研修会を開催し た。	無	(1,386)	-	
	8. フサビの高温 期育苗安定化技 術と効果的育苗 管理体系の確立	新規	単独	4-6	夏季高温期におけ る育苗を可能にする 技術開発および効果 的な肥培管理と病害 虫防除による効率的 な育苗管理体系を確 立する。	夏季実生育苗における水冷式培 土冷却装置の有用性を確認した。 また、実生苗を7月に山上げる リレー育苗により苗の10月出荷が 可能なことを明らかにした。 二次増殖育苗における親株へ の窒素施用量は150mg/株/月以上が 適正であることを明らかにした。	リレー育苗の研究成果を 踏まえ、県内実生産者組織 が、R5年度夏季育苗の受 託を開始する。 うどん粉病の紫外線照射 防除技術の論文を学術誌に 投稿した。次年度から現地 実証試験を実施する	無	(800)	(1,600)	
	9. 世界農業遺産 「静岡水わさび 」の栽培環境を 後世に伝える 〜わさび田の水 環境のモニタリ ングで環境保全	新規	単独	4	温暖化など環境の 変化がワサビ栽培に 与える影響を確認す るため、水環境の継 続調査および生育に 及ぼす影響を調査す る。	伊豆市内の2カ所のわさび田に 水温を測定する記録型温度計、ま た水位を観察するためのタイムラ プスカメラを設置し、水温および 水位を観測した結果、河川水では 湧水に比べ、水温が周りの環境に 影響されやすく変動が大きいく ことを明らかにした。	クラウドファンディング の成果発表会やオンライン カフェ等で、調査結果を支 援者に情報提供した。 伊豆農業研究センターの ホームページ内に結果を紹 介するページを作成し、幅 広く情報提供を行っている	無	(767)	-	
									800	800	

試験研究成果一覽表

(令和4年度)

林技術研究所森林・林業研究センター

区分 事業名	研究 テ ー マ (細 目) 研 究 内 容	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期 間	研究目的 背景等	研究 成 果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費(千円)		備考	
									(4年度末) 4年度	(全 体) 5年度		
マ ス ト 業 会 に た た め の 技 術 開 発	1. 形質的に優れたスギ・ヒノキ苗木を育成するための種子生産に関する研究	新規	単独 共同	3-7	特定苗木の初期成長等を調査し、形質的に優れた系統を選抜するとともに、採種園におけるヒノキの着花促進技術を開発する。	ヒノキの花芽数は8月から9月に大きく増加した。雄花数も年度に続き寒冷紗による閉鎖期間が長いほど多くなる傾向が確認されたが、その後の生存率は閉鎖期間が短いほど高かった。6月上旬に寒冷紗による閉鎖をすると、花芽数、その後の生存率共に下がることが分かった。	県森林整備課及び西部農林事務所の情報提供を行い、育種場における採種事業の効率化に役立っている。	無	(646)	(866)	科研費(静岡県) 静岡大学 東海国立大学機構	
	2. 低コスト育林体系技術の構築に関する研究	終了	単独 共同	30-4	エリートツリー候補木等の育成、短期間コンテナ育苗技術の開発、低密度植栽の育林方法を検討し、総合的な低コスト再造林・育林の体系を構築する。	初期成長に優れるエリートツリー候補木等の評価をした。スギおよびヒノキのコンテナ育苗において、通常の半分程度の元肥量で育成した場合、スギはグルタチオンによる成長促進効果が認められた。	国有林で開催した現地検討会等で、優良候補木に関する説明を行った。ヒノキ実生コンテナ苗に関する成果は、山林種苗協同組合連合会等に情報提供した。	無	(20,396)	—	(独) 森林総合研究所 (林木育種センター、(一社) 全国林業改良普及協会)	
	3. 花粉症に朗報、花粉の出ないスギの新品種開発と特性評価	終了	単独	4	林地へ植栽した無花粉スギの特性評価を行い、新たな優良品種を開発するとともに、これまでが開発した優良品種等の苗木生産を実施する。	無花粉スギを作出し、初期成長を中心にこれららの評価を進め、2022年11月に評価委員会から無花粉スギ「三月晴不稔3号」が花粉症対策品種として評価された。	新たに開発した無花粉品種をHPやSNS上で広く公表している。	無	(969)	—		
	4. 効率的な主伐作業システムのモデル構築に関する研究	継続	国庫	2-5	主伐作業の生産性の把握や現行の作業システムの状況を整理し、最適な作業システムのモデルを検討する。	県内45か所の主伐の事例を分析したところ、平均労働生産性は車両系作業システムの現場で10.4m ³ /人日、車両系作業システムの現場で3.2m ³ /人日であった。車両系作業において、傾斜と労働生産性の関係を図1に示す。労働生産性は傾斜と負の相関があった。	「低コスト主伐・再造林手引き」として森林・林業局HP上で公表している。	無	(871)	(1,221)		
										330	350	

試験研究成果一覧表

(令和4年度)

農林技術研究所森林・林業研究センター

区分 事業名	研究内容 (細目) 研究内容	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究 成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費(千円)		備考	
									(4年度) 4年度	(全 体) 5年度		
マ ス ト 業 会 に た た か ぶ の 技 術 開 発	5. 林業現場の作業モニタリング技術の開発	継続	国庫 共同	3-5	林業現場の作業員が腕に付けたスマートウォッチのセンサーからデータを取得・解析することで、作業状況や健康状態を判別する技術を開発する。	伐倒、植栽、地持の各作業について、連続ウェアレブレット変換の結果を利用して機械学習を用いた作業識別を試行した。高精度で作業識別が行え、ウェアレブレット変換による特許量の抽出が有効であった。本技術の適用により、自動での作業判別が可能と考えられる。	情報誌や学会等で成果の発表を行っている。	無	(560)	(918)	鹿児島大学 浜松医科大学 BIPROGY(株)	
マ ッ ン え 商 発 る 農 物 ラ ン 力 強 化	6. 静岡県産シイタケ等の付加価値向上技術の開発 7. 県内木材資源を活用した非住宅等のJAS製品加工利用技術の開発	新規	国庫	4-8	生シイタケ輸送時の品質低下要因を解明し、低コストかつ簡易な方法による生シイタケの鮮度保持技術を開発する。	生シイタケの鮮度は、保存温度に影響を受け、温度が高いほど新鮮度減少率が低くなり、品質が低下する傾向があった。2℃での保存が、硬さ、色を保ち高品質を保つことができた。二酸化炭素の注入は、保存による傘の硬さの低下を減少させた。	結果を県内に公開し説明会を行なった	無	(280)	(508)		
		継続	単独 共同	3-5	中・大径材の含水率を15~20%に仕上げる乾燥手法や構造材としての製品化に向けた木取り方法など効率的なJAS製品の製造方法を解明する。	高周波電磁波およびガンマ線による製材段階での乾燥選別の検討を行った結果、スギ平角のガンマ線検出数とみかけの密度および含水率は高い相関関係にあった。また、厚さによる補正は、数式を用いて推定が可能であることが明らかになった。	研究成果は、製材業者等を対象とした講習会や現地指導等で情報提供した。	無	(1,512)	(2,282)	(株)ノダ	
	8. スマートフォン型測定器による簡易的な丸太のヤング係数および製材の含水率変動測定方法の開発	終了	単独	4	高次の固有振動数測定等により、積んだ状態の丸太のヤング係数と製材の含水率変動を評価する技術の開発し、スマホ型測定器の計測アプリへ機能追加を進める。	ヤング係数測定で主に検査で計測される1次固有振動数ではなく、高次の固有振動数測定等により、積んだ状態の丸太のヤング係数と製材の含水率変動を評価する技術を開発し、スマホ型測定器の計測アプリへ機能追加した。	木材乾燥の効率化が図れる技術として、研修会で木材事業者等に情報提供した。	無	(1,000)	-		
										770	-	
										1,000	-	

試験研究成果一覽表

(令和4年度)

農林技術研究所森林・林業研究センター

区分 事業名	研究(細目)内容	終了継続新規廃止の別	国庫受託単独共同の別	研究期間	研究目的背景等	研究成果	研究成果の活用普及等の状況	特許等帰属の有無及び内容	事業費(千円)		備考
									(4年度)	(全体)5年度	
気候変動・炭素の環境配慮した持続可能な農業の推進	9. カーボンニュートラルの実現に向けた新たな森林経営モデルの開発～早生樹による荒廃農地等の活用～	新規	単独	4-6	「早生樹」による新しい森林経営モデルを開発するため、合板製造事業者等と連携し、利用目的に応じた最適な樹種を選定し、育林技術の開発を行う。	テータマツ、スラッシュマツ、コウヨウザンを使った合板の最小曲げヤング係数は、12mm 2 縦構造用合板の基準値を満たしていた。 テータマツの発芽率及びその後の成長には光環境の影響が大きく、天然更新には地表に光が入る場所で成立する可能性があると考えられた。	研究成果は、林業事業者等を対象とした講習会や現地指導等で情報提供した。	無	(7,596)	(18,629)	
	10. シイタケ栽培等における新たな害虫の対策に関する研究	終了	単独	30-4	シイタケ栽培上、これまで知られていなかった害虫が多く発生するようになってきたことから、既知の害虫も含め、生態解明を行い、防除対策を開発する。	原木シイタケの害虫ナカモナミキノコバエ、菌床シイタケの害虫ナガマドキノコバエの生態を解明し、防除技術を開発した。前者は早期の収穫や夜間の照明による産卵阻害、後者は朝方1時間/日の散水がそれぞれ防除に有効である可能性が示された。	得られた知見を、出前講座や現地指導等において、シイタケ生産者に対して情報提供している。	無	(3,425)	—	
	11. 健全な海岸防災林のための生育環境整備技術の開発	継続	単独	元-5	山土盛土における海岸防災林の大規模な植栽事例はこれまでほとんど無いため、健全な海岸防災林に誘導していくための管理手法を遠州灘海岸環境を踏まえて検討する。	植生基盤盛土の陸側法面におけるクロマツ植栽4年後の生存率は1,500本/ha、3,000本/ha、5,000本/haのいずれにおいても9割程度であり、植栽密度を下げて植栽4年後までにおける成育は特に支障なかった。	県森林保全課及び海岸防災林の管理を担っている農林事務所に情報提供を行っている。	無	(3,186)	(3,296)	
	12. メスジカ捕獲効率向上のための行動解析と餌誘引捕獲方法の改善	新規	単独	4-6	GPS首輪により取得した位置情報から、メスの行動圏と環境要因との関係性をGISで分析し、メスの行動圏を予測、現地検証し、可視化情報(マップ)を作成する。	行動追跡した位置情報から、伊豆地域のメスジカは餌資源が豊富と考えられる河川敷、道路沿縁、別荘地、ゴルフ場を主に利用していた。捕獲場所は道路から100m以内で集中し捕獲者が捕獲しやすい場所であるためと考えられた。	成獣メス捕獲割合向上に繋がる技術として確立し研修会等で情報提供を行う。	無	(330)	(650)	
									7,596	11,033	
									230	—	
									160	110	
									330	320	

試験研究成果一覧表

農林技術研究所森林・林業研究センター

区分 事業名	研究内容 (細目)	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究 成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	特許等 帰属の 有無及 び内容	事業費(千円)		備考
									(4年度) 4年度	(全体) 5年度	
気候・脱炭素等の環境配慮した持続可能な農業の推進	13. 新植地で食害するノウサギの対策に関する研究	継続	単独	3-5	新植地におけるノウサギ食害実態の把握、発生要因の解明と、ノウサギ侵入防止にも有効な総合防護柵の規格を検証する。また、捕獲方法も検証する。	植栽木の地上高おおむね74cmまでは、ノウサギの食害リスクが高いと推察される。ノウサギによるスギ主軸切断は、おおむね直径9.2mmまでの主軸で発生すると推察される。	引き続き試験データを集積した上で、錯誤捕獲対策等について日本生態学会、日本森林学会等で発表するとともに、捕獲作業の効率化につながる技術として確立し、研究会等で普及していく。	無	(1,731)	(1,951)	
	14. 農地における既存のイノシシ用電気柵を活用したシカ・イノシシ併用侵入防止柵の研究	新規	単独	4-6	シカの目撃・被害報告が増加している三ヶ日のミカン農園で生息状況を調査し、既存のイノシシ用電気柵を活用した新たなイノシシ・シカ併用柵を検証する。	三ヶ日町有害駆除対策協議会に調査を行った結果、シカの生息範囲が広がっていることが推察された他、その目撃や被害は林縁に集中していることが分かった。	三ヶ日町有害駆除対策協議会に情報提供している。	無	(207)	(400)	
									207	198	